クボタトラクタ

取扱説明書

A-30

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

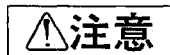
操作位置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され、お買上げの製品が秀れた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。
また、お読みになった後必ず大切に保存し、分からないことがあったときには取出してお読みください。なお、製品の仕様変更などにより、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です、必ずお読みいただき指示に従ってください。

表示	内容
⚠危険	**指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの**
⚠警告	**指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの**
⚠注意	**指示に従わないと、傷害を受ける可能性のあるもの**

その他の表示

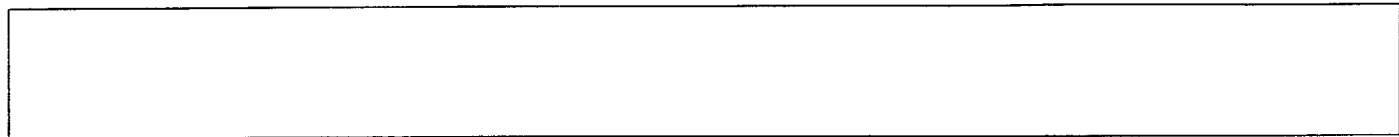
表示	内容
取扱いのポイント	**指示に従わないと、本機やその他の所有物が損傷する可能性があるもの**

この取扱説明書は
・作業をするときは、必ず携帯してください。
・トラクタを貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

6H010-6252-1

目　次

安全作業のお願い …… 5
安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう …… 6
安全ラベル …… 25
小型特殊自動車について …… 27
車台番号とエンジン番号 …… 28
各部の名称と取扱いをおぼえましょう …… 29
コンビネーションメータ …… 30
1．燃料計 …… 30
2．方向指示器表示灯 …… 30
3．予熱表示灯 …… 30
4．充電警告灯 …… 31
5．エンジンオイル警告灯 …… 31
6．水温警告灯／警告ブザー …… 31
走行装置 …… 32
1．エンジンスイッチ …… 33
2．エンジンストップノブ …… 33
3．駐車ブレーキ警報ブザー …… 34
4．方向指示器スイッチ …… 34
5．前照灯スイッチ …… 34
6．警音器(ホーン)スイッチ …… 34
7．エンジン回転調整レバーとアクセル ペダル …… 35
8．バックミラー …… 35
9．駐車ブレーキ レバー …… 36
10．ブレーキ ペダル …… 36
11．デフロック ペダル …… 37
12．クラッチ ペダル …… 38
13．主変速レバー、副変速レバー …… 38
14．けん引ヒッチ(別途購入品) …… 39
作業機操作装置 …… 40
1．リフト レバー …… 40
2．下降速度調整ノブ …… 42
3．P.T.O軸カバー …… 43
4．P.T.O変速レバー …… 43
運転する前に点検しましょう …… 44
・トラクタの回りを歩いて …… 44
・ボンネットを開けて …… 44
・運転席に座って …… 45
・ボンネットの開けかた、閉めかた …… 46
1．タイヤの空気圧、亀裂、損傷、締付ボルト、ナットのゆるみ点検 …… 46
2．エンジンオイルの点検 …… 47
3．空気清浄器(エアクリーナ)・バキュエータバルブの点検 …… 48

4．ラジエータ(冷却水)の点検 ……49
5．燃料ろ過器(フューエルフィルタ)の点検 ……50
6．ファンベルトの点検 ……50
7．ハンドルの遊び、ガタの点検 ……51
8．コラムスクリーンの点検 ……51
9．クラッチペダルの遊びの点検 ……51
10．ブレーキペダル遊び、ブレーキ摩耗限界の点検 ……52
11．燃料の点検 ……53
12．燃料のエア抜きのしかた ……54
13．駐車ブレーキ、警報ブザーの点検 ……55
14．油圧系オイルの点検 ……55
15．バッテリ液の点検 ……56
16．電装品の点検 ……56
17．シートの位置調整 ……56
運転のしかた ……57
エンジンのかけかた ……57
暖機運転とならし運転 ……59
発進・走行のしかた ……60
停車・エンジン停止のしかた ……62
旋回のしかた ……64
坂道での運転のしかた ……65
圃場への出入り時の注意 ……66
公道走行時の注意 ……67
運搬・保管のしかた ……68
運搬(トラックへの積込み、積降ろし) ……68
ロープ、タイダウンベルトのかけかた ……69
使用後の手入れ ……69
長期間使用しない場合の手入れ ……70
定期手入れを行いましょう ……71
携帯工具 ……71
定期点検表 ……72
やさしい点検・整備 ……74
安全装置機構の点検 ……74
駐車ブレーキの警告ブザーの点検 ……74
クラッチスイッチの点検 ……74
エンジンオイルの交換 ……75
燃料ろ過器(フューエルフィルタ)の清掃、エレメントの交換 ……76
変速機オイルの点検 ……77
ブレーキペダルの調整 ……78
ラジエータスクリーン・コラムスクリーンの清掃 ……79

空気清浄器(エアクリーナ)・バキュエータバルブの清掃・交換 ……………80
バッテリ液量、端子の点検 ……………………………………………………82
ヒューズの交換 …………………………………………………………………85
ヘッドライトバルブの交換 ……………………………………………………86
各部のゆるみ点検、増締め、各部のグリス塗布 ……………………………87
故障のときは ……………………………………………………………………88
故障の修理 ………………………………………………………………………89
主要諸元 …………………………………………………………………………90
推奨オイル・グリース一覧表 …………………………………………………92

安　全　作　業　の　お　願　い

本機を運転する前に本書をよくお読みいただき、充分理解してからご使用ください。
本書の中に安全に関する項目を「安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう」（6～24頁）に記載しています。また本文中に⚠**警告**、⚠**注意**としてそのつど取りあげています。

・本機や作業機に貼ってある警告表示ラベルをよくお読みになり警告に従ってください。
・本機を他の人に貸す場合は、この「取扱説明書」をよく読んでいただくようご指導ください。また取扱いの方法や安全に関する項目を説明してください。

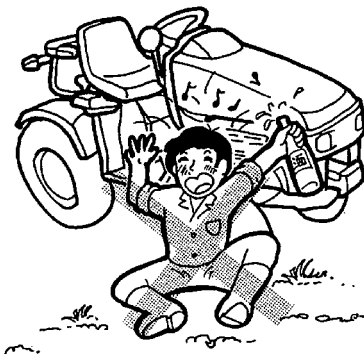
安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

・イラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

1.一般的な注意項目

こんな人は、運転をやめましょう

・病気や薬物の影響、その他の理由で正常な運転のできない人

・酒気をおびた人

・子供
・未熟練者

・妊娠している人

作業に合った服装をしていますか

<正しい服装>

ヘルメット

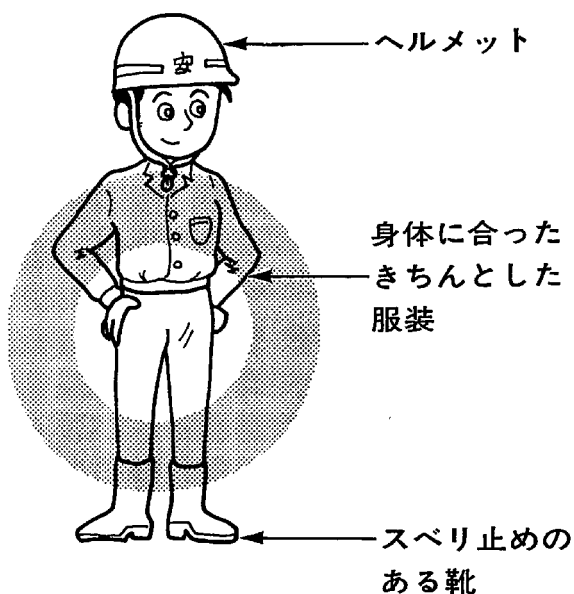
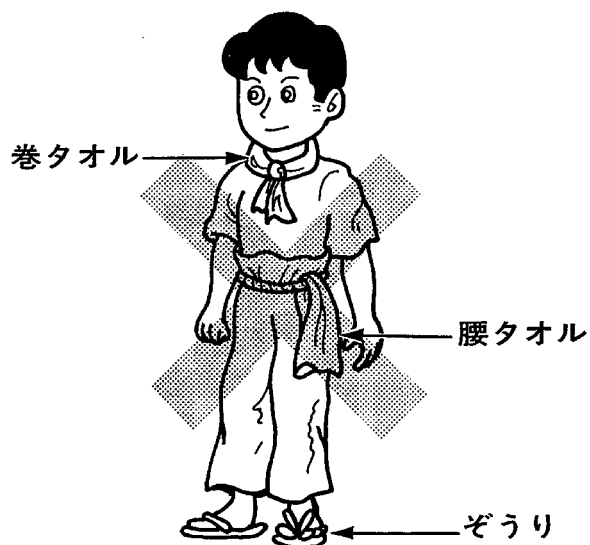
身体に合ったきちんとした服装

スベリ止めのある靴

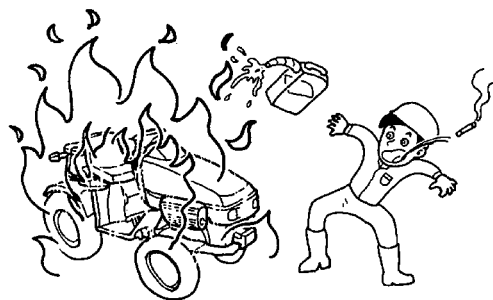
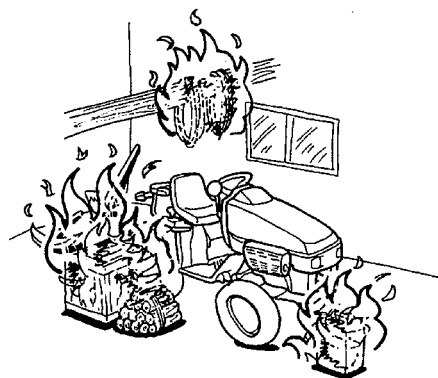
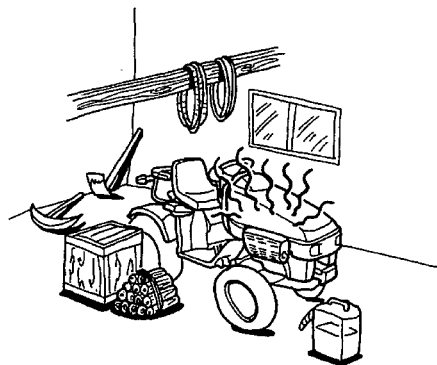
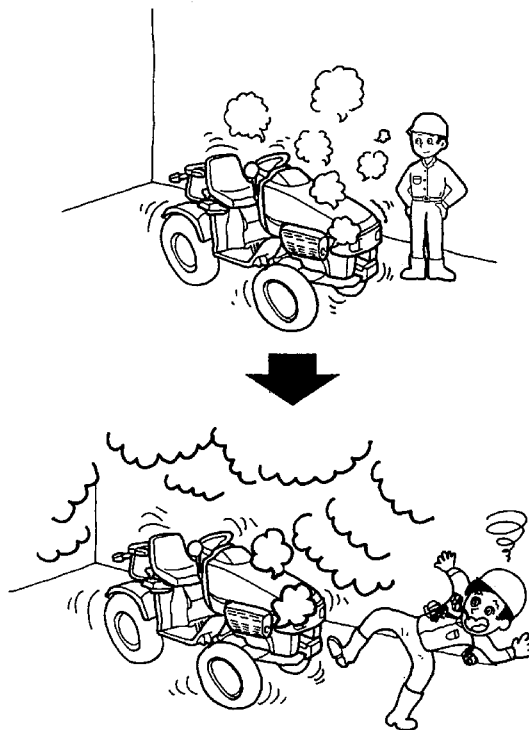
<悪い例>

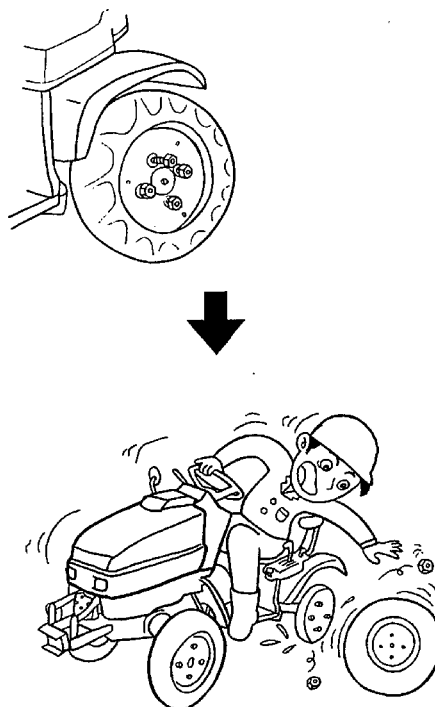
巻タオル

腰タオル

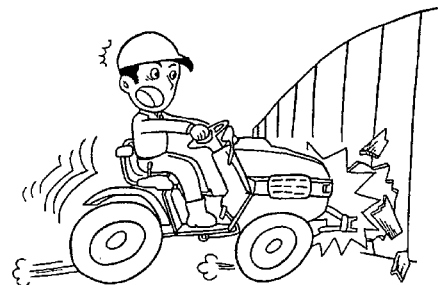
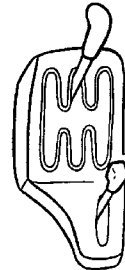
ぞうり

必要に応じて、安全靴、保護めがねや手袋などを着用してください。

安全にお使いいただくために　これだけは必ず守りましょう

<table>
<tr><th colspan="2">火災に注意しましょう</th></tr>
<tr><th>必ず守りましょう</th><th>こうなる前に!!</th></tr>
<tr><td>●ディーゼル用燃料は、引火しやすく、火災を引き起こすことがあります。
燃料の補給は、
・エンジンを停止してください。
・火気を近づけないでください。
・燃料はこぼさないように入れてください。万一、こぼしたら布きれなどで完全にふきとり、火災や環境に注意して処分してください。</td><td>
</td></tr>
<tr><td>●運転中や停止直後のエンジンは熱くなっています。
・エンジン、マフラ、燃料タンクの周辺はきれいに清掃しておいてください。
・燃えやすい物の近くにトラクタを止めないでください。
・シート カバーはエンジンが冷えてからかけてください。</td><td></td></tr>
</table>

排気ガスに注意しましょう	
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●排気ガスの中には有害な一酸化炭素が含まれています。 ・換気の悪い場所ではトラクタを運転しないでください。	

2.運転する前の点検

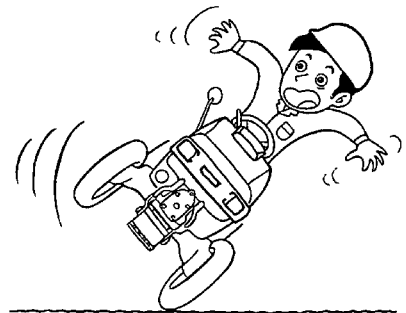
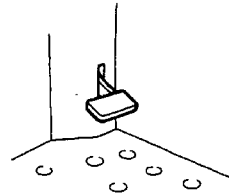
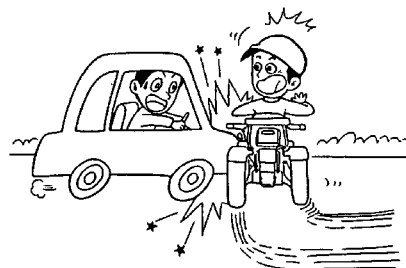
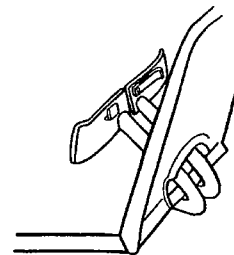
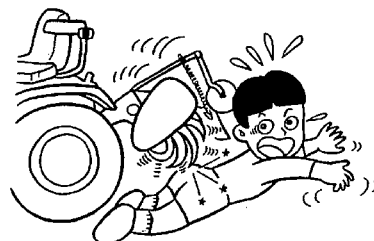
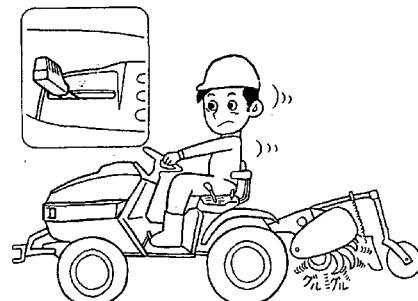
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●点検する時は、必ずエンジンを停止し、エンジンスイッチキーを外してください。 ●取扱説明書に従って各部の点検を行ってください。(44頁参照) ●各部の締付を確認してください。足廻りの締付ボルトやナットを1つ1つ確認して、もしゆるんでいたら直ちに締付けてください。 ●ブレーキペダルは左右セット(連結)してください。	各部の締付け確認は

安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

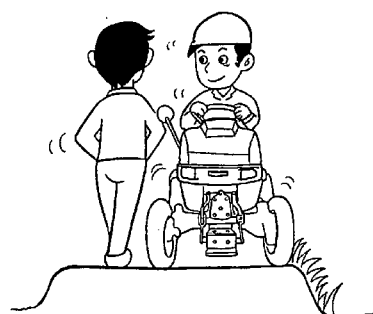
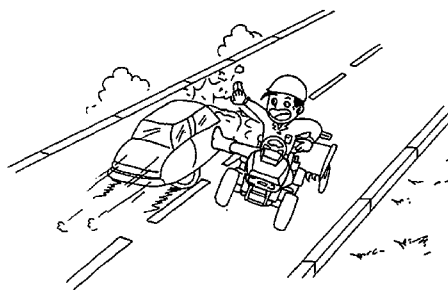
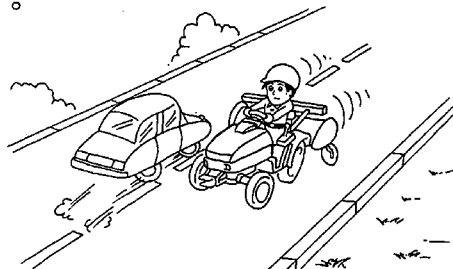
3.エンジンの始動

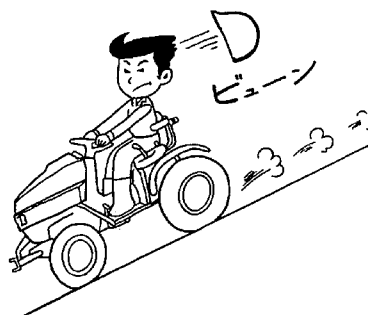
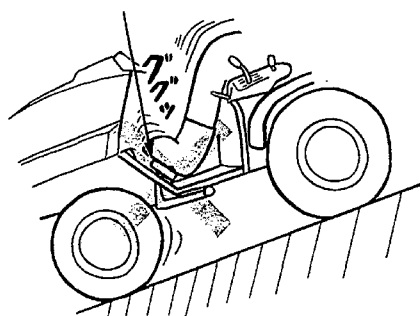
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●必ず運転席に座って始動してください。 ●周囲の安全を確認してください。 ●主変速、P.T.Oレバーを〝中立〟にして、クラッチペダルを踏み込んでエンジンを始動してください。	レバー類は〝中立〟の位置になっていますか

4.発進・走行

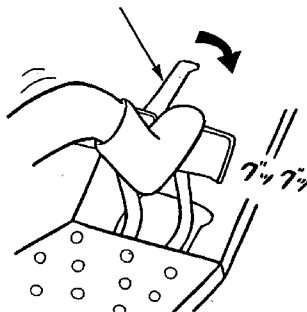
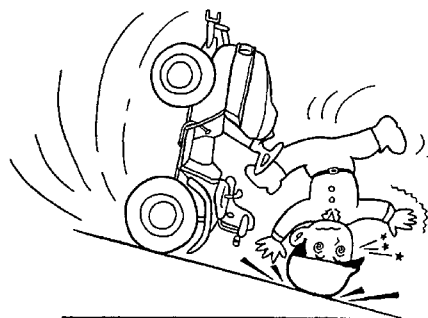
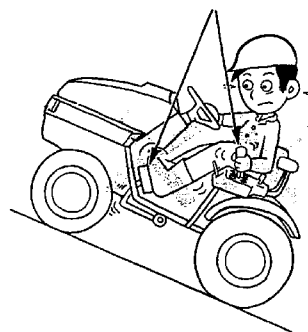
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●乗員定員は1名です。運転者以外の人や物を絶対に乗せないでください。	乗員定員は1名です

⚠ 安全にお使いいただくために　これだけは必ず守りましょう

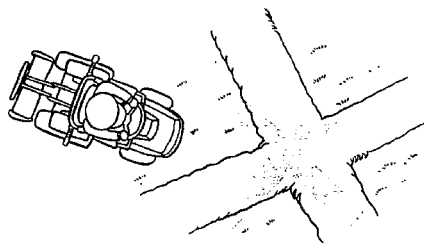
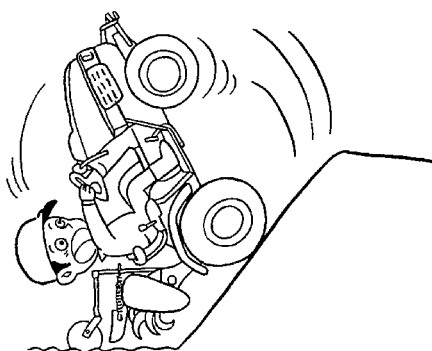
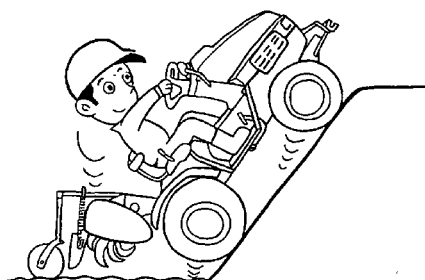
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●デフロックが解除されているか、必ず確認してください。 〔デフロックの解除確認方法〕 1.左・右どちらかのブレーキペダルを踏んでください。踏んだ側の後輪が停止すれば解除しています。 2.解除しにくい場合は、クラッチペダルを踏んで、ブレーキペダルを左・右交互に軽く踏んでください。(強く踏むと故障の原因になります。)	デフロックは解除しましたか

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●ブレーキペダルの左・右をセット(連結)してください。	ブレーキペダルはセット(連結)してありますか

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●発進する前に、必ずP.T.O軸変速レバーを〝中立〟にしてください。 ●発進するときは、エンジン回転を下げて、クラッチをゆっくり離して、スムーズに発進してください。	P.T.Oレバーは〝中立〟になっていますか

5.道路走行

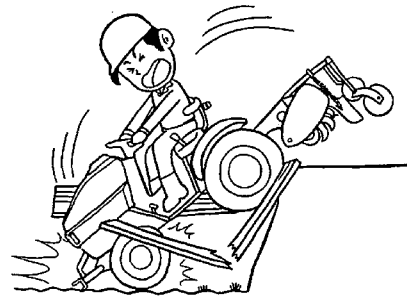
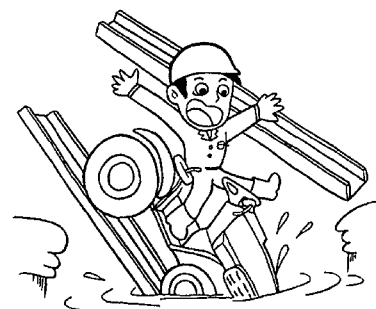
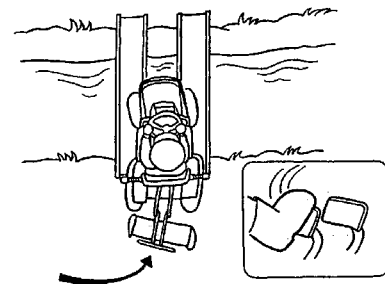
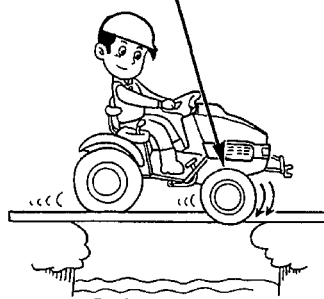
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●デフロックが解除されているか、必ず確認してください。その後、ブレーキペダルの左・右をセット(連結)してください。 ●免許証を携帯し、交通法規を守ってください。 ●道路状況を確認し、路肩に注意して走行してください。 路面の状況が良くわからないときは、本機から降りて良く確認しましょう。 ●低速車線を走行してください。 ●エンジン回転調整レバーを〝低〟の位置にして、アクセルペダルで走行してください。 ●急発進・急停止・急旋回は避けてください。	路肩に注意してますか

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●作業機やトレーラをつけたまま公道を走行することは法律で禁じられています。作業機をつけたまま公道を移動する場合は、トラックに積んで運搬してください。	作業機をつけたまま、公道を走行していませんか。

6.下り坂

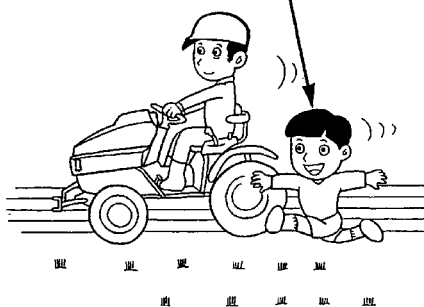
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●デフロックが解除されているか、必ず確認してください。その後、ブレーキペダルの左・右をセット(連結)してください。 ●坂の手前でいったん停止して、エンジン回転調整レバーを〝低〟の位置にし、主変速レバーを低速にしてから、エンジンブレーキを使って坂を下ってください。 ●坂の途中でクラッチを切ったり、変速操作をしないでください。 ●むやみに急ブレーキをかけないでください。	クラッチは切らない

7.登り坂

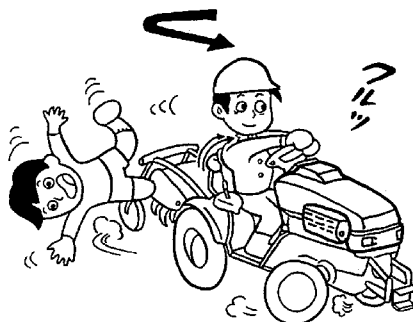
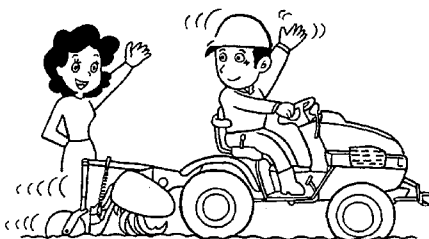
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●デフロックが解除されているか、必ず確認してください。その後、ブレーキペダルの左・右をセット(連結)してください。 ●坂の手前でいったん本機を止めて、主変速レバーを低速に入れ、クラッチペダルを静かに離してください。 ●急発進はしないでください。	ブレーキペダルはセット(連結)してありますか

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●坂の途中では絶対にクラッチを切らないでください。	途中でクラッチを切らない

安全にお使いいただくために　これだけは必ず守りましょう

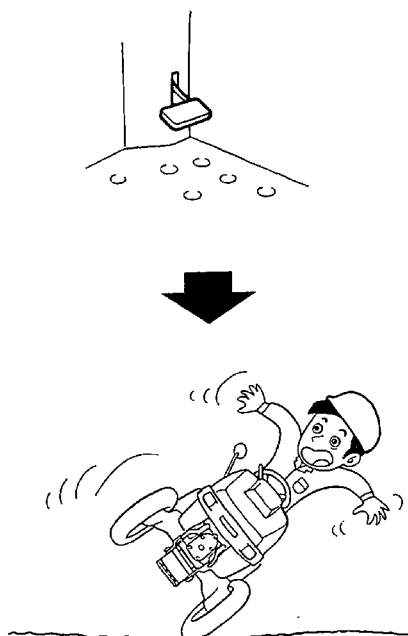
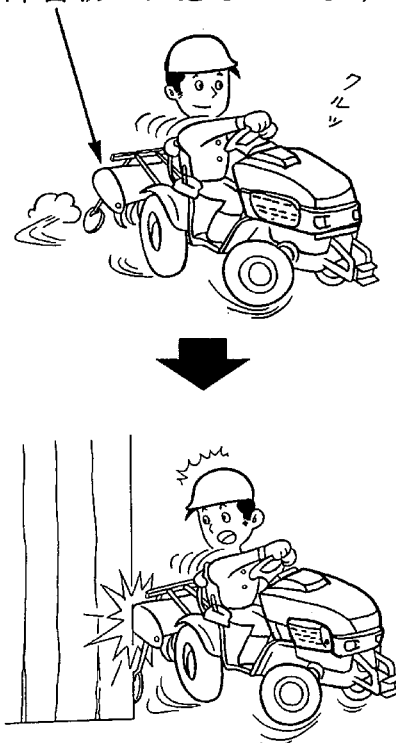
8.圃場への出入り

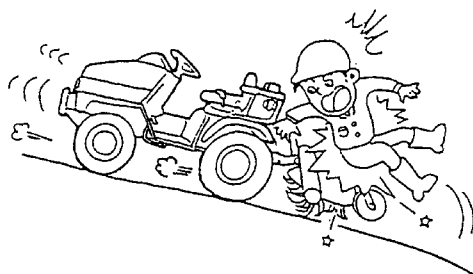
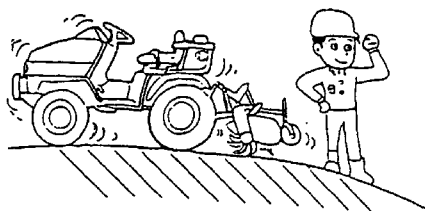
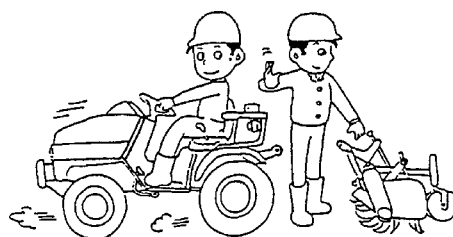
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●デフロックが解除されているか、必ず確認してください。その後、ブレーキペダルの左・右をセット(連結)してください。 ●圃場への出入りは、本機を畦、溝に直角に向けて止め、必ず直角方向で行ってください。 ●エンジン回転を下げ、低速で行ってください。 ●出入り場所をよく確認してください。 ●段差の大きい溝越えのときは、アユミ板を使用するか出入り口に傾斜や渡り橋を設けてください。 ●作業機が斜面の上側になるように出入りしてください。	低速で直角に出入りしてますか

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●圃場への出入りにはアユミ板を使用してください。	アユミ板を使ってますか

9.アユミ板を使うときは

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●本機の重量に耐えるすべり止めのある金属製のアユミ板を使用してください。 ●アユミ板を使うときは傾斜角度15度以下になるような長さの物を使ってください。 ●アユミ板を使用する場所を良く確認してください。 ●アユミ板の安定・平行を確認してください。	アユミ板の強度、材質、傾斜角度は

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●アユミ板を登り降りする前に必ずデフロックが解除されているか確認してください。その後、左・右のブレーキペダルのセット(連結)を確認してください。 ●片ブレーキ、デフロックは絶対に使用禁止です。	ブレーキペダルはセット(連結)してありますか

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●アユミ板を使うときは、畦、溝などにたいして本機を直角に止めてください。 ●アユミ板の上では脱輪しないようハンドルを大きく操作しないでください。 ●本機の車輪幅に合わせ、アユミ板を左・右平行にして、ハンドルは直進状態にしてから、真直ぐに低速で走行してください。 ●作業機が斜面の上側になるように走行してください。 ●ロータリの爪がアユミ板にひっかからないよう注意してください。	低速で脱輪に注意してますか

10.圃場での作業

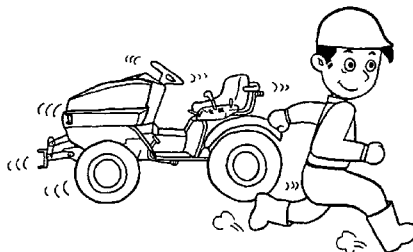
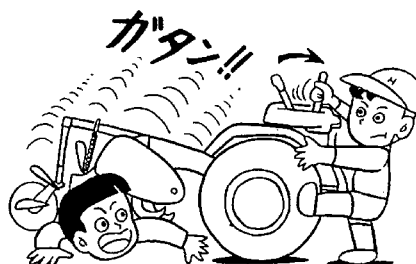
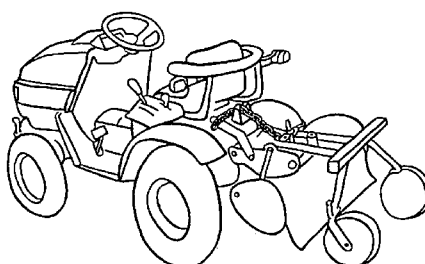
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●作業する場所には人や動物を近づけないでください。特に旋回するときは、前・後方に注意してください。 ●畦際で旋回するときは、畦に人がいないか確認してください。 高速では絶対に旋回しないでください。 横転等重大な事故につながります。 ●カミナリが鳴り出したらエンジンを停止し、本機から離れて安全な場所に避難してください。	本機周囲の安全確認は(人は近くにいませんか)

⚠ 安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

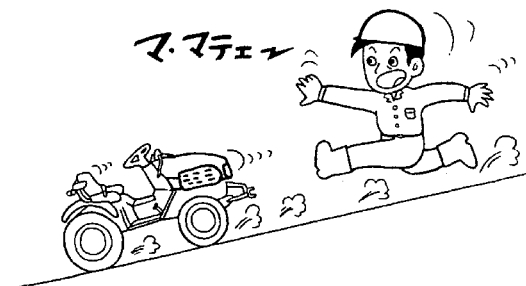
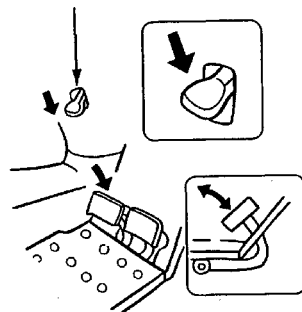
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●乗車定員は１名です。必ずお守りください。 ●作業機を使用するときは、必要に応じてトラクタの前部に適正なウエイトを取付けてください。 ウエイトは純正ウエイトを使用してください。 ●指定された作業機以外は使用しないでください。 ●作業機を装着したときの走行は、低速で行い、急発進、急停止、急旋回は避けてください。 ●けん引にはけん引ヒッチを使用してください。（別途購入品）	ウエイトの代用にしていませんか

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●手放しや、わき見運転をしないでください。 ●傾斜地では、遅い車速を選んで運転してください。高速では転倒したり、思わぬ事故を起こします。	わき見運転、手ばなし運転をしていませんか

⚠ 安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

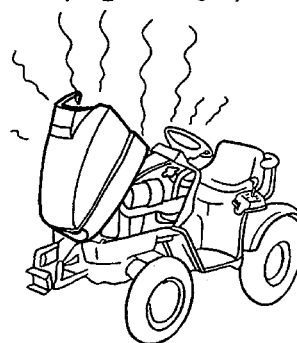
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●デフロックは指定された作業以外、使用しないでください。 ●デフロックを使用した後は必ず解除されているか確認してください。 〔デフロック解除の確認方法〕 デフロックペダルから足を離したら、必ず左・右どちらかのブレーキペダルを軽く踏んで、踏んだ側の後輪が停止すれば解除しています。(強く踏むと故障の原因になります) ●デフロックを入れたまま旋回すると、転倒など思わぬ事故を起こします。	デフロック使用後解除を確認しましたか

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●壁ぎわで旋回するときは、作業機の位置を十分考えてハンドルを操作してください。 ●発進するときは、エンジン回転を下げて、クラッチをゆっくり離して、スムーズに発進させてください。	障害物に注意していますか

11.作業機(ロータリ等)の脱着

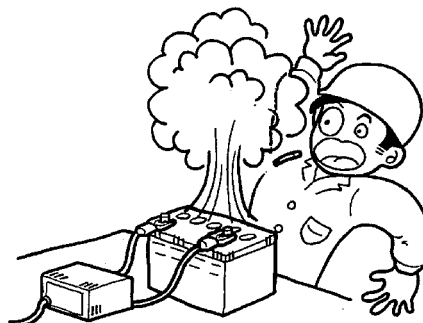
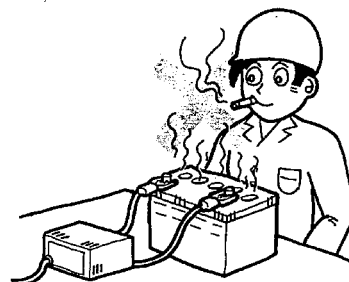
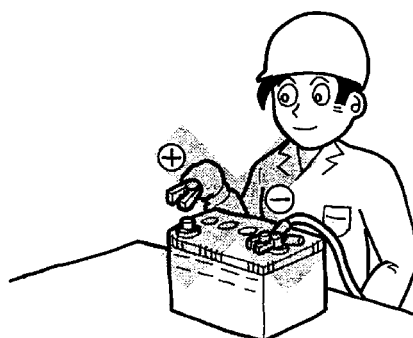
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●脱着は平坦な場所でエンジンを停止し、必ず駐車ブレーキをかけてください。 ●P.T.O軸が停止していることを確認してください。 ●夜間は適切な照明を用いてください。	エンジンは停止しましたか

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●作業機を脱着するときは、トラクタと作業機(ロータリ等)の間に人が入らないように注意してください。 ●作業機の下へ入ったり、足を入れたりしないでください。	人はいませんか

安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

12.作業途中や走行途中での駐車・点検

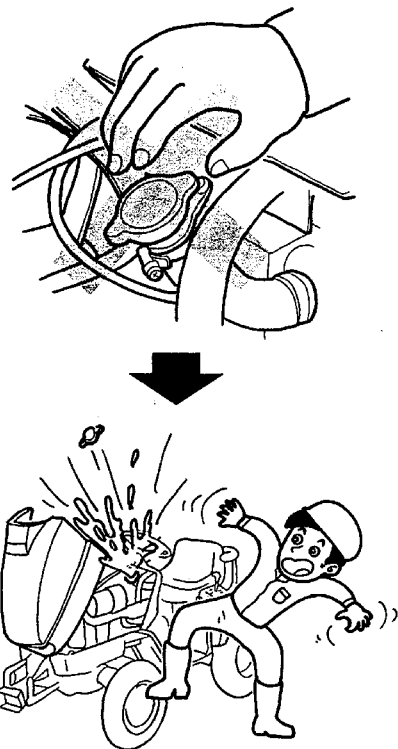
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●平坦な場所に止め、エンジンを停止してください。 ●運転席から降りるときは、駐車ブレーキをロックして、エンジンスイッチキーを外してください。	エンジンは停止していますか

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●作業機を点検・調整する場合には、作業機の下降を防止するため、下降速度調整ノブを〝おそい〟(右方向)にいっぱいに締めて油圧をロックしてください。 ●ロータリ等のクサリ付の作業機を装着するときは、クサリを併用してください。	クサリをセットしていますか

13.駐車

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●非常の場合以外、坂道では駐車しないでください。万一駐車する必要があるときは、駐車ブレーキをロックして車輪に車止めをしてください。 ●主変速レバーは1速または後進、副変速は〝低″にしてください。 ●左・右のブレーキペダルを必ず連結してください。	駐車ブレーキはロックしてありますか

14.使用後の手入れ

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●エンジン停止直後は、エンジン、マフラが高温になっています。点検、整備等は十分に冷えてから行ってください。 ●エンジンを停止してください。 ●各部の清掃を行ってください。 (特にマフラ及びエンジンの高温部分のゴミ) ●作業機の清掃、点検、交換時は下降速度調整ノブで油圧をロックしてください。 (ロータリ等のクサリ付作業機のクサリはタルミなく本機にセットしてください) ●格納するときは、作業機を下げ、駐車ブレーキをロックして、エンジン、マフラが完全に冷えてから格納してください。	冷えていますか

15.点検・整備

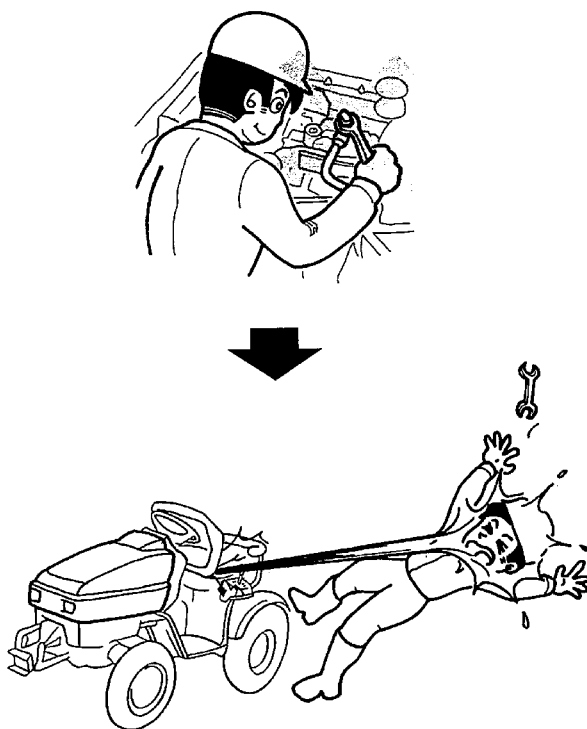
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着した時はすぐに大量の水で少なくとも5分以上洗浄し、直ちに専門医の診断を受けてください。 ●バッテリを取扱うときはショート(短絡)による火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。	

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●バッテリのショート(短絡)を防ぐために、バッテリの結線順序を守ってください。 バッテリを外すときはマイナスコードを先に外します。 バッテリを取付けるときはプラスコードを先に接続します。	

⚠ 安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

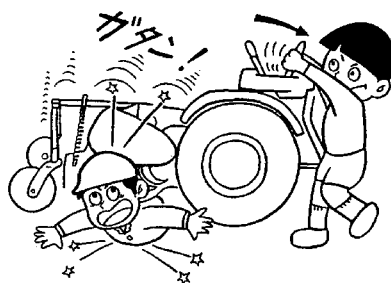
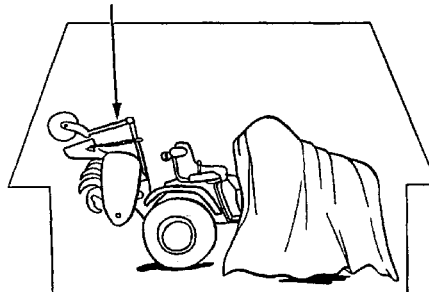
必ず守りましょう

● エンジン運転中や、エンジンを停止した直後は、ラジエータ液が高温になります。ラジエータ液の温度が高いときに、ラジエータ本体のキャップを外すと蒸気や熱湯がふき出し危険です。ラジエータ液の温度が十分下がってから、布切れなどでキャップを包み静かに開けてください。ラジエータ本体のキャップはリザーブタンクが空になった時やラジエータ液を交換するとき以外開けないでください。

必ず守りましょう

● 油圧回路から噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、傷害の原因になります。油圧部品を外すときは必ず残圧を抜いてください。

● 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは、素手で探さないでください。
保護めがねをかけ、ボール紙などを利用してください。
万一、油が皮膚に浸透したときは、強度のアレルギーを起こす恐れがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。

こうなる前に!!

16.長期保管

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●駐車ブレーキをロックして風通しの良い乾燥した場所に本機を水平にして格納してください。 ●バッテリアースコードを外してください。 ●後輪の前後に車輪止めをしてください。 ●作業機は外すか、地面に接地するまで下げておいてください。 ●本機にカバーをかけるときは、エンジン、マフラが完全に冷えてから行ってください。	作業機は下げてありますか

安全ラベル

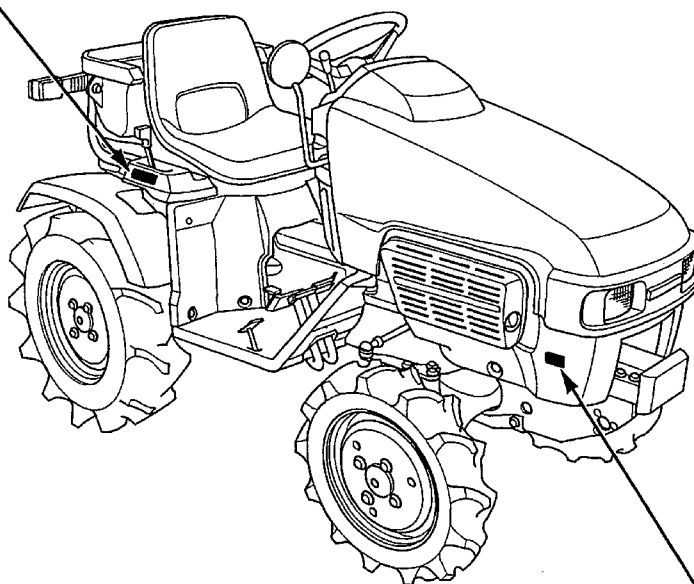
トラクタを安全に使用していただくために、本機に安全ラベルが貼られています。ラベルをすべて読んでからご使用ください。

ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れたり、傷ついたり、なくなったりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替えてください。また取外して交換した部品に安全ラベルが貼られている場合は、新しい部品と交換するときに新しいラベルも一緒に貼ってください。

ラベルはお買いあげ販売店に注文してください。

警　告

作業機点検調整時の巻き込まれ、落下により死傷するおそれがあるので、
- 平坦な場所でエンジンを停止し駐車ブレーキをロックすること。
- トラクタの油圧をロックすること。

注　意

ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。

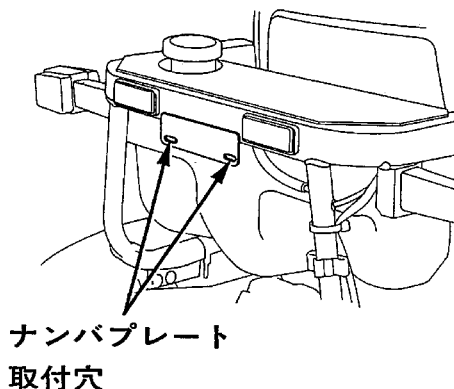
小型特殊自動車について

この商品は、道路運送車両法により小型特殊自動車として、運輸大臣の型式認定の認可を受けております。

●小型特殊自動車の届出とナンバ プレートの取付けについて

新たに小型特殊自動車の所有者となられた方は、市町村税条例により、市町村役場に届出、ナンバ プレートの交付を受けなければなりません。（手続きは市町村により多少異なりますので詳細は、お買いあげ販売店へお申しつけください。）

1.小型特殊自動車取得の証明書に軽自動車税を添えて市町村役所に届出てください。届出が済むとナンバ プレートが交付されます。

2.ナンバ プレートをナンバ プレート取付穴に取付けてください。

●運転免許について

公道を走行する場合は、小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必らず携帯してください。

●自動車損害賠償責任保険のお勧めについて

万一の交通事故補償に備え自動車損害賠償責任保険、任意保険に加入されることをお勧めします。

●小型特殊自動車とは

農耕作業用自動車の場合、車体の全長4.7m以下、全幅1.7m以下、全高２m以下、最高速度15km/h以下、原動機の総排気量1500cc以下の構造を有する物であり、このうち一つでも条件が満足しないと大型特殊自動車扱いとなりますので、次のようなことには特にご留意してください。

1.認定を受けたエンジン以外は搭載して公道を走行するようなことはできません。

2.認定時の構造を変更した状態では公道を走行することはできません。

3.エンジン及び本機で封印されているところは、大変重要な部分ですのでさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は、保証はできません。

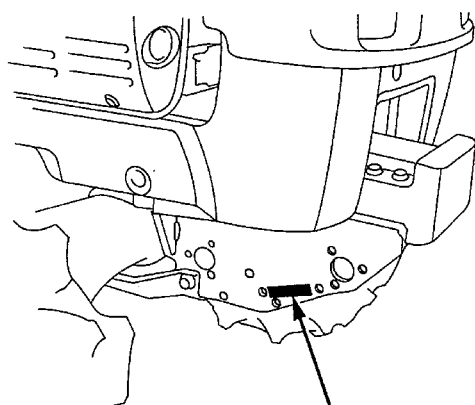
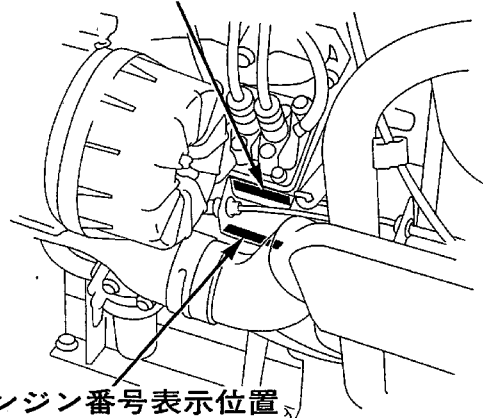
4.作業機を装着したまま公道を走行することはできません。

車台番号とエンジン番号

サービスについてのお問いあわせや部品などご用命のときは、車台番号とエンジン番号をお買いあげ販売店・農協へお知らせください。
車台番号は右側、前輪の横のフレームに打刻されています。
エンジン番号はボンネットを開けると左側、空気清浄器(エアクリーナ)横のエンジン回転ワイヤ取付ステーに表示されています。
ご参考のために、ここに番号を記入しておかれると便利です。

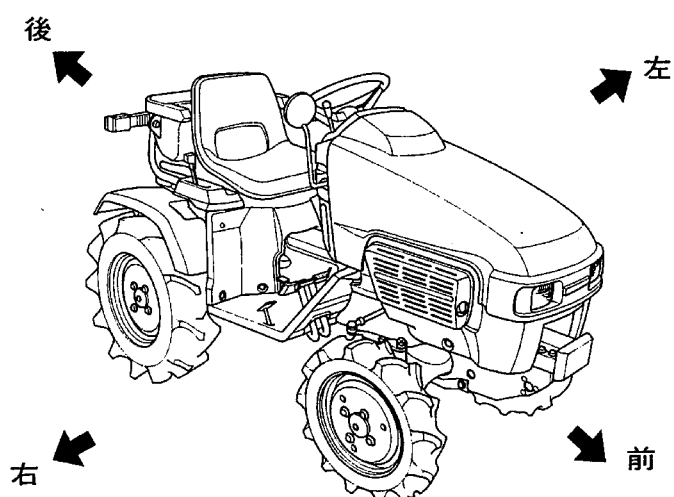
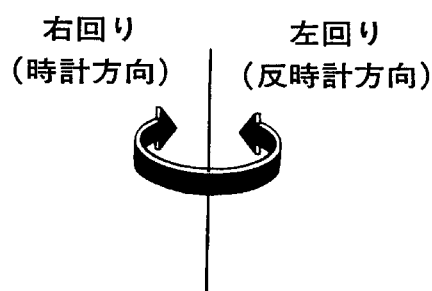
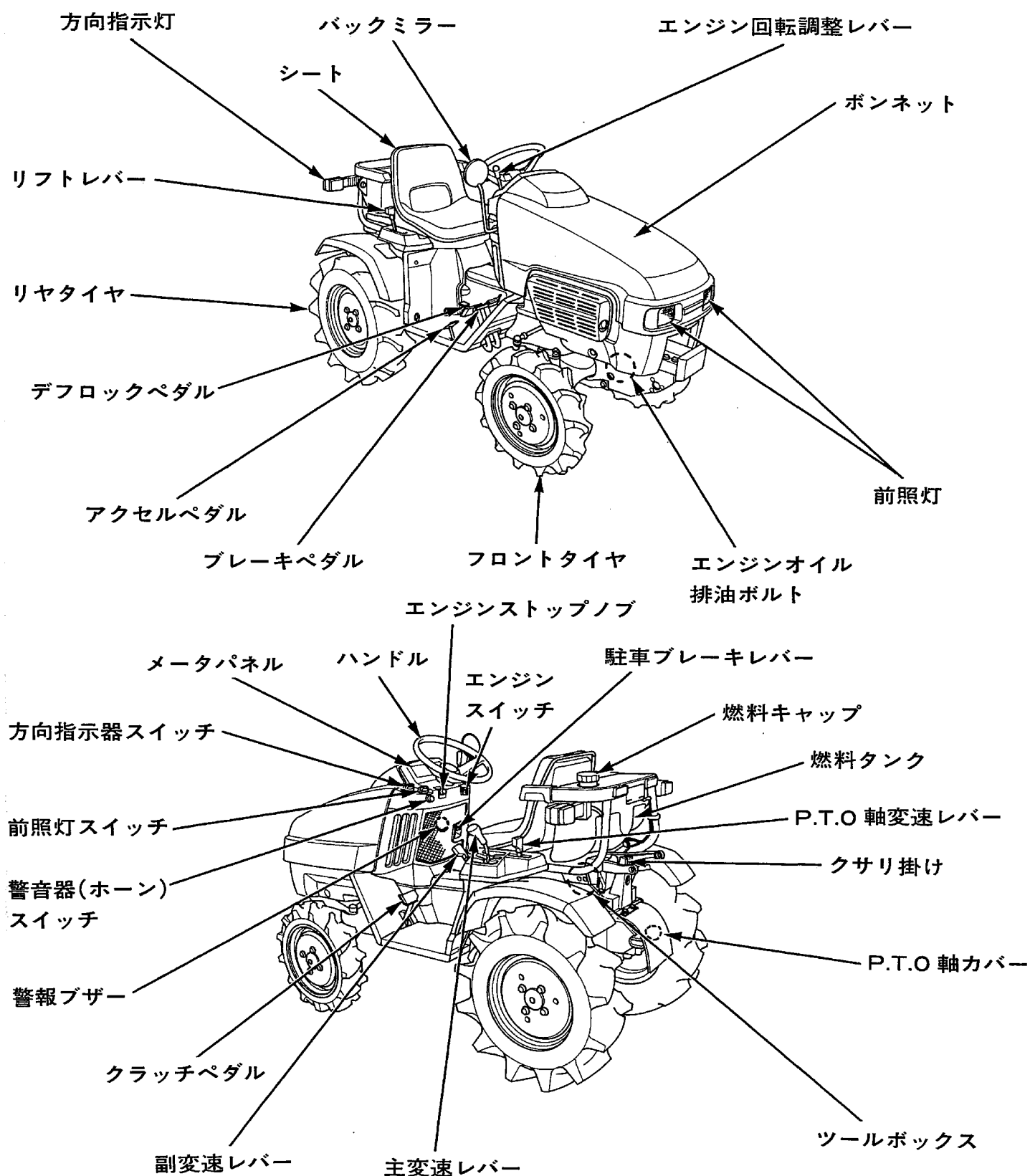
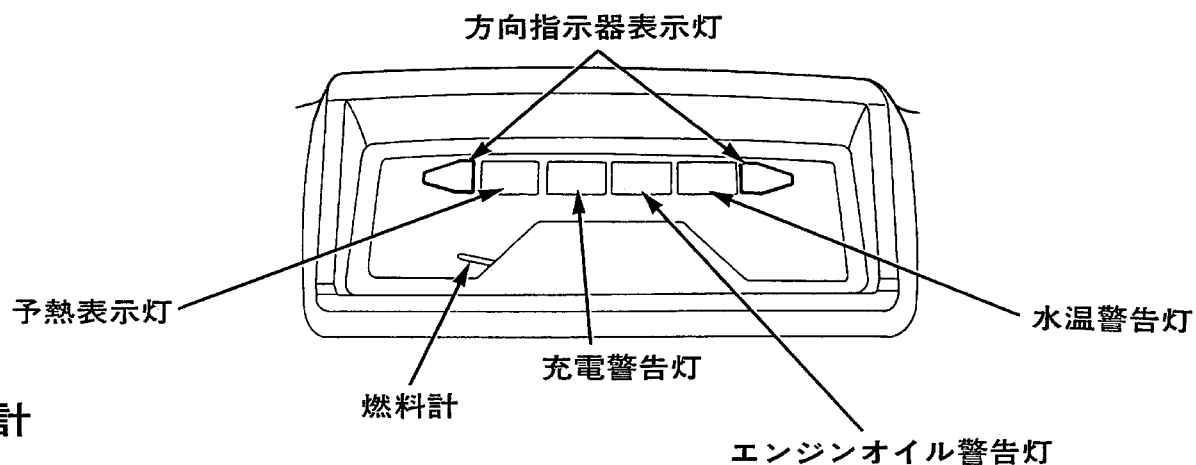
車台番号　No.

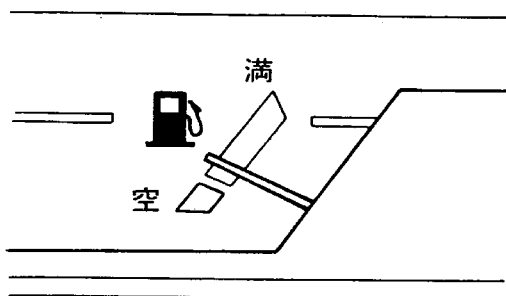
エンジン番号　No.

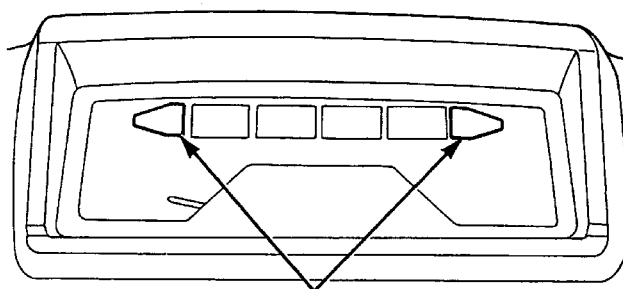
※原動機型式番号は、小型特殊自動車の届出書に記入するときに必要です。

⚠警告

機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

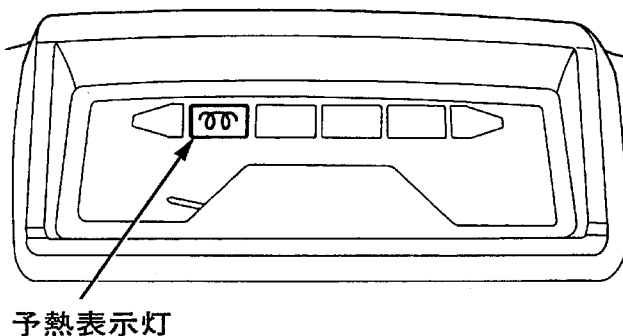
方向

この取扱説明書で使用している《前後・左右・右回り・左回り》などの用語は下の図のように決めております。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

コンビネーションメータ

1.燃料計

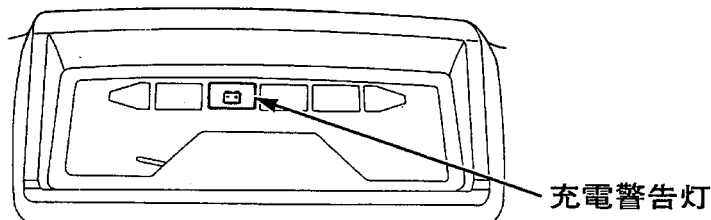
燃料タンク内の燃料の量を表示します。

2.方向指示器表示灯

方向指示器スイッチを操作すると点滅します。

3.予熱表示灯

グロープラグが予熱中であることを表示します。

エンジンスイッチを〝運転〟の位置にすると点灯し、予熱が終ると消灯します。

4.充電警告灯

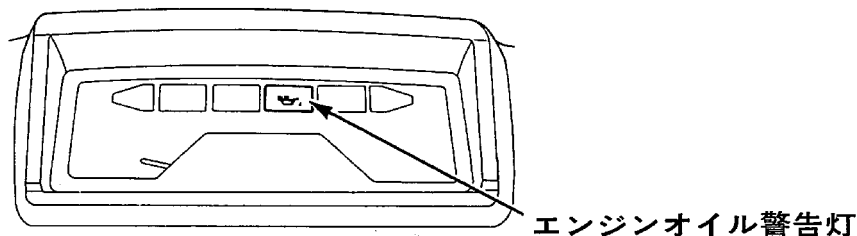
エンジン運転中、充電系統に異常が発生した場合ランプが点灯します。

エンジン停止中、エンジンスイッチを〝運転〟にすると点灯し、始動すると消灯します。

5.エンジンオイル警告灯

エンジンオイルが不足していたりエンジンの潤滑系統に異常があると点灯します。

エンジンスイッチを〝運転〟の位置にすると点灯し、エンジン始動後消灯すれば正常です。

取扱いのポイント

- **万一、運転中に点灯した場合は、安全な場所に停車し、エンジンを止め、エンジンオイルの量を点検してください。(47頁参照)**
- **エンジンオイルが減っていないのに点灯している場合は、お買いあげ販売店・農協で点検をうけてください。**

6.水温警告灯／警告ブザー

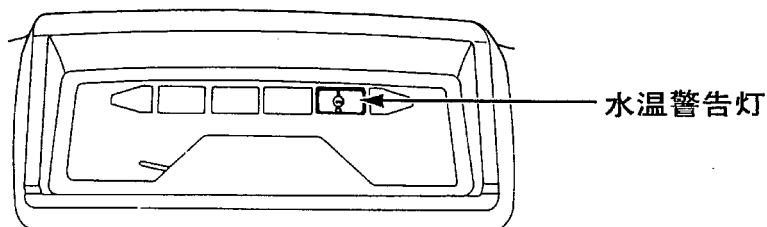
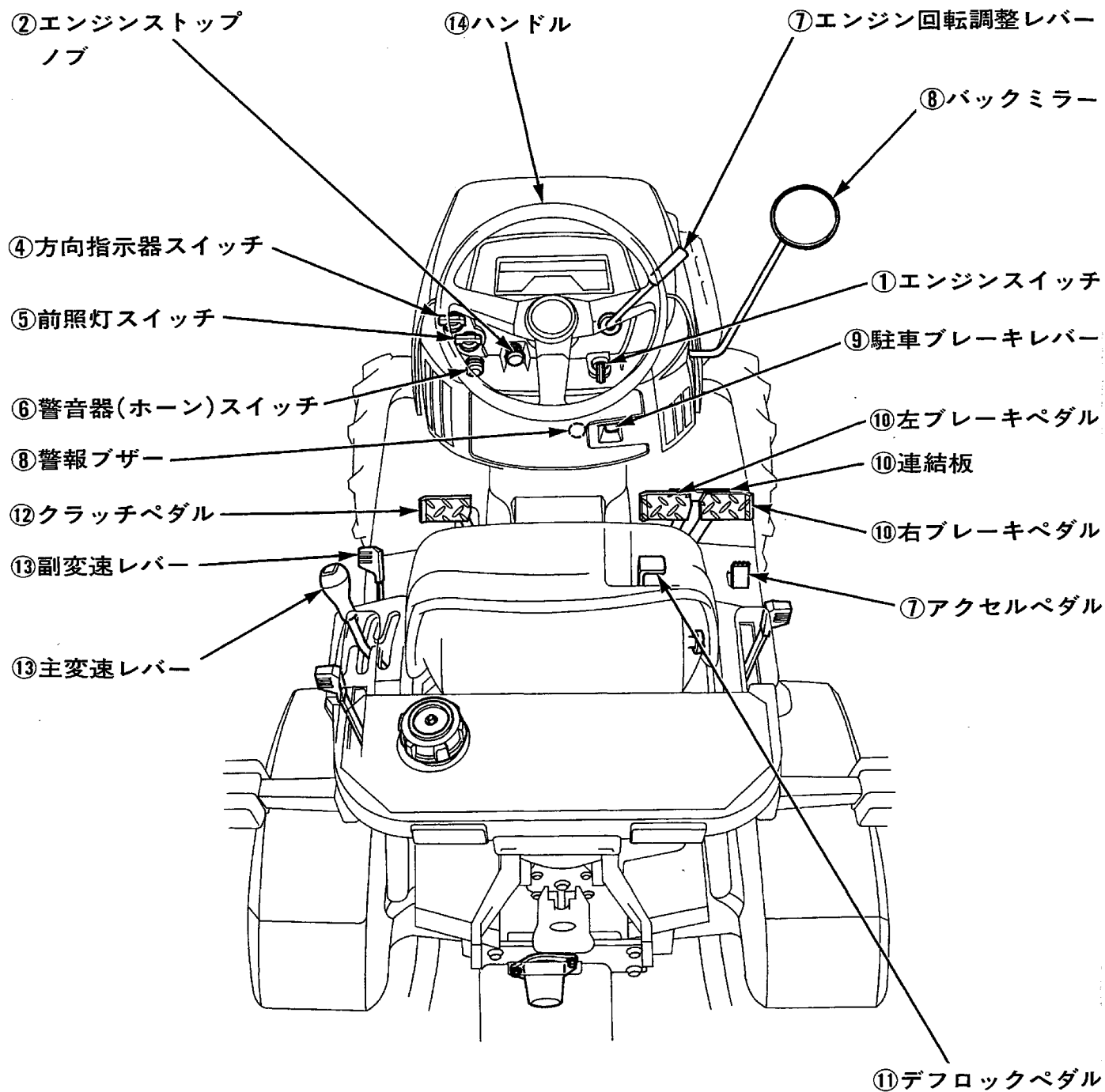
ラジエータ液(冷却水)の温度が異常に高くなると、警告灯が点灯し、同時に警告ブザーが鳴ります。

エンジンの冷却系統に異常が発生したことを警告します。

取扱いのポイント

万一、ランプが点灯し、警告ブザーが鳴った場合は、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に移動し、エンジンを冷やしてください。オーバーヒートしたときの処置は故障診断89頁を参照してください。

走行装置

②エンジンストップノブ
⑭ハンドル
⑦エンジン回転調整レバー
⑧バックミラー
④方向指示器スイッチ
①エンジンスイッチ
⑤前照灯スイッチ
⑨駐車ブレーキレバー
⑥警音器(ホーン)スイッチ
⑩左ブレーキペダル
⑧警報ブザー
⑩連結板
⑫クラッチペダル
⑩右ブレーキペダル
⑬副変速レバー
⑦アクセルペダル
⑬主変速レバー
⑪デフロックペダル

1.エンジンスイッチ

エンジンを〝始動〟、〝運転〟するために使用します。

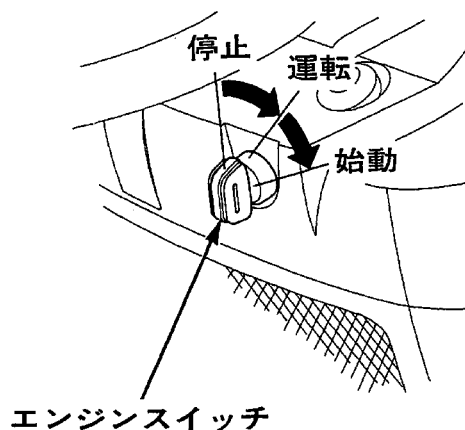
始動―エンジンを始動させるときこの位置まで回わします。セルモータが回ります。

運転―エンジン運転中の位置です。各電気系統がつながります。

停止―各電気系統が切れます。（キーの抜き位置です。）

この位置ではエンジンが止りません。

・エンジンを停止させるには、エンジンストップノブを操作してください。

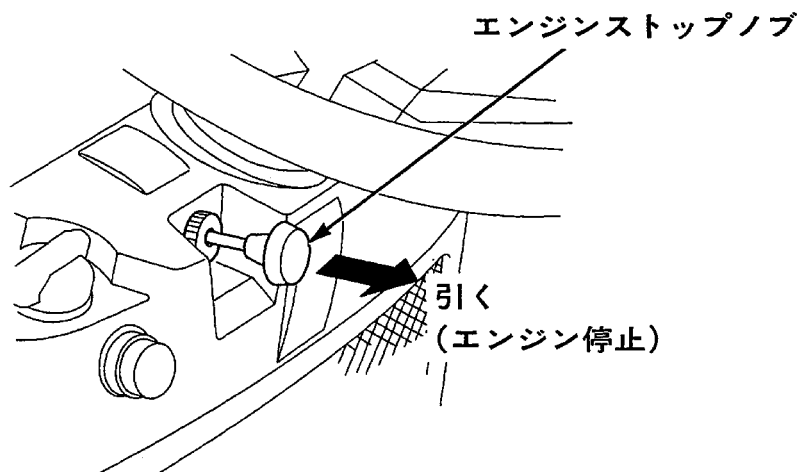
・始動するときは、クラッチペダルを踏み込まないとセルモータは回転しない構造になっています。

2.エンジンストップノブ

エンジンを停止させるときに操作します。

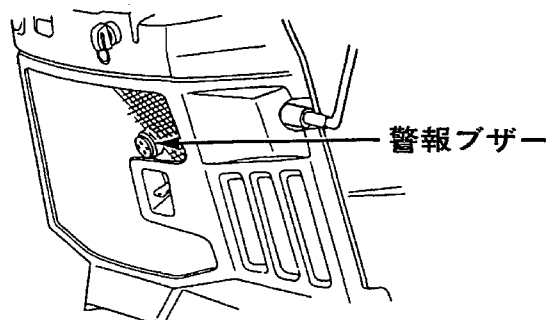
エンジンストップノブをいっぱいに引くと、エンジンが停止します。

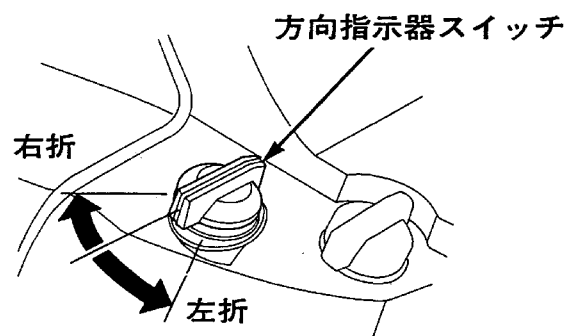
エンジンが完全に停止するまで、ノブを引き続けてください。

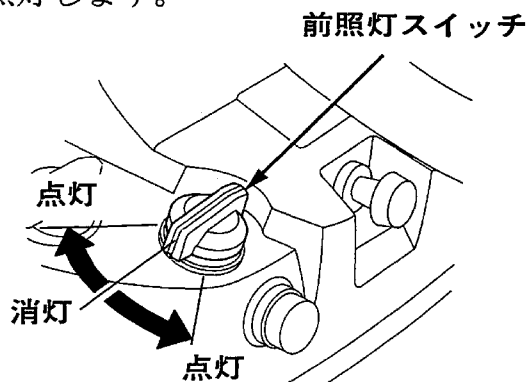
取扱いのポイント

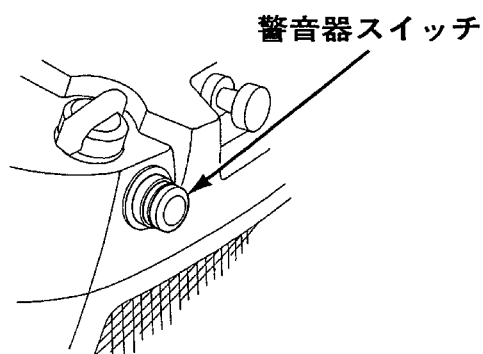
エンジンを始動するときは、エンジンストップノブを完全に押し込みます。ノブが中間位置のままでは、エンジンの出力が十分に発揮できません。

3.駐車ブレーキ警報ブザー

駐車ブレーキ戻し忘れ防止のために付いています。

駐車ブレーキをロックした状態で、エンジンスイッチが〝運転〟、又は〝始動〟の位置にあり主変速レバーが〝中立〟以外の位置になっているとブザーが鳴ります。

4.方向指示器スイッチ

スイッチを右に回すと右側、左に回すと左側のランプが点滅します。

5.前照灯スイッチ

スイッチを右または左に回すと前照灯が点灯します。

6.警音器(ホーン)スイッチ

スイッチを押すと警音器(ホーン)が鳴ります。

7.エンジン回転調整レバーとアクセル ペダル

アクセル ペダルは回転調整レバーと連動しています。

○エンジン回転調整レバー………主に農作業時に使用します。
（任意の位置で固定できます。）

○アクセル ペダル …………………主に道路走行時に使用します。

・ペダルを踏み込むと…………エンジン回転が上がります。

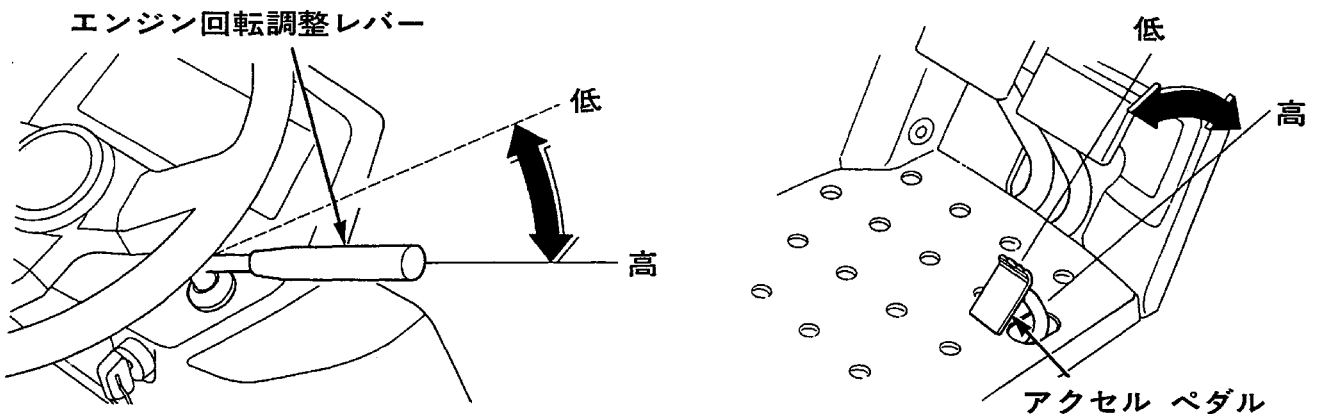
・ペダルから足を離すと………エンジン回転調整レバーのセットしてある位置まで戻ります。

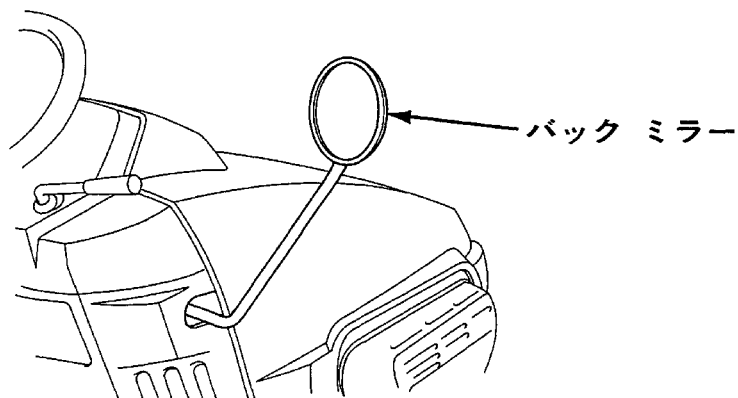
・道路走行または移動時にはエンジン回転調整レバーを〝低〞の位置に戻してアクセル ペダルを使用してください。

⚠注意

道路走行または移動時にはエンジン回転調整レバーが〝低〞の位置になっていないとアクセル ペダルを離してもエンジン回転が下らず思わぬ事故を起します。

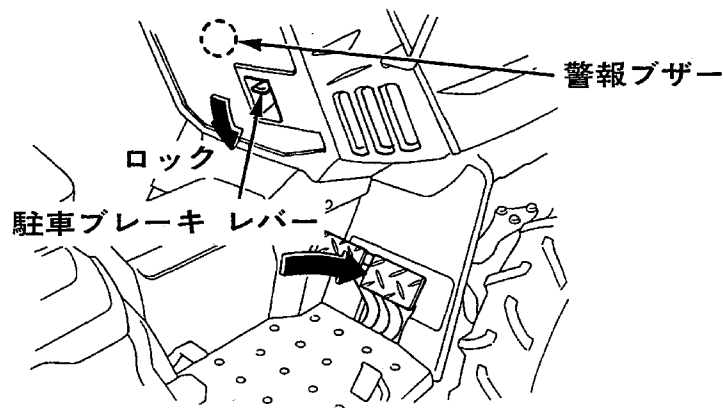
取扱いのポイント

道路走行または移動時には、エンジン回転調整レバーは使用しないでください。

8.バック ミラー

後方視界が十分確認できる位置に調整してください。

9.駐車ブレーキ レバー

本機を駐車するときに使用します。

1.ブレーキ ペダル左右連結状態で強く踏み込み、駐車ブレーキレバーを押し下げます。

2.駐車ブレーキレバーを押しさげたまま、ブレーキペダルを離せばロック(駐車)します。
　解除するときは、ブレーキペダルを踏んでください。レバーは自動的に戻ります。
　・駐車ブレーキレバーを戻し忘れると、ブザーが鳴り警報します。(34頁参照)

10.ブレーキ ペダル

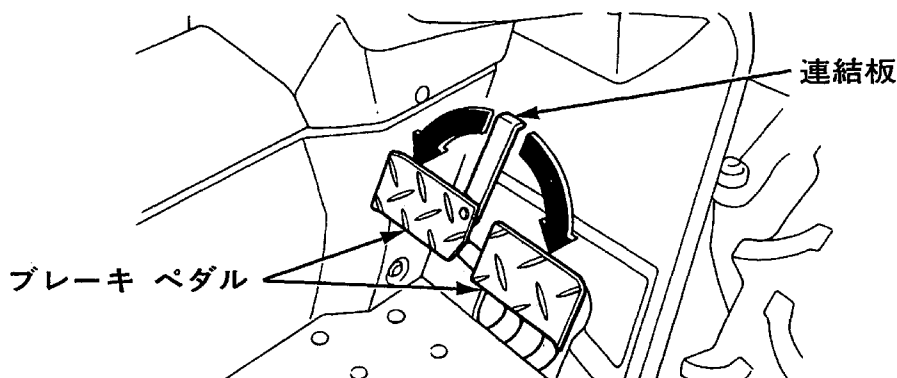
本機を強制的に停止させる時に使用します。通常の自動車と異なり作業時の必要に応じてブレーキを後輪の片輪だけにかけることもできます。

左右を連結した時……………………道路走行時

連結板を外した時……………………農作業時（片ブレーキ旋回用）

⚠警告

- **道路走行中・登り坂・下り坂及び畦越え中は、ブレーキ ペダルの左右を連結金具で、必ず連結してください。**
- **道路走行中に片ブレーキを踏むと、車体が振られ転倒や思わぬ事故のおそれがあります。**

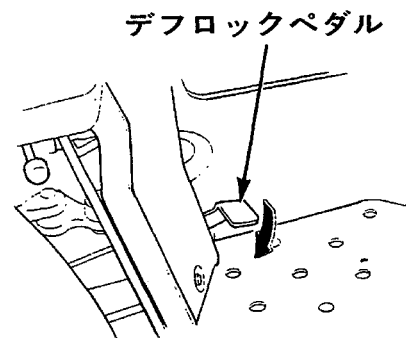
・急カーブでの４WD走行は前輪にブレーキがかかったような状態になるため、少しハンドルが重くなることがあります。(この現象は４WD走行時に前輪と後輪の回転数の差によって生じるものです)本機は、常時４輪駆動(4WD)です。

11.デフロック ペダル

⚠警告

道路走行時は、デフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなり、もし旋回すると転倒したり思わぬ事故を起こします。

左右の後輪を同じ回転速度で駆動させる装置です。
スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏むと……………踏み込んでいる間はデフロックが作動し左右の後輪が同じ回転で駆動されます。

ペダルから足を離すと……デフロックが解除されます。

デフロックの使い方

デフロックは上手に使うと非常に便利ですが、使用方法を誤ると転倒などの危険や故障の原因ともなりますので注意してください。

車輪がスリップしやすいような地面で後輪の片輪のみがスリップする場合に使用してください。

1.農場への出入りや畦越え。
2.プラウ作業などけん引が必要なとき。
3.農場の一部軟弱なところで片輪がスリップしたとき。

取扱いのポイント

- **走行中及び旋回中はデフロックを使用しないでください。又デフロックして旋回しないでください。デフを破損する可能性があります。**
- **デフロック使用中は、絶対にブレーキを踏まないでください。同時使用すると本機を破損します。**
- **デフロックを使用して作業するときは、必ず低速で行ってください。**
- **踏み込むとロックされます。使わないときは足をペダルに乗せないでください。**
- **デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げてください。**
- **デフロックを使った後は、必ず解除されている事を確認してください。**

〈デフロック解除確認方法〉

- 左右どちらかのブレーキ ペダルを踏んで、踏んだ側の後輪が停止すれば解除しています。
- 抜けにくい時は、ハンドルを直進状態にして、交互に軽くブレーキを踏んで抜けを確認してください。

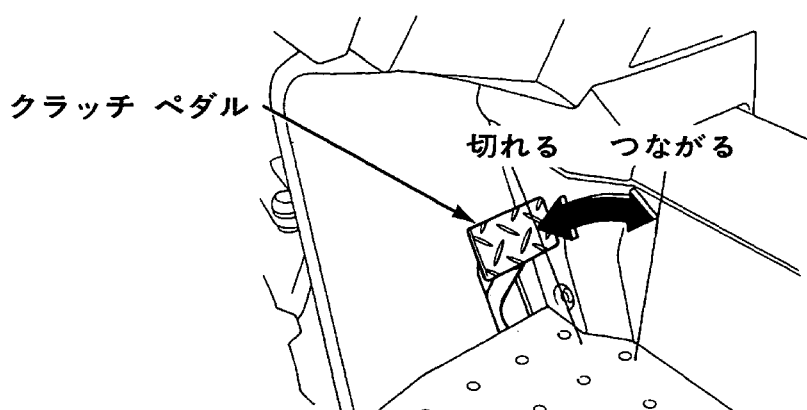
12.クラッチ ペダル

エンジンの動力を走行装置、P.T.O軸に断続させるペダルです。

クラッチ ペダルを操作するときは、いっぱいに踏み込んでください。

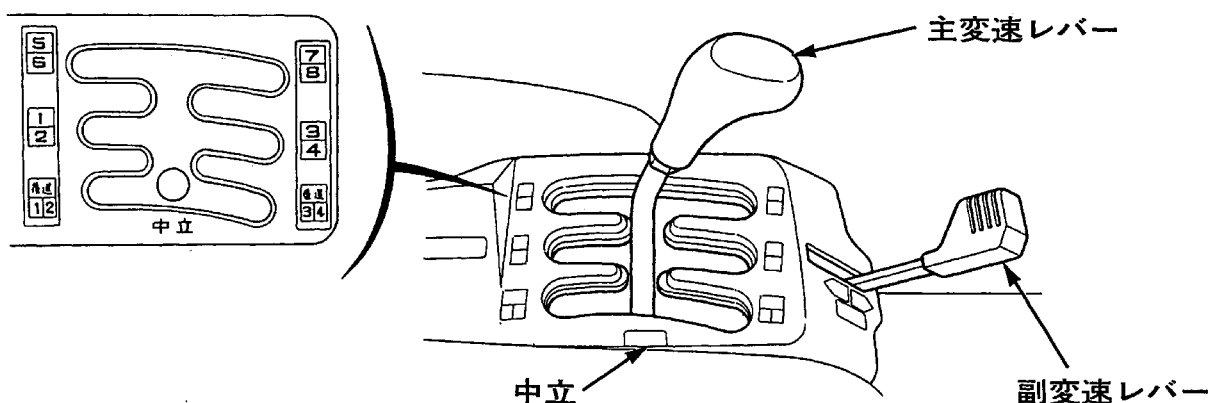
ペダルを踏み込むと……………クラッチが切れます。

ペダルから足を離すと…………クラッチがつながります。

・始動するときは、クラッチ ペダルを踏み込まないとセルモータは回転しない構造になっています。

13.主変速レバー、副変速レバー

主変速レバー、副変速レバーを操作することにより前進8段、後進4段の変速ができます。

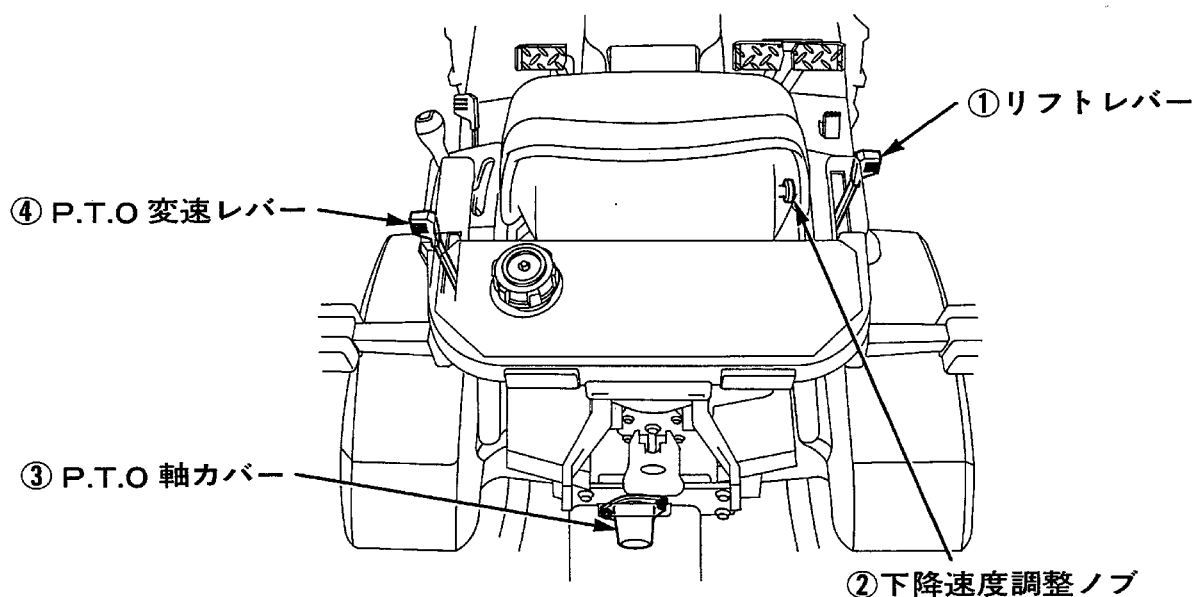
取扱いのポイント

- **変速レバーを操作するときは本機を停止させ、必ずクラッチ ペダルを踏み込んでから行ってください。**
- **超低速度(1・2速)では車軸の回転力が大変強くなり、ブレーキ ペダルだけを強く踏んでもブレーキはきかず、本機を破損します。必ずクラッチ ペダルを踏んでからブレーキ ペダルを踏んでください。**

14. けん引ヒッチ（別途購入品）

⚠警告

けん引にはけん引ヒッチを使用してください。転倒し死傷するおそれがあるので、車軸やトップリンクをけん引に使用しないでください。

作業機操作装置

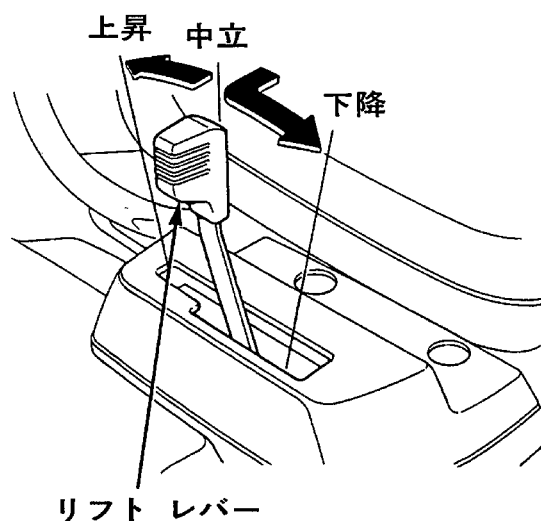
油圧装置はエンジン回転中、レバーを操作すると、クラッチの断続に関係なく作動します。

1. リフト　レバー

レバーを操作すると、作業機をレバーの位置に応じて任意の位置に〝上昇〟、〝下降〟させることができます。

〝上昇〟はエンジンが回転しているときだけ作動しますが、〝下降〟はエンジンが停止していても作動します。

> **⚠警告**
>
> **リフトレバーを下降側に倒すと、エンジンが停止していても作業機は下降します。レバーを操作するときは周囲に十分注意してください。**

・リフト　レバーを下降にするには、〝中立〟位置からいったん外側へ押し付けながら前方へレバーを倒します。〝下降〟から〝中立〟への戻しは手前に引くだけでできます。

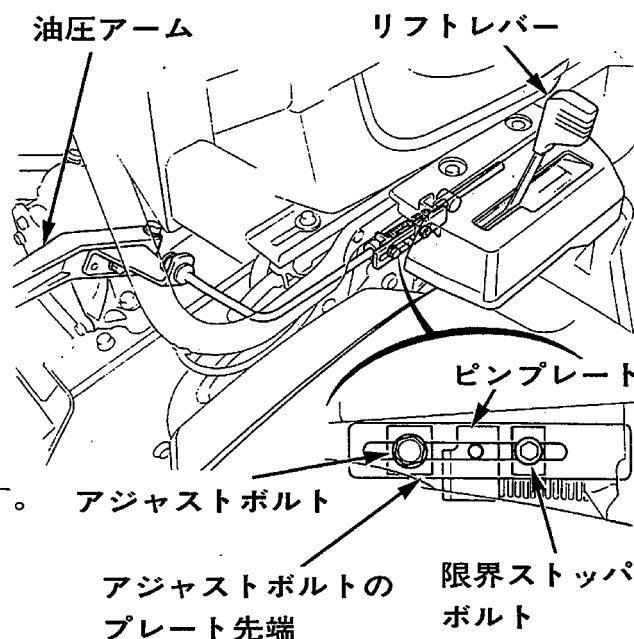
・本機には〝緩下降〟、〝緩上昇〟モードがついています。
〝中立〟位置から少し〝上昇〟側へ作動させると作業機がゆっくり上昇します。
〝中立〟位置から少し〝下降〟側へ作動させると作業機がゆっくり下降します。
作業中の上下微調整にお使いください。

上昇高さの規制

アジャスト ボルトを調整することにより、作業機の〝上昇〟高さを規制することができます。

> **⚠警告**
> **調整中は人や動物を近づけないよう注意してください。思わぬ事故を起こします。**

調整方法：

I ①作業機を規制したい高さに〝上昇〟させます。

②アジャスト ボルトをゆるめます。

取扱いのポイント

- **アジャスト ボルトをゆるめる時は、エンジンを〝停止〟にしてください。**
- **限界ストッパ ボルトをゆるめないように注意してください。本機に悪影響を与えます。**

③リフト レバーを〝上昇〟側へ作動させ、アジャスト ボルトのプレート先端をピン プレートに押しあて、アジャスト ボルトを締付けます。

④リフト レバーを一端〝下降〟側へ作動させます。次にリフト レバーを〝上昇〟側へ作動させ、作業機が規制したい高さになっていることを確認してください。

II ①再度、作業機を規定の高さに戻す場合は、作業機を取外し、油圧アームを手で持ち上げ、限界ストッパ ボルトにピン プレートとアジャスト ボルトのプレート先端を押しあて、アジャスト ボルトを締付けてください。

取扱いのポイント

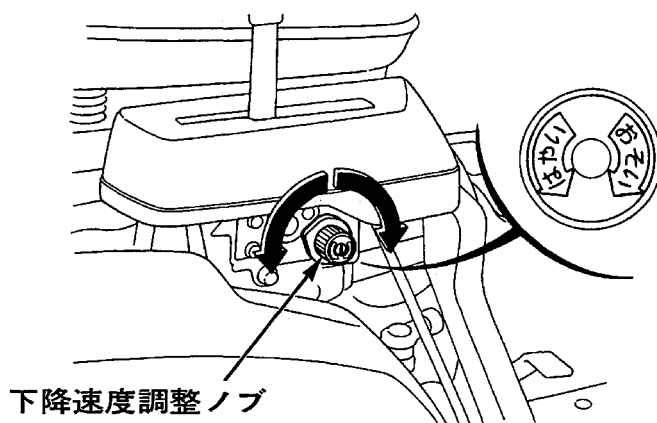
- **リフトレバーで作業機をいっぱいに上げ、さらにリフトレバーを上昇位置のまま保持し続けると、油圧装置の安全弁が働いて、作動音(リリーフ音)が発生します。**
  また作業機に泥などが附着して、異常に重たくなった状態でも同じようにリリーフ音が発生することがあります。
- **リリーフ音が発生している状態で、リフトレバーを〝上昇〟位置に保持し続けないでください。油圧装置の故障の原因になります。**

2.下降速度調整ノブ

このノブを回すことにより作業機の下降速度を調整することができます(上昇速度は調整できません)。

〝おそい〟(右方向)に回わすと………下降速度が遅くなります。

〝はやい〟(左方向)に回わすと………下降速度が早くなります。

右に止まるまで回わすと……………下降しなくなります(点検、調整時使用します)

⚠警告

- 調整、確認を行なうときは、周囲の安全に十分注意してください。
- 作業機を点検、調整する場合には、作業機の急下降を防止するため下降速度調整ノブを〝おそい〟(右方向)にいっぱいに締め、油圧をロックしてください。リフト レバーを〝下降〟の位置にして、作業機が落下しないか必ず確認してください。確認後リフト レバーを中立の位置に戻してください。ロータリ等のクサリ付の作業機を装着している時は、クサリを併用してください。

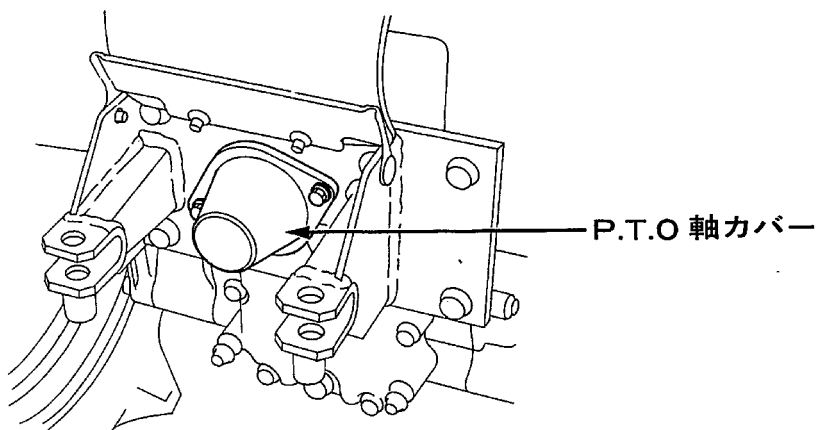
取扱いのポイント

- 下降速度は作業機の重量によってかわります。
- 作業機の下降速度は、最上位位置から接地するまで1～2秒が適当です。
  下降スピードが早すぎると、本機や作業機を損傷させる原因になります。
- 調整ノブは一気にゆるめないでください。¼回転ごとに確認してください。
- 調整ノブは、手または同梱のドライバを使って回してください。ドライバをご使用になるときは、軽く回してください。強く締付けるとバルブを破損します。
- 下降速度を調整する時は、作業機を地面に降した状態で行ってください。
- 本機には緩下降モードがついています。下降速度を調整する時は、リフトレバーを〝下降側〟一杯に作動させて調整してください。

3.P.T.O軸カバー

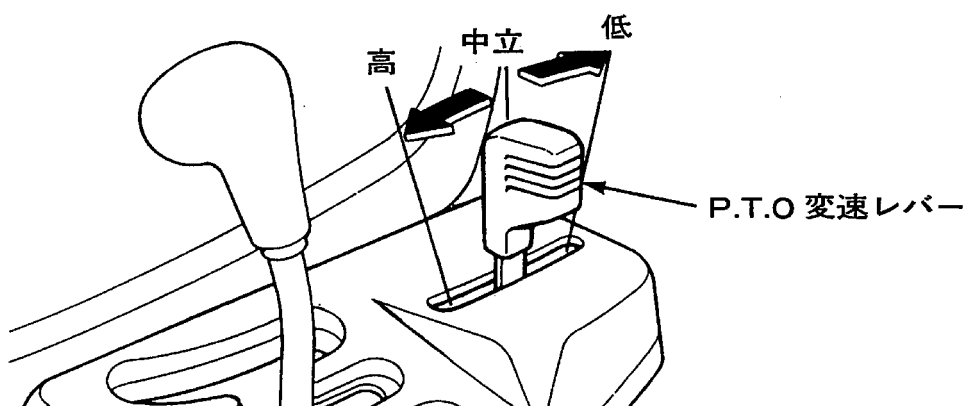
⚠警告

P.T.O軸を使用しないときは必ずカバーを取付けてください。カバーを取付けないまま使用すると、P.T.O軸に巻込まれケガをするおそれがあります。

P.T.O軸を使用しないときは、グリースを塗布後必ずカバーを取付けてください。

4.P.T.O変速レバー

P.T.O(動力取り出し軸)の回転速度を〝高〞、〝低〞2段階に変速できます。

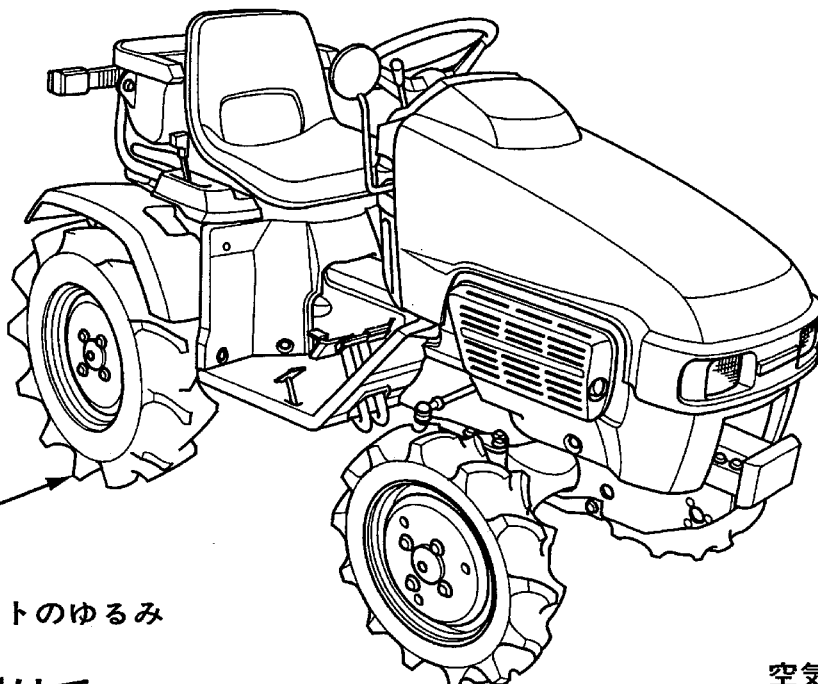
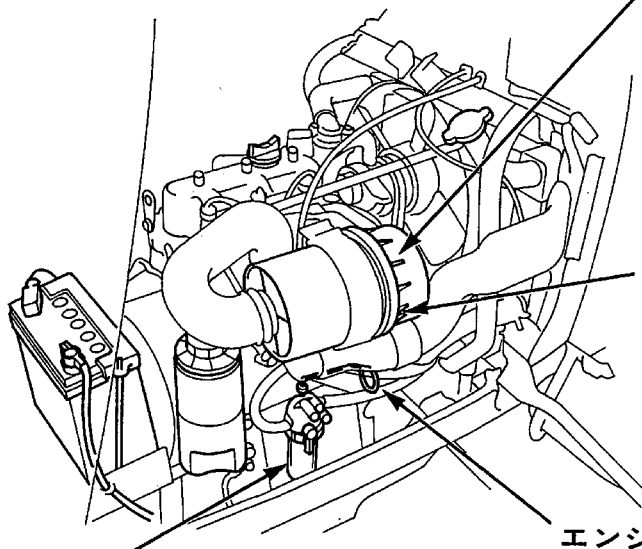
取扱いのポイント

- 変速を行うときは本機を停止させ、必ずクラッチペダルを踏み込んでから行ってください。
- P.T.O軸を使用しないときは、P.T.O変速レバーを〝中立〞の位置にしておいてください。

運転する前に点検しましょう

⚠警告

- 点検前に必ずエンジンを停止し、エンジンスイッチキーを外してください。
- 点検は平坦な場所で本機を水平にして行ってください。
- 作業機を完全におろし、下降速度調整ノブを右(遅い)の方向にいっぱいに締め、油圧をロックしてください。

故障を未然に防ぐには、本機の状態をいつもよく知っておくことが重要です。「運転をする前の点検」は毎日必ず行ってください。

・トラクタの回りを歩いて

・ボンネットを開けて

・運転席に座って

ハンドルの遊び、ガタの点検

バックミラーの点検
・汚れ
・角度

燃料の点検
・量

電装品の点検

クラッチペダルの点検
・遊び

駐車ブレーキの点検

ブレーキペダルの点検
・遊び
・ブレーキ摩耗限界

油圧オイルの点検
・量

・ボンネットの開けかた、閉めかた

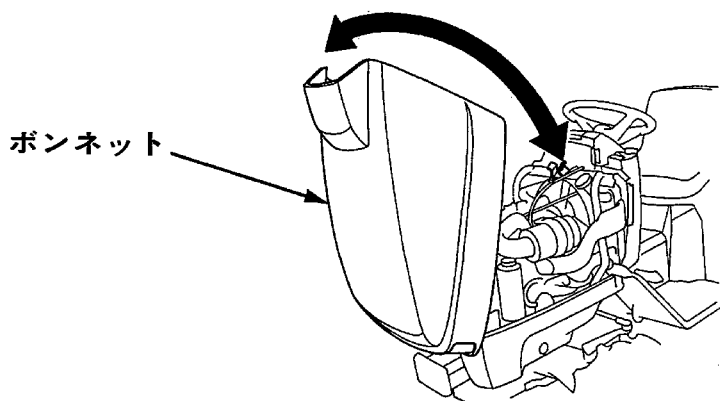
・開けかた

ボンネット中央部を持上げるとロックが外れます。そのままでボンネットを引き上げて止まるまで前へ倒します。

・閉めかた

ボンネットをゆっくり下げ、上から押して確実に閉めてください。

⚠注意

- **マフラが熱いときにはさわらないでください。ヤケドをすることがあります。**
- **ボンネットを閉めるときは、周囲に人がいないか注意して、ゆっくりと閉めてください。**

1.タイヤの空気圧、亀裂、損傷、締付ボルト、ナットのゆるみ点検

・タイヤゲージでタイヤの空気圧を点検してください。

空気圧：前輪　$1.2kg/cm^2$

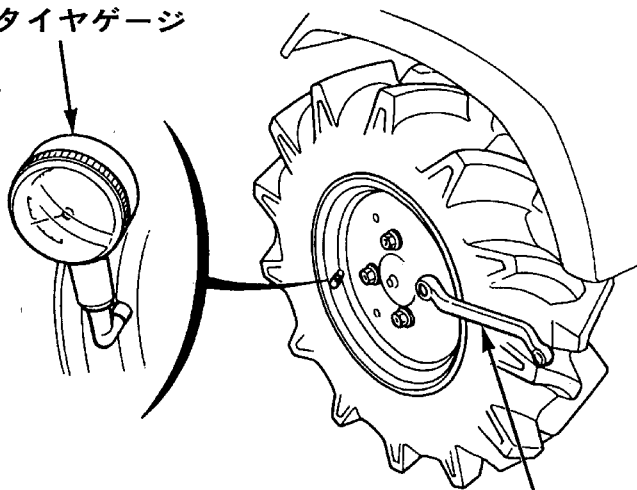
後輪　$1.0kg/cm^2$

・タイヤに亀裂、損傷がないか点検してください。

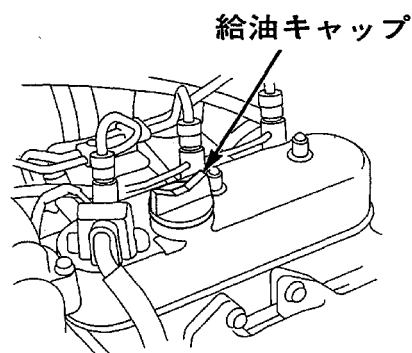
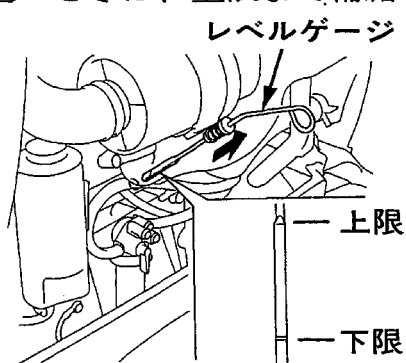
・締付ナット、ボルトを１つづつメガネレンチで確認し、ゆるい場合はメガネレンチで確実に締付けてください。

締付トルク：

前輪：13.0kg･m

後輪：13.0kg･m

2.エンジンオイルの点検

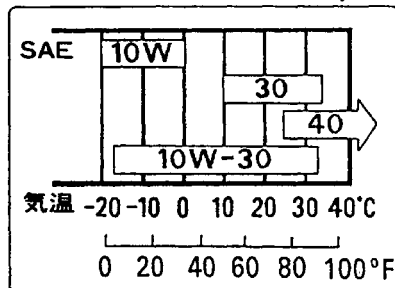
点　検

・エンジンオイルの点検はエンジンが冷えているときに行ってください。エンジンが暖まっているときに点検すると、実際のオイル量よりも少なく表示されます。
ボンネットを開けてエンジンオイルの量を点検します。
点検する前にレベルゲージや給油キャップ付近のほこりを取除きます。
エンジンオイルの量がレベルゲージの上限と下限の間にあるか点検します。
ゲージの取っ手の輪が下側に向くようにゲージをそう入して点検してください。
下限に近いときは、上限まで補給してください。

取扱いのポイント

- **オイルゲージは確実に差し込んでください。差し込みが不確実だとオイルがもれる事があります。**

補給

給油キャップを外し、新しいオイルをゲージの上限まで補給します。
・上限以上にオイルを入れないでください。

推奨オイル：クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用)D30又はD10W30

汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は75頁参照)

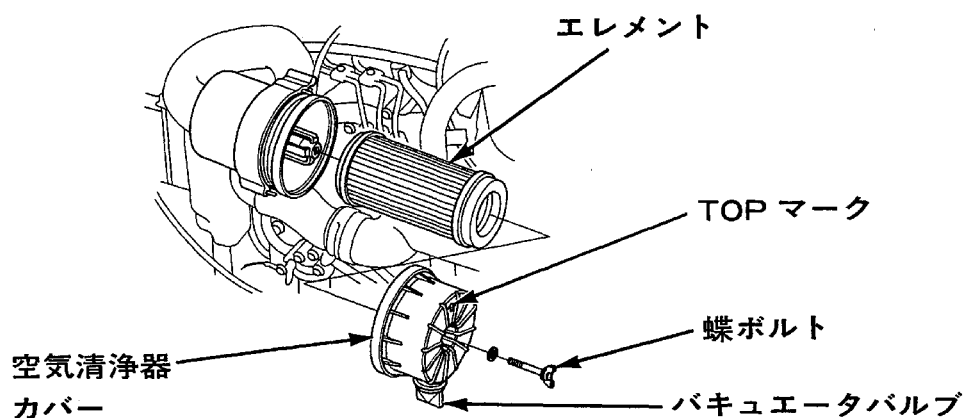
取扱いのポイント

- **キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルがもれる事があります。**
- **メーカー及び種類の異なるオイルを混入しないでください。**

3.空気清浄器(エアクリーナ)・バキュエータバルブの点検

1.蝶ボルトを外し、空気清浄器カバーを外します。

2.ろ過部(エレメント)の汚れを点検します。

3.汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。(80頁参照)

4.バキュエータバルブにゴミが附着していないか、水が洩れていないか、目視で点検します。清掃の方法は80頁を参照してください。

・空気清浄器を組付けるときは、カバーの⇧(TOPマーク)が上になるように取付けてください。

取扱いのポイント

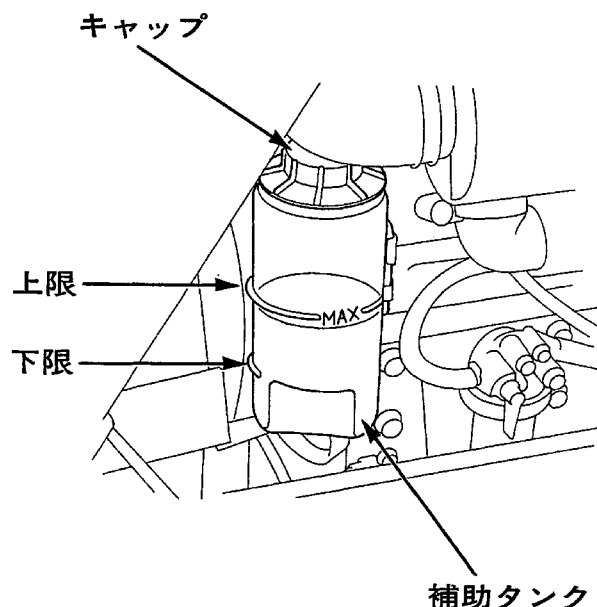
- **空気清浄器カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動で、カバーが外れることがあります。**
- **空気清浄器カバーやエレメントを装備しなかったり、正しく取付けられていないとエンジンに悪影響を与えます。**

4.ラジエータ(冷却水)の点検

点　検

ラジエータ、ラジエータホースなどからの液漏れ、液量、ラジエータキャップが確実に締っているか点検してください。

補　給

・補助タンクのキャップをはずし、"MAX"(上限)まで補給します。
指定ラジエータ液の濃度を50%にしてご使用ください。
液面は暖機時に上がり、冷機時に下がりますが、エンジン温度に関係なく"MAX"(上限)まで補給します。

・指定ラジエータ液:クボタ不凍液(ロングライフクーラント)

⚠警告

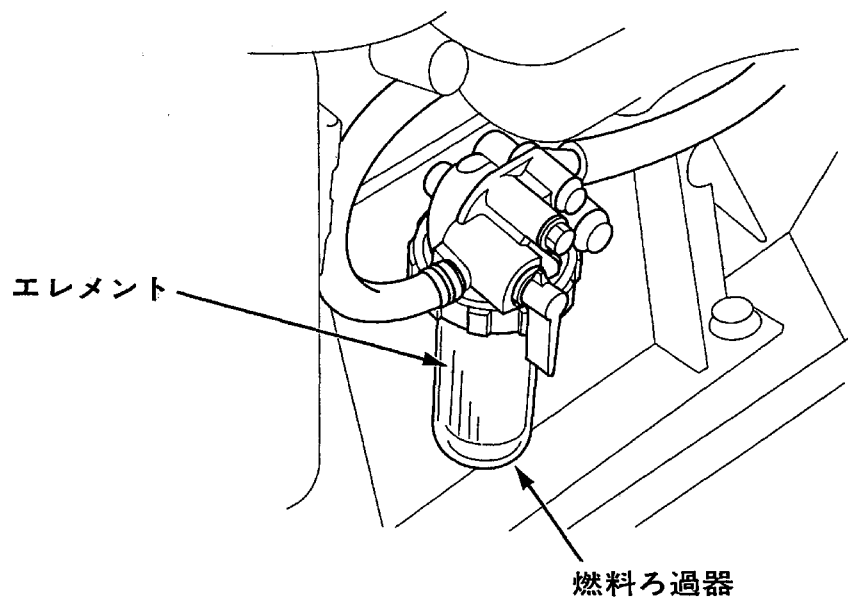
エンジン運転中や停止した直後などラジエータ液の温度が高いときに、ラジエータ本体のキャップを外すと蒸気や熱湯がふき出しヤケドをするおそれがあるので、ラジエータ液の温度が十分下がってから、布切れなどでキャップを包み静かに開けてください。

取扱いのポイント

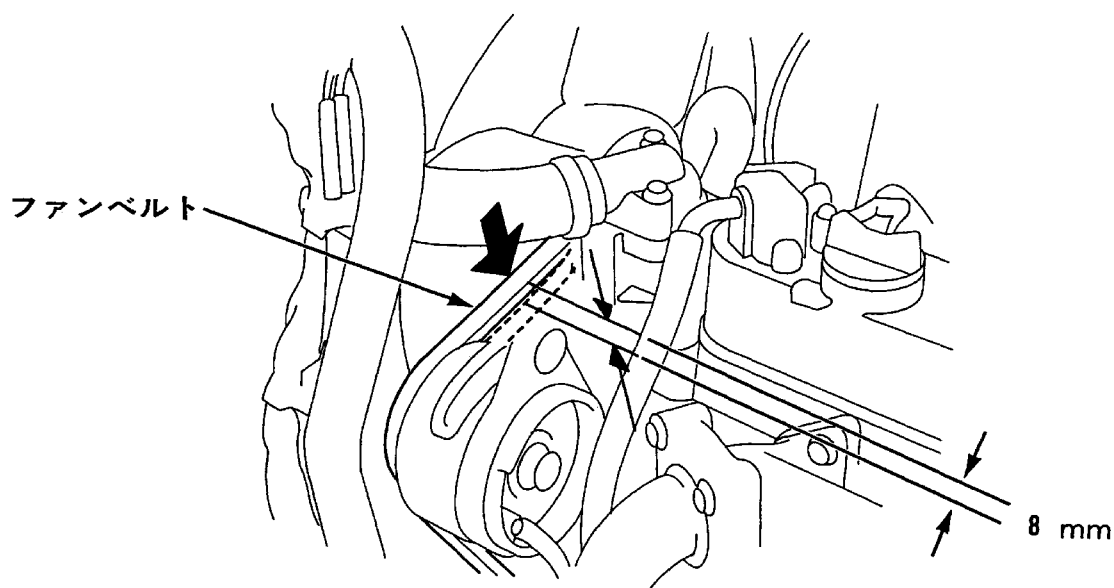
- **ラジエータ原液を規定濃度に薄めるときは上水道(軟水)を使用してください。**
- **指定以外のラジエータ液や上水道(軟水)以外の水を使用すると錆・凍結・オーバーヒートなどの原因となります。**

5.燃料ろ過器(フューエルフィルタ)の点検

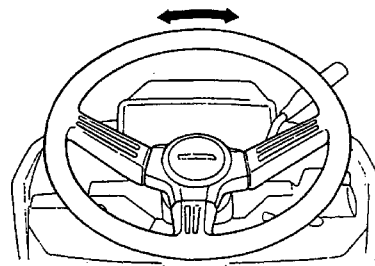
燃料ろ過器内のエレメントの汚れ、水、ゴミ等の沈殿物がないか点検してください。

燃料ろ過器の清掃は76頁を参照してください。

6.ファンベルトの点検

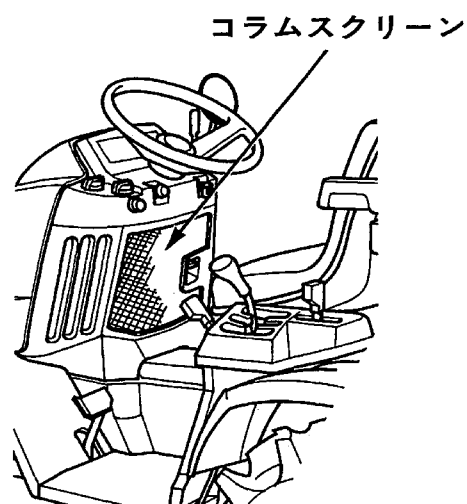
ベルトの張り、損傷を点検します。

ファンベルトの中央部を強く押して(約10kgの荷重)、たわみ量が8mm程度であれば適正です。たわみ量が適正値から外れているときは、お買いあげ販売店・農協へお申しつけください。

7.ハンドルの遊び、ガタの点検

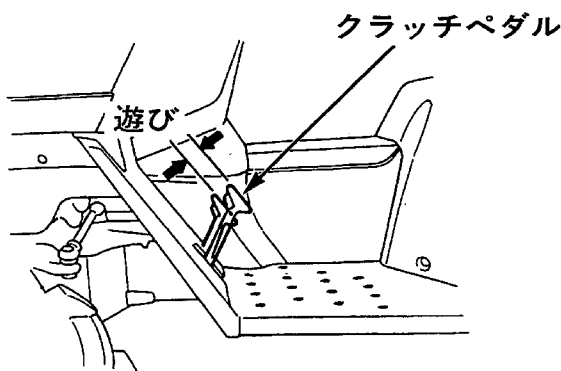
ハンドルの遊び30mm以下であること、また異常なガタがないことを確認してください。

もし異常があった場合は、お買いあげ販売店・農協へお申しつけください。

8.コラムスクリーンの点検

コラムスクリーンにゴミや汚れがないか点検してください。

コラムスクリーンの清掃は79頁を参照してください。

9.クラッチペダルの遊びの点検

クラッチペダルの遊びを点検してください。もし遊びが２mm以下になったときは、お買いあげ販売店・農協へお申しつけください。

標準値：15mm

10.ブレーキペダル遊び、ブレーキ摩耗限界の点検

1)遊びの点検

ブレーキペダルを踏み込んで遊び代が規定値になっているか確認してください。また左右の踏み込み量が異なっていないか確認してください。

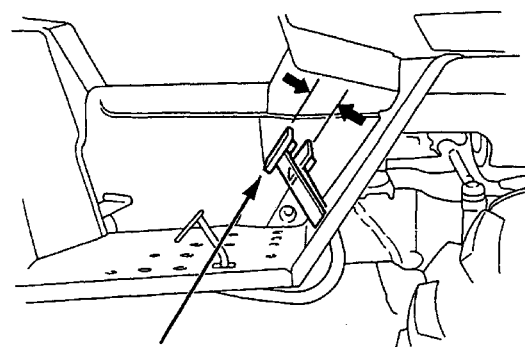
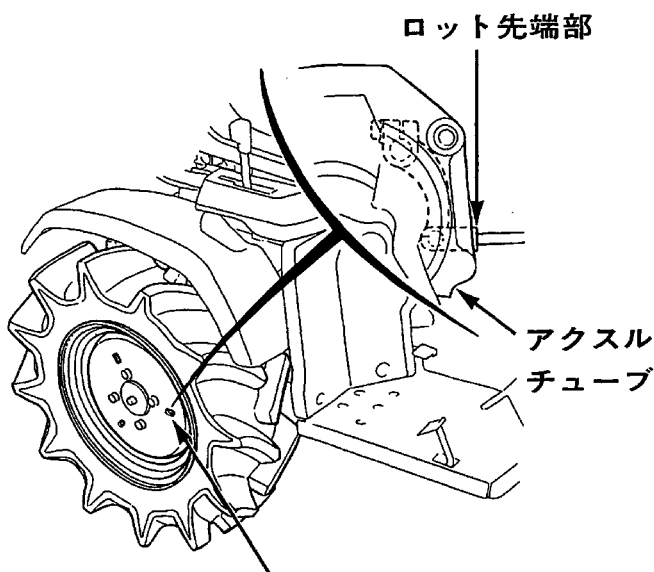
調整は78頁を参照してください。

遊び代　25mm

2)ブレーキ摩耗限界の点検

ブレーキ摩耗の状態を下記のように点検します。

> **取扱いのポイント**
>
> **点検は左右のブレーキ ペダルの遊び代を同一にした状態で行なってください。**

ホイルウエイト用の穴が図の様な位置にくるように停車してください。ブレーキペダルを連結した後、ブレーキ ペダルを強く踏み込み、駐車ブレーキをロックしてください。ホイルウエイト用の穴から図のようにロット先端が見えるかどうか確認してください。もし左右どちらか一方でもロッド先端が見えましたらお買いあげいただいた販売店・農協にお申しつけください。

11.燃料の点検

⚠警告

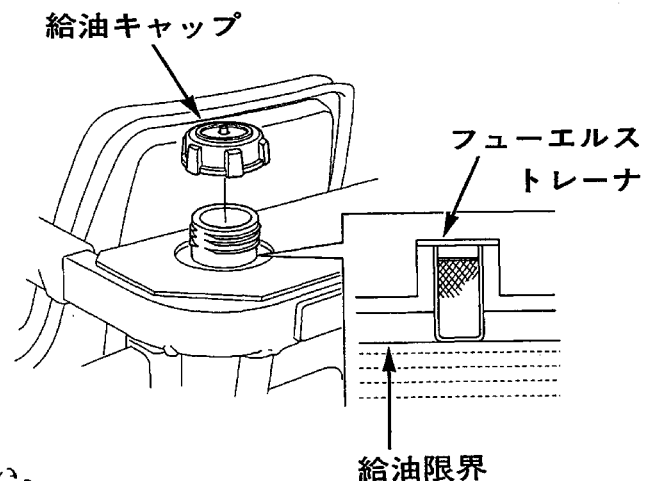
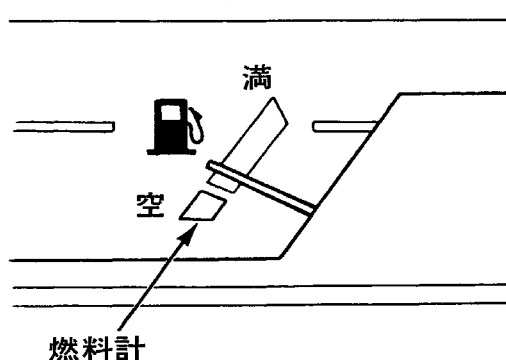
ディーゼル用燃料は非常に引火しやすく、火災を引き起こすことがあります。
ディーゼル用燃料の補給は、
- **エンジンを停止してください。**
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近付けないでください。**
- **ディーゼル用燃料はこぼさないように入れてください。万一こぼれたときは、布切れなどで完全にふき取り、火災や環境に注意して処分してください。**

点　検

エンジンスイッチキーを〝運転〞にしてから燃料計を確認してください。

燃料計の針が〝空〞に近づいたら、早めに燃料を補給してください。燃料を使いきってしまった場合は、燃料を補給するときに必ずエア抜きを行ってください。(54頁参照)

取扱いのポイント

- **携帯缶やポリタンクから給油する場合はフューエルストレーナを外さずに給油してください。**
- **ガソリンスタンドで給油する場合はフューエルストレーナを外して給油してください。**
- **給油限界以上に給油しないでください。**

補給

地域や季節に合った燃料を使用してください。

使用燃料：クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油

ディーゼル軽油JIS 2 号(－10℃まで)
JIS 3 号(－10℃から－20℃まで)
JIS特 3 号(－20℃以下)

タンク容量：13.0 ℓ

・補給後、給油キャップを取付け完全に締付けてください。

・エア抜き：下記を参照してください。

取扱いのポイント

- **ガソリンや揮発油、灯油等の燃料は絶対に使用しないでください。**
- **補給時はゴミや水が入らないように注意してください。**
- **寒冷地では夏用の燃料を冬期まで入れ放っしにしておくと気温が下がった時にエンジンが始動できない場合があります。**

12.燃料のエア抜きのしかた

燃料のエア抜きは、

・燃料ろ過器及び配管を外したとき

・燃料切れが起きたとき

・トラクタを長時間使用しなかったときなどに行う必要があります。

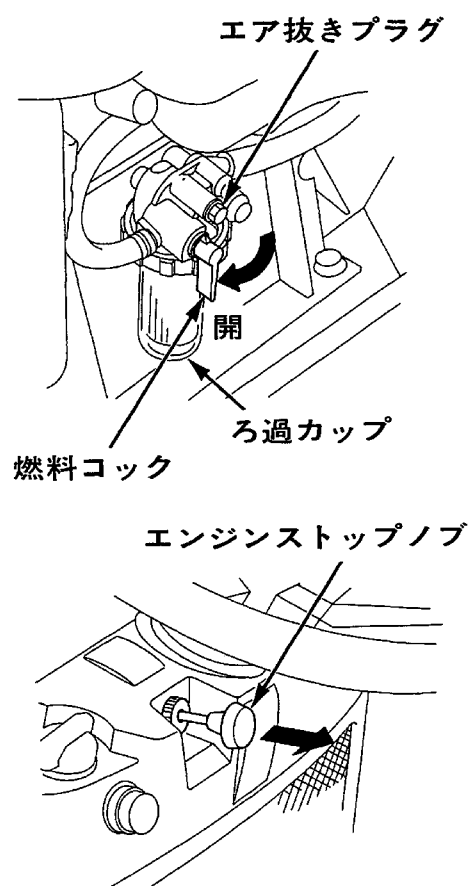
エア抜きのしかた：

1) タンクに燃料を満たします。

2) 燃料コックを“開”にします。

3) エア抜きプラグを左に回してゆるめ(約10秒間)、ろ過カップ内に燃料が満たされたことを確認してからエア抜きプラグを確実に締付けます。

4) エンジンストップノブを引き(エンジンは始動させない)、セルモータを約10秒間回します。

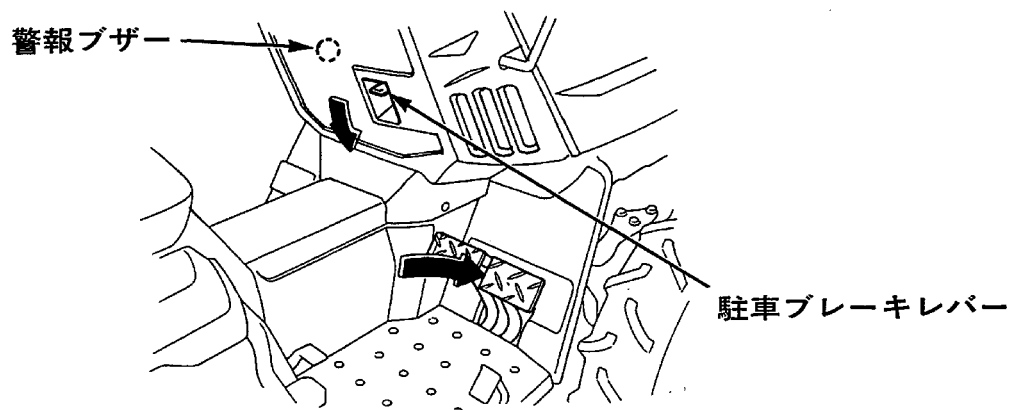
・セルモータを連続10秒間回し、30秒間休みます。この操作を１～２回繰り返します。

⚠警告

エア抜きが終わった後、プラグから洩れた燃料を完全に拭き取ってください。

取扱いのポイント

エア抜きプラグは、エア抜きをするとき以外は必ず確実に締付けておいてください。締付けがゆるいと燃料が洩れて危険です。

13.駐車ブレーキ、警報ブザーの点検

ブレーキペダルの連結板をセットし駐車ブレーキのロックが確実に行える事を確認してください。駐車ブレーキをロック状態にしてクラッチペダルを踏み込み、エンジンスイッチを〝運転〟にして主変速レバーを入れ(中立以外)警報ブザーが鳴り続ける事を確認してください。この状態で駐車ブレーキを解除したとき警報ブザーが止まれば正常です。

14.油圧系オイルの点検

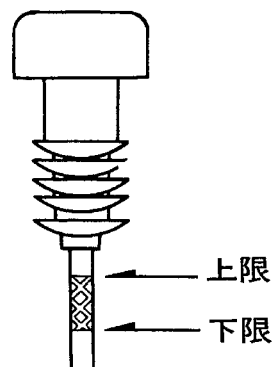
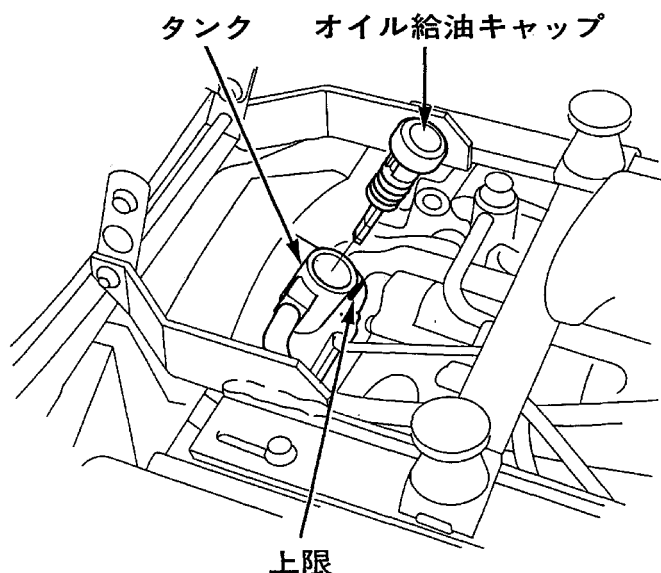
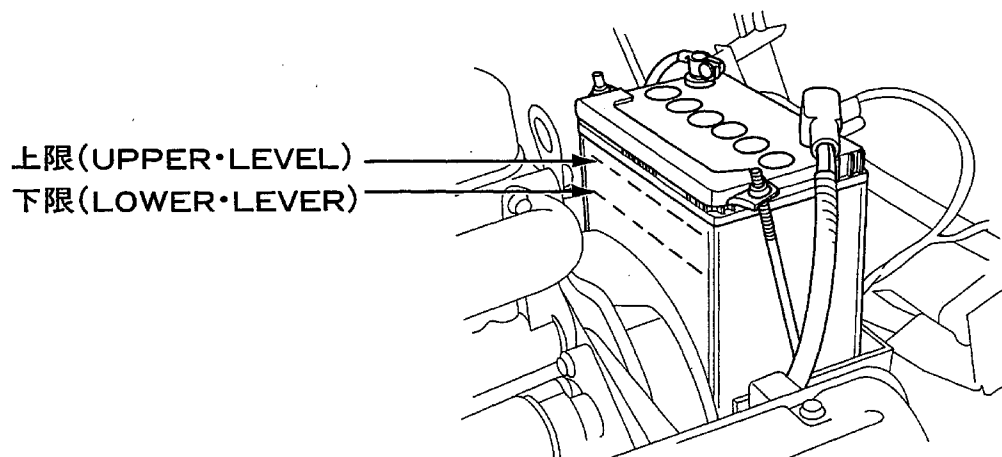
取扱いのポイント

点検する前に必ずアタッチメントを取外しリフト アームを最下降位置まで手で押し下げてオイル給油キャップを外し、キャップを差し込んでオイルの量を点検してください。油面が下限に近いときはタンクの上限までオイルを補給してください。

シートを上げて点検します。

指定オイル：クボタ純オイルスーパーUDT又はUDT

急激に減っているときは、油圧系統の異常が考えられます。お買いあげ販売店・農協へお申しつけください。

15.バッテリ液の点検

バッテリの液面が各槽とも上限(UPPER・LEVEL)と下限(LOWER・LEVEL)の間にあるか点検してください。

液が少ないときは82頁を参照して補給してください。

⚠警告

- **バッテリを取り扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。(バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。)**
- **バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、すみやかに専門医の診察を受けてください。**

16.電装品の点検(この点検はエンジンスイッチキーを使用します)

エンジン スイッチを"運転"の位置にして、次の項目を点検してください。

1.前照灯の点灯、消灯確認

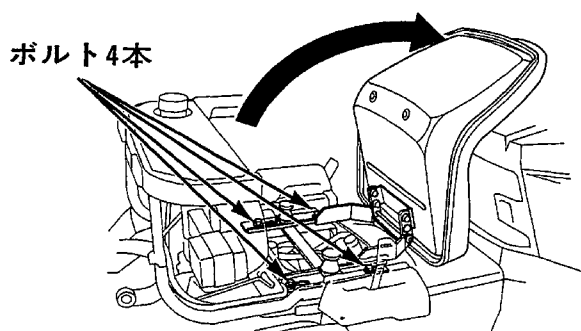
2.方向指示器、点滅の確認

3.警音器(ホーン)の確認

4.メータ パネル内の表示灯の作動確認

17.シートの位置調整

運転に適した位置にシートを調整してください。

調整は取付けボルトをゆるめて行い、調整後確実に取付けボルトを締付けてください。

運　転　の　し　か　た

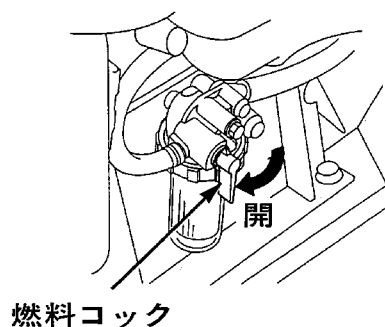
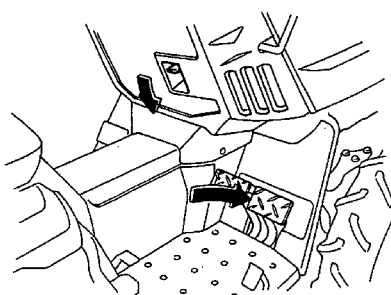
⚠警告

排気ガスの中には有毒な成分が含まれています。排気ガスによる一酸化炭素中毒のおそれがありますので、密閉された場所でエンジンをかけないで必ず換気のよい所で行ってください。

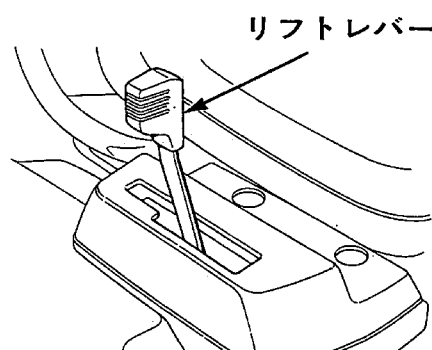
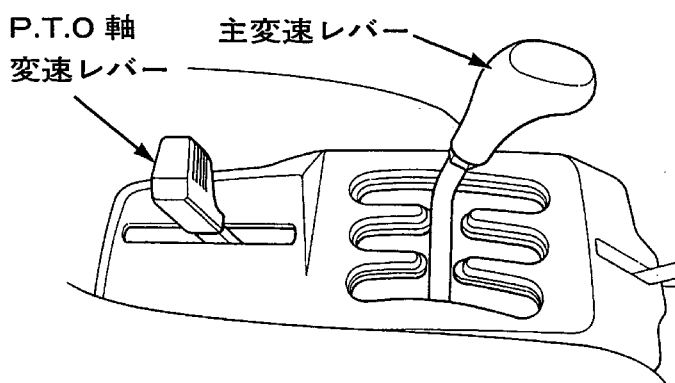
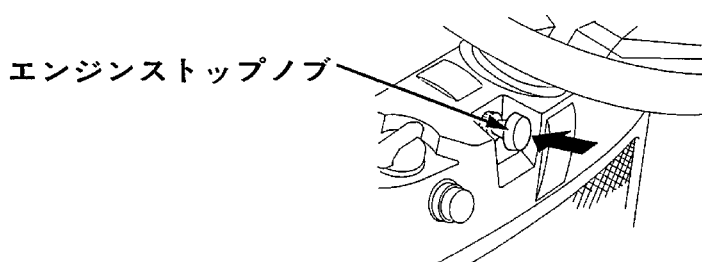
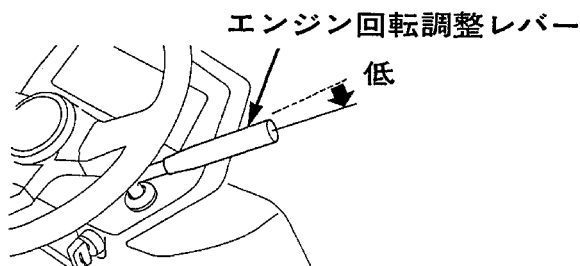
エンジンのかけかた

1.駐車ブレーキを確実にロックしてください。

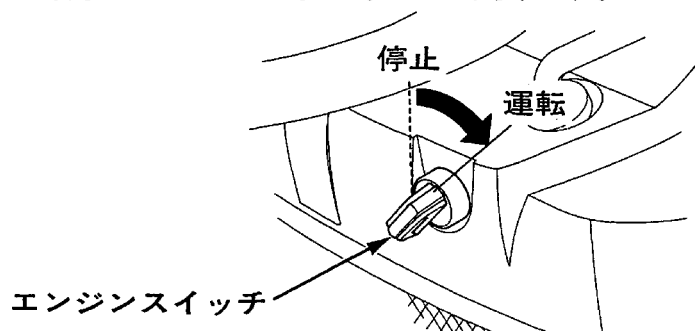
ボンネットを開き、燃料ろ過器の燃料コックを〝開〞の位置にします。

ボンネットを閉めます。

2.シートにすわり、主変速レバー、P.T.O軸変速レバー、リフトレバーを〝中立〞位置にしてください。

⚠警告

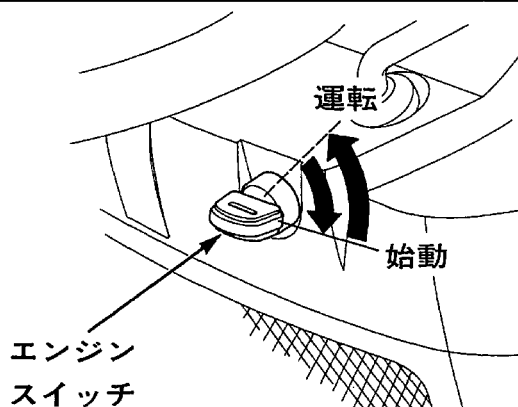
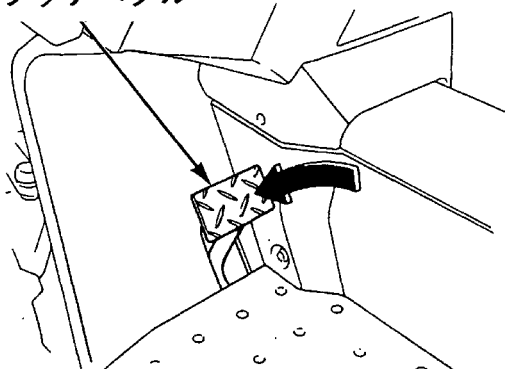
始動時の急発進、巻き込まれ防止の為、必ずシートに座ってエンジンを始動してください。

3.エンジンストップノブを押し込みます。

4.エンジン回転調整レバーを少し(中程)引いてください。

5.エンジンスイッチにキーを差し込み〝運転〟の位置まで回します。

予熱表示灯が点灯し、グロープラグの予熱が終了すると(4～6秒後)表示灯が消えます。

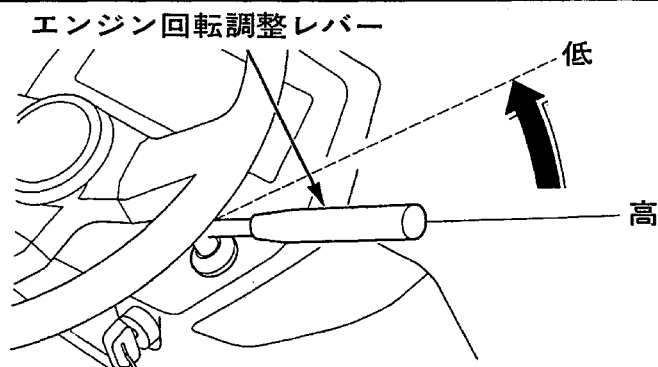
・外気温が－5℃以下のときは、表示灯が消えた後に一度エンジンスイッチを〝停止〟位置に戻し、再度〝運転〟の位置にまで回し、予熱を2回繰り返してください。
エンジンが暖まっているときは予熱は不要です。

6.クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、エンジンスイッチキーを〝始動〟の位置まで回わしてください。エンジンが始動したらキーから手を離してください。自動的に〝運転〟の位置まで戻ります。

・始動するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとセルモータは回転しません。

取扱いのポイント

- **セルモータは大電流を消費しますので10秒以上の連続使用は避けてください。10秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを停止にして30秒以上休んでから再び始動の操作を行ってください。**
- **エンジン運転中は、エンジンスイッチキーを〝始動〟の位置にしないでください。セルモータの故障の原因となります。**

7.エンジン回転調整レバーを〝低〟の位置に戻してください。

⚠注意

エンジン回転調整レバーが高の位置になっていると急に飛び出すことがあります。必ず低の位置にしてください。

暖機運転とならし運転

・暖機運転

エンジン始動後、約5分間は暖機運転を行ってください。オイルをあたため各部にゆきわたらせることによって、摩耗を減少し、焼付きや破損などを防止する効果があります。

⚠注意

暖機運転中は必ず駐車ブレーキをロックしてください。

取扱いのポイント

寒冷地(冬期)及び長期保管後は十分暖機運転を行ってください。

・ならし運転(最初の60時間)

ピストン、シリンダやカムシャフトの摩耗を防止しエンジンの寿命をのばします。

ならし運転中は次のことに特に注意して運転してください。

(1) 作業は十分に暖機運転を行った後開始してください。

(2) 急発進、急停止をしないでください。

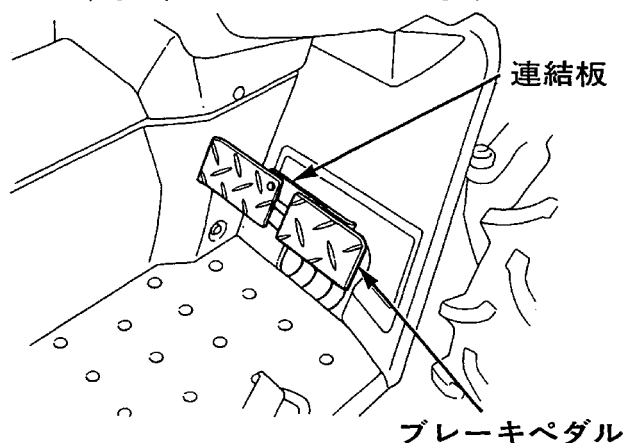
(3) エンジンや車体に無理な負荷をできるだけかけないように運転してください。

発進・走行のしかた

⚠警告

● 始動時の急発進、巻き込まれ防止のため、
- 主変速レバー、PTO変速レバー、油圧昇降レバーを中立にしてください。
- エンジンは必ず運転席に座って始動してください。

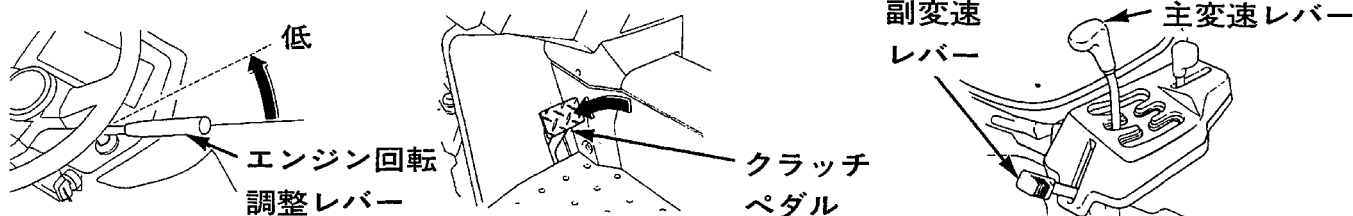
● 運転時の転倒、転落、巻き込まれ防止のため、
- 前後左右に人がいないことを確認してください。
- 本機および作業機の上には人や物をのせないでください。
- 急発進、急停止、急旋回はしないでください。
- 溝や穴の近く、路肩などくずれやすい所では運転しないでください。
- 傾斜地、坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗り越えでは遅い車速で運転し途中で変速しないでください。
- 道路走行時はデフロックを使用しないでください。
- 作業機をつけて公道を走行しないでください。

1.ブレーキペダルが左右セット(連結)されていることを確認してください。

2.作業機を取付けているときは、リフトレバーで作業機を上げてください。

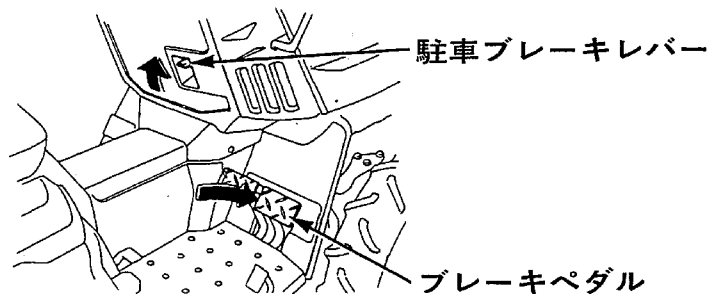
3.エンジン回転調整レバーを〝低〟の位置にします。

クラッチペダルを踏み込んで、主、副変速レバーを使用する位置に入れてください。主変速レバーを入れたときに、駐車ブレーキ戻し忘れ警報ブザーが鳴ります。

取扱いのポイント

走行中に変速はできません。必ずクラッチペダルをいっぱい踏み込んで本機を停止させてから行ってください。

4.ブレーキペダルを踏んで駐車ブレーキを解除してください。警報ブザーは止まります。

取扱いのポイント

駐車ブレーキは必ず解除してください。

5.アクセルペダルを少し踏み、クラッチペダルをゆっくり離してください。スムーズに発進ができます。

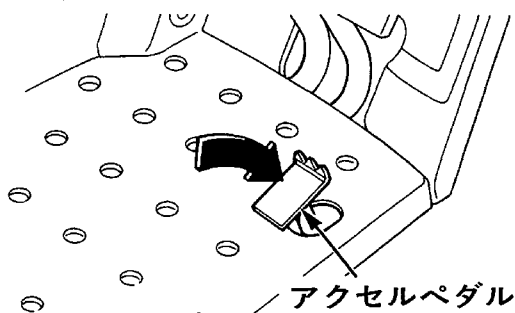
⚠警告

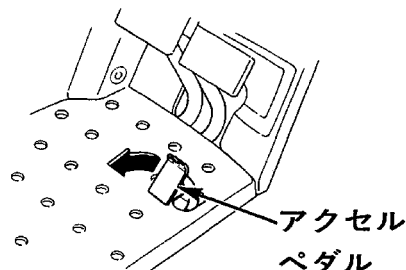
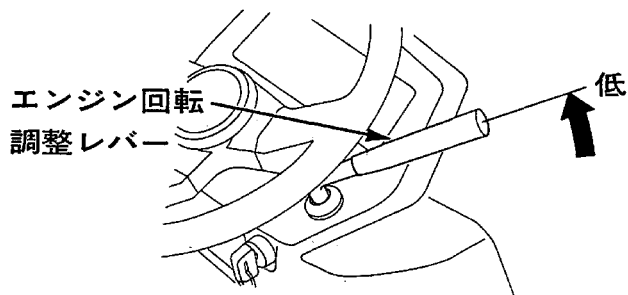
本機を動かす前には、前後左右に注意してください。

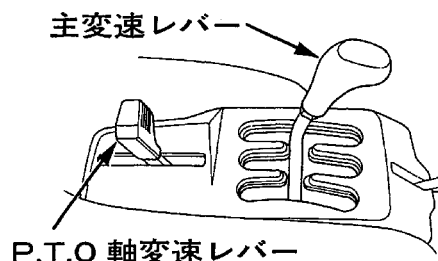
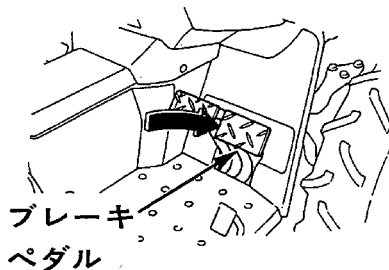
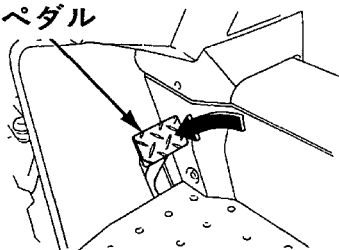
⚠注意

急にクラッチペダルを離すと急に飛び出すことがありますので、必ずクラッチペダルはゆっくりと離してください。

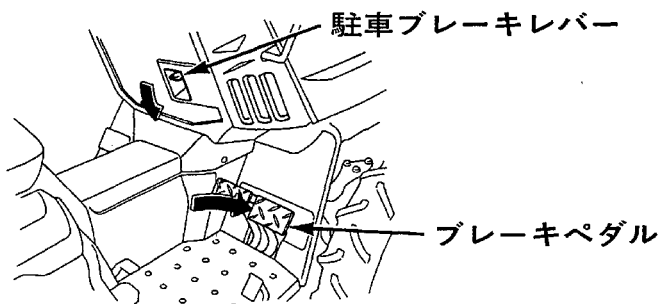
取扱いのポイント

走行中はクラッチペダルの上に足を乗せないでください。またクラッチを切るときは素早く行ってください。

停車・エンジン停止のしかた

1.アクセルペダルを離して、エンジン回転調整レバーを〝低〟の位置にしてください。

2.クラッチペダルを踏み込み、同時にブレーキペダルを踏込みます。完全に本機が停止してから、主変速、P.T.O軸変速レバーを〝中立〟にしてください。

・作業機を取付けている場合は、リフトレバーで作業機を地面まで下げてください。

取扱いのポイント

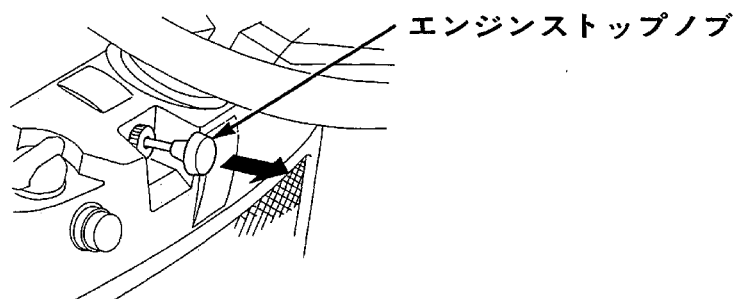
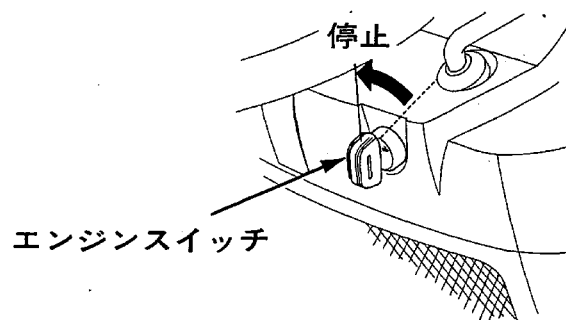
超低速度(1、2速)では車軸の回転力が大変強くなり、ブレーキペダルだけを強く踏んでもブレーキはききづらくなります。またブレーキペダルだけを強く踏むと本機を破損する原因になります。必ずクラッチペダルを踏んでからブレーキペダルを踏んでください。

3.ブレーキペダルを強く踏み込み、駐車ブレーキレバーを押しさげロックしてください。

取扱いのポイント

本機をやむをえず坂道の途中で止めておく場合は、本機の重量に耐える石、木片等で下側の車輪に車止めをしてください。

4.エンジンストップノブをいっぱいに引いてください。

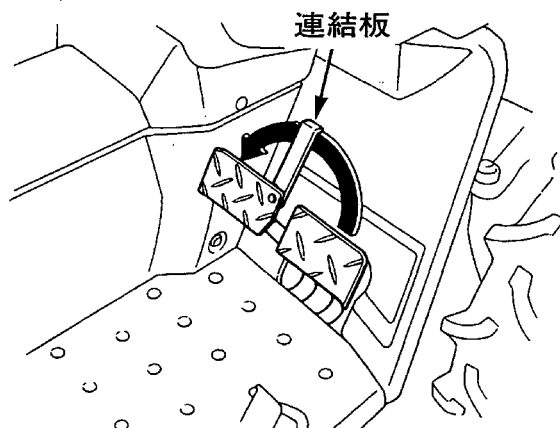
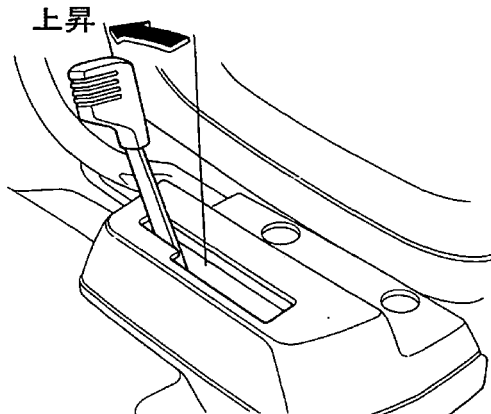
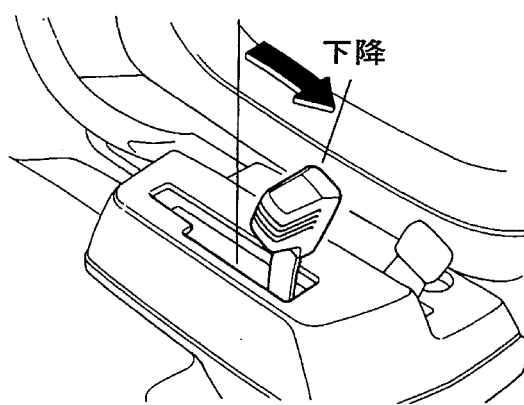
ノブはエンジンが完全に停止するまで、引いた状態にしておいてください。

エンジンが停止したら、エンジンストップノブを元に戻します。

5.エンジンスイッチを〝停止〟にしてキーを外してください。

6.燃料コックを〝閉〟の位置にします。

旋回のしかた

旋回する前に必ずデフロックペダルが解除されていることを確認してください。(37頁参照)

旋回するときは、エンジン回転を落とし車速を低くして、ゆっくりと旋回してください。

1.圃場での作業時に片ブレーキが必要な場合は、ブレーキペダルの連結板を外して、右、左単独にブレーキが効くようにしてください。

2.耕うん作業等で旋回する時は、作業機をリフトレバーで上昇させて、旋回後下降させてください。

3.信地旋回(片ブレーキ旋回)の時には、ハンドルを旋回方向へ回わしながら旋回方向のブレーキペダルを踏み車輪をロックさせて旋回してください。

旋回完了後ブレーキを解除し、ハンドルを戻してください。

⚠警告

- **旋回するときは、周囲を十分確認して旋回してください。**
- **高速では絶対に旋回しないでください。横転等、重大な事故につながります。**

取扱いのポイント

旋回時は必ず作業機が上昇しているか確認してください。

坂道での運転のしかた

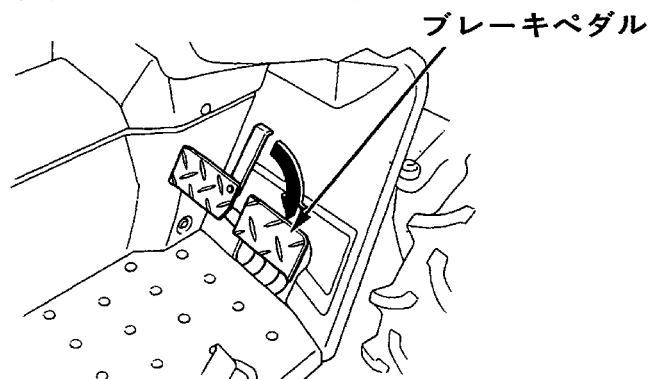
坂道の状態に応じた速度を選び走行してください。

1.登り坂の場合

1)ブレーキペダルが左右セット(連結)されているか確認してください。

2)坂の手前でいったん停止してください。

3)変速レバーを車速の遅い位置に入れてください。

4)エンジン回転を落し、ゆっくり発進してください。

2.下り坂の場合

・ブレーキペダルが左右セット(連結)されていることを確認してください。

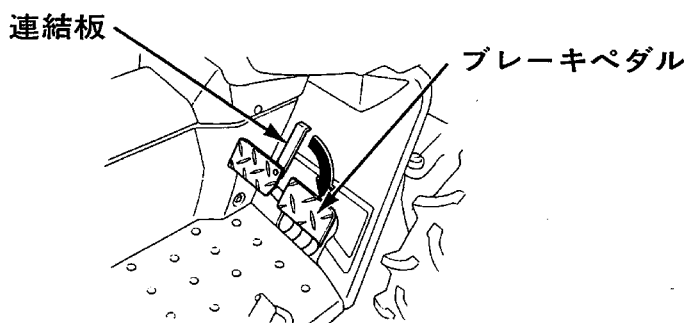
・坂の手前で一旦停止して、エンジン回転を〝低〞にし変速レバーを低速にして、エンジンブレーキを使用してください。

⚠警告

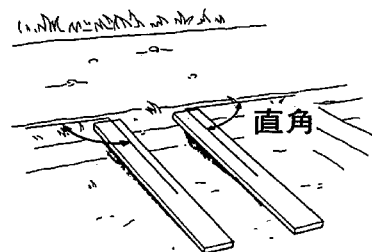
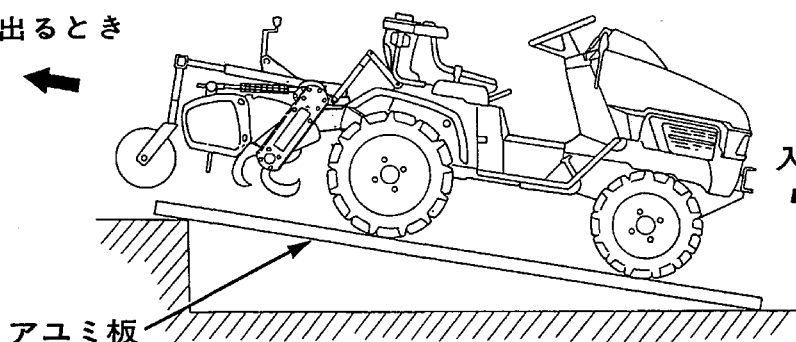
- **ブレーキペダルのセット(連結)を必ず確認してください。**
- **デフロックの解除を必ず確認してください。(37頁参照)**
- **遅い車速で運転してください。**
- **坂道では主変速を中立にしたり、変速操作やクラッチを切ったりしないでください。**
- **坂道では駐車しないでください。やむをえず駐車する時は、駐車ブレーキをロックして、車輪止めをしてください。**

・登り坂での発進はとくにゆっくりと行ってください。万一急な坂道で途中で停止したときは、すぐにブレーキを踏み、次にクラッチを踏み込んで徐々にブレーキをゆるめながら平坦な所まで移動してください。再度エンジンを始動して登ってください。

圃場への出入り時の注意

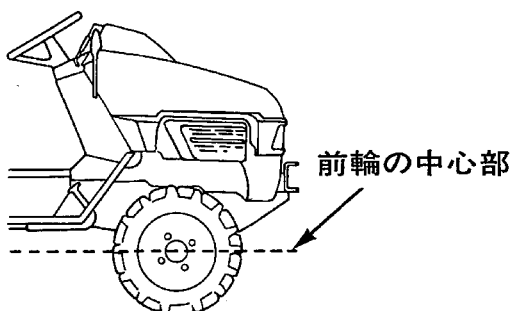
1.ブレーキペダルが左右セット（連結）されているか確認してください。

2.圃場への出入りは、高低差が大きいと危険ですのでアユミ板などを使用してください。
ハンドルは直進にして直角に出入りし、十分注意してください。

3.畦道と圃場への出入りは、斜めに登り降りせず直角に出入りしてください。

4.圃場への出入りは、トラクタの前・後のバランスを考慮して慎重に行ってください。
登り始めは、作業機を降ろして重心を下げ、トラクタの前・後輪があぜに上ると同時に作業機を上げてください。

⚠警告

- **転倒や衝突により死傷するおそれがあるのでブレーキペダルのセット（連結）を必ず確認してください。**
- **遅い車速で運転し、途中で変速しないでください。**

湿田での注意

土質等で異なりますが前輪の中心部より車輪が沈むような場所では使用しないでください。

公道走行時の注意

取扱いのポイント

公道を走行するときは、必ず免許(小型特殊)を携帯して、交通ルールをお守りください。

1.ブレーキペダルは必ず左・右セット(連結)してください。

2.デフロックが解除されていることを確認してください。

3.作業機を装着して公道を走行する事はできません。道路運送車両法に違反となります。

4.公道走行中進路方向を変えるときは、方向指示器で進路方向を周囲に知らせてください。

⚠警告

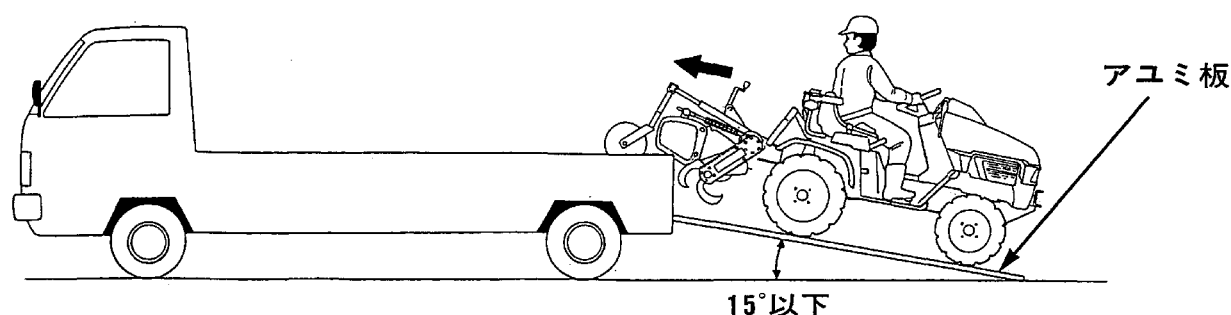
- **公道走行中はデフロックは使用しないでください。**
- **公道走行するときは、関係法規を守り安全運転に心がけてください。**
- **本機は乗車定員1名です。運転者の他は乗せないでください。**
- **溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは、特に路肩に注意してください。**
- **ブレーキペダルをセット(連結)していないと、ブレーキが片効きになり、本機が急旋回して、転倒、転落などを引きおこし大変危険です。**
- **公道走行する場合は道路運送車両の保安基準に適合してください。**
- **走行中はエンジン回転調整レバーを低の位置にして、アクセルペダルで速度を調節してください。**

運　搬　・　保　管　の　し　か　た

運搬（トラックへの積込み、積降ろし）

1.積込む時は、必ず傾斜角度15度以下になるように十分な強度と長さのアユミ板を使用し、本機の車輪幅に合わせ確実にセットしてください。

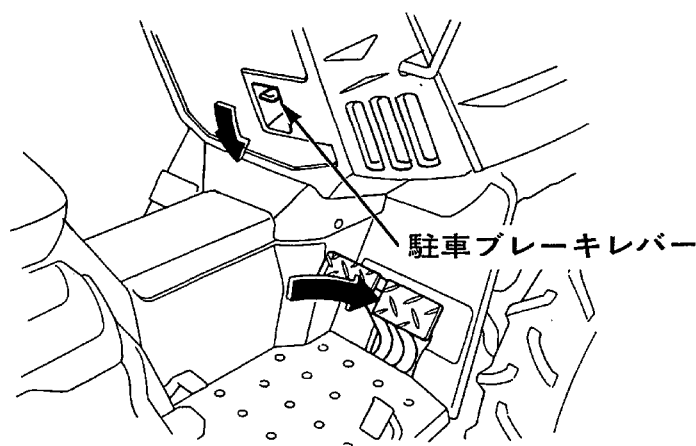
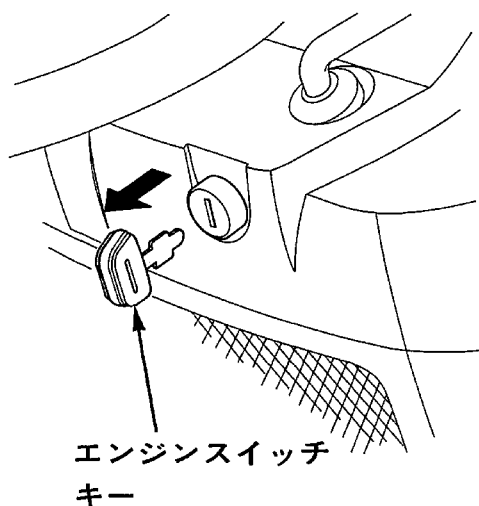
2.本機の車輪とアユミ板を一直線上に合わせ、作業機側から低速で積込んでください。

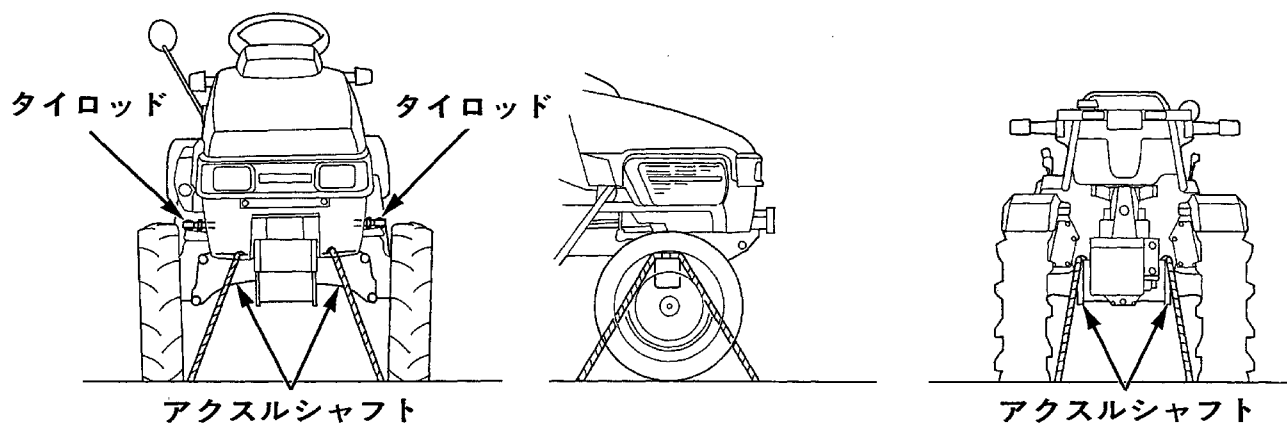
3.ハンドル操作は落輪しないように慎重に行ってください。

⚠警告

- **必ず左右のブレーキペダルはセット（連結）してください。**
- **遅い車速で運転し、途中で変速しないでください。**

・万一積込む途中でエンストしたときは、すぐにブレーキペダルを踏み、次にクラッチペダルを踏み込んで徐々にブレーキをゆるめながら、平担な所まで移動してください。　再度エンジンを始動して積込み作業を行ってください。

・積込み、積降ろし作業は２人以上で安全を確認してから行ってください。

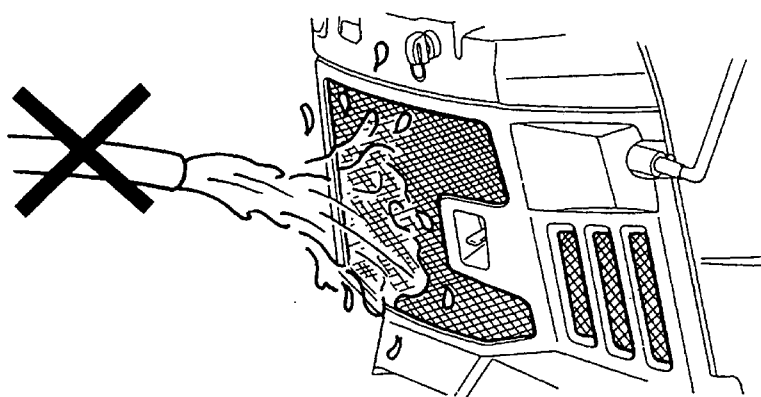
4.積込み後は、エンジンを停止し（62頁参照）、エンジンスイッチキーを外し、駐車ブレーキをロックします。ロープ等で本機を確実に固定してください。

5.積降ろしは、積込みの逆の手順で安全に注意して行ってください。

ロープ、タイダウンベルトのかけかた

取扱いのポイント

- **タイロッドにはロープやタイダウンベルトをかけないでください。**
- **前後のアクスルシャフトにロープ等をかけてください。**

使用後の手入れ

エンジン停止直後はエンジン、消音器が高温になっています。点検、整備等は十分に冷えてから行ってください。

各部の清掃を行い(特に消音器及び、エンジンの高温部分のゴミ等)、格納するときは作業機をいちばん下まで下げ、エンジン、消音器が完全に冷えてから格納してください。

取扱いのポイント

洗車するときは、コラムスクリーンに水をかけないでください。
コラムスクリーンの内側には、空気清浄器(エアクリーナ)の空気取入れ口や、電装部品があります。水がかかると故障の原因となります。

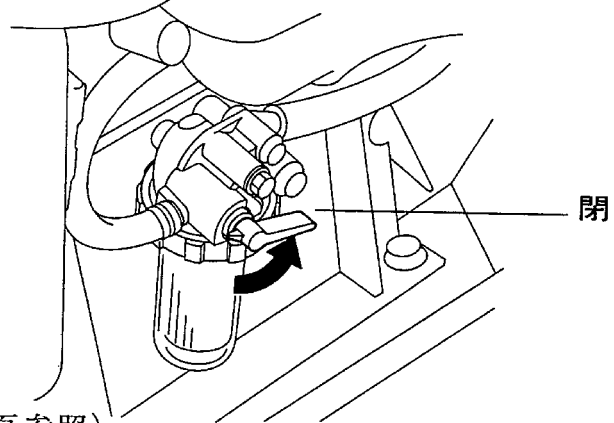
長期間使用しない場合の手入れ

本機を長期間使用しないときは、次の項目の手入れを行った後格納してください。

1.次回の使用に備え、不具合箇所を整備し、定期点検項目の確認を行ってください。

2.エンジンオイルを新しいオイルに交換し、エンジンを約10～15分間回して、各部にオイルをゆきわたらせてください。

エンジンオイルの交換は75頁を参照してください。

3.燃料コックを〝閉〟の位置にします。

4.各部にグリースを塗布してください。(87頁参照)

5.タイヤの空気圧は、標準より少し多めに(約10％増)入れてください。

6.各部の配線、バッテリコード、燃料、油圧配管などの亀裂、被覆の破れ、コードクランプの外れは確実に点検、整備してください。

取扱いのポイント

カプラ等の電装品には防錆剤などを塗付しないでください。

7.バッテリアースコードを端子から外し、ビニールテープ等をまいておいてください。また、格納中バッテリは１ヶ月に一回完全充電してください。

8.不具合箇所は整備してください。

9.定期点検項目を確認してください。

10.駐車ブレーキをロックして、風通しの良い乾燥した場所に本機を水平にして格納してください。

⚠注意

本機にシートをかけて格納するときは、エンジン、排気系が完全に冷えてから行ってください。
火災の原因になります。

取扱いのポイント

作業機は完全に降ろした状態で保管してください。

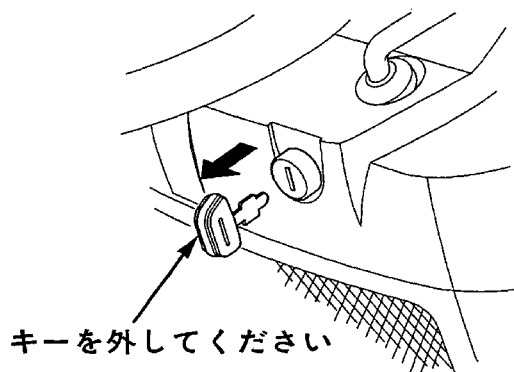
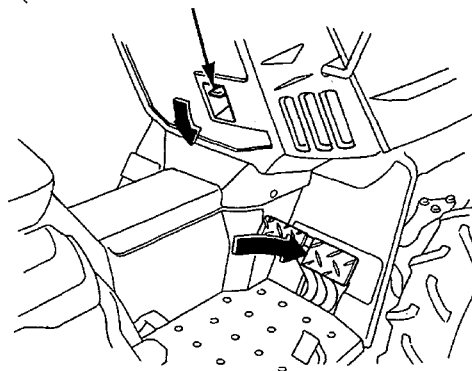
定期手入れを行いましょう

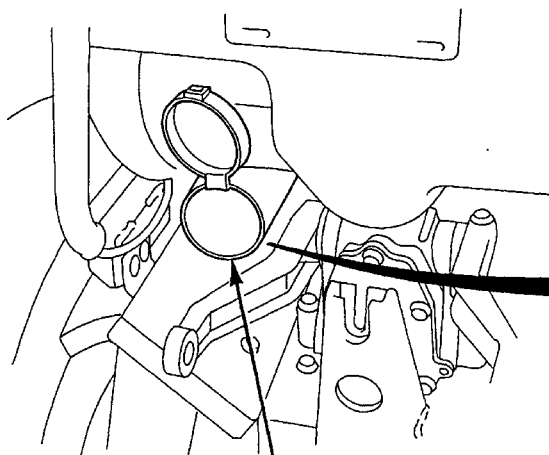
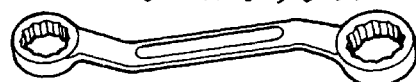
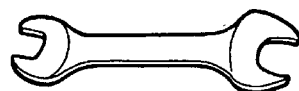
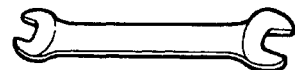
⚠警告

- 手入れを行うときは、エンジンを止めエンジンスイッチキーを外して、駐車ブレーキをロックして、本機を平坦な広い場所に置き、安全を確認してから行ってください。
- 作業機を完全におろし、下降速度調整ノブを右(遅い)の方向にいっぱいに締め、油圧をロックしてください。

・手入れや修理には必らず純正部品を使用してください。

本機の高い性能を維持するためには、定期的な点検整備が不可欠です。長持ちさせるためにも、定期的な手入れが必要です。

点検時期と点検整備項目が次頁の表に示してあります。

携帯工具

工具は点検、整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。

定期点検表

	点検時間 / 点検項目 / ※3 作業面積（アール）	作業前点検	初回		50時間運転毎	100時間運転毎	200時間運転毎	300時間運転毎又は1年毎	400時間運転毎	500時間運転毎	2年毎	4年毎
			20時間目	50時間目								
	※3 作業面積（アール）		120～200	300～500	300～500	600～1000	1200～2000	1800～3000	2400～4000	3000～5000		
潤滑系統	エンジンオイル　点検 交換	○		○		〈注3〉 ○						
	エンジンオイルフィルタ　交換			○〈注2〉			○〈注2〉					
	変速機オイル　点検					○						
	油圧系オイル　点検	○										
燃料系統	燃料ろ過器(フューエルフィルタ)　点検 (エレメント含む)　清掃	○				○						
	燃料ろ過器エレメント　交換								○			
	燃料の量、もれ　点検 燃料タンク　清掃	○								○〈注2〉		
	燃料チューブ　点検 交換										○ 〈注2〉	○ 〈注2〉
冷却系統	ラジエータ液(液量、洩れ)　点検 ラジエータ液　交換 (ラジエータ内清掃含む)	○									○ 〈注2〉	
	コラムスクリーン　点検 ラジエータスクリーン　清掃	○			○ 〈注1〉							
	ファンベルト　点検 調整	○			○〈注2〉							
エアクリーナ	空気清浄器(エアクリーナ)　点検 (エレメント含む)　清掃	○				○〈注1〉						
	空気清浄器エレメント　交換							○〈注4〉				
電装系統	バッテリ　液量　点検 液補充　端子　点検 充電状態　点検	○			○ ○〈注2〉							
	前照灯　点検	○										
	方向指示器　点検	○										
	警音器(ホーン)　点検	○										
	電気配線　各ターミナルのゆるみ クランプの状態　点検							○〈注2〉				

※1操作系、車体の定期点検は次頁参照してください。
※2〈注1、2、3、4〉は次頁参照してください。
※3作業面積はあくまで目安です。(作業内容、作業条件により異なります。)

	点検時間 ／ 点検項目	作業前点検	初回		50時間運転毎	100時間運転毎	200時間運転毎	300時間運転毎又は1年毎	400時間運転毎	500時間運転毎	2年毎	4年毎
			20時間目	50時間目								
	※3 作業面積（アール）		120〜200	300〜500	300〜500	600〜1000	1200〜2000	1800〜3000	2400〜4000	3000〜5000		
操作系統／車体	ハンドル　遊び、ガタ　点検	○										
	タイヤ（締付ボルト、ナット、空気圧、亀裂、損傷）　点検	○										
	ブレーキ　遊び、効き　点検	○										
	調整		○					○				
	ブレーキ摩耗限界　点検	○										
	クラッチペダル　遊び　点検	○										
	調整							○〈注2〉				
	駐車ブレーキ、警報ブザー作動　点検	○										
	デフロックペダル　遊び　点検							○〈注2〉				
	調整							○〈注2〉				
	トーイン　調整							○〈注2〉				
	タイロッド曲がり ボールジョイントのガタ							○〈注2〉				
	各部の締付点検、増締め 各部給油及びグリス塗布							○				

〈注1〉ホコリ等の多い所で使用した場合、空気清浄器、コラムスクリーン及びラジエータスクリーンの清掃は、作業に合わせ1日1回又は数時間毎に行って下さい。
〈注2〉これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、販売店・農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにご相談ください。
〈注3〉エンジンオイルの交換は、年間使用時間が100時間以下の場合は1年毎に実施してください。
〈注4〉空気清浄器（エアクリーナ）エレメントは、年1回又は6回清掃毎に交換してください。

やさしい点検・整備

点検、整備は平坦な場所で本機を水平にして行ってください。

安全装置機構の点検

> ⚠警告
>
> **点検する前に本機の前後に人や障害物がないことを確認してください。**

・正しい運転手順で運転しないと安全装置機構が働いてエンジンが始動しないようになっています。
・安全装置機構に異常がある時は、お買いあげ販売店・農協へお申しつけください。

次の点検を行う時は、シートにすわり、駐車ブレーキをかけて行ってください。

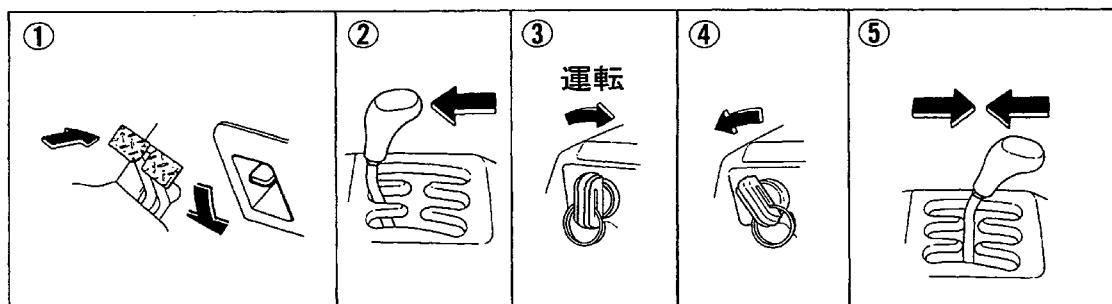
駐車ブレーキの警告ブザーの点検

①駐車ブレーキをセットしてください。

②主変速レバーを〝1速〟または〝2速〟の低位置にしてください。

③エンジンスイッチキーを〝運転〟の位置にして警報ブザーが鳴ることを確認してください。

④エンジンスイッチキーを〝停止〟の位置に戻してください。

⑤主変速レバーを〝中立〟の位置にしてください。

クラッチスイッチの点検

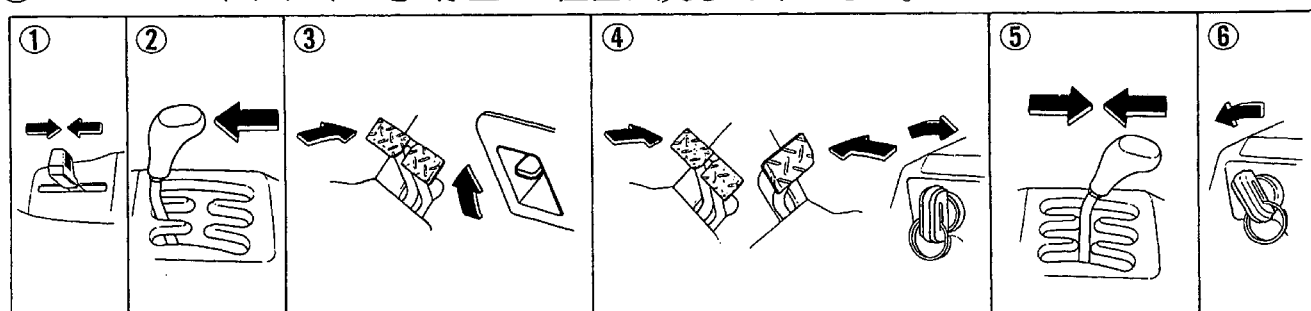
①P.T.O軸変速レバーを〝中立〟の位置にしてください。

②主変速レバーを〝1速〟または〝2速〟の低速位置にしてください。

③ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキを解除してください。

④ブレーキペダルを踏んだままでエンジンスイッチを〝始動〟の位置にし、エンジンが始動しないことを確認してください。

⑤主変速レバーを〝中立〟の位置にしてください。

⑥エンジンスイッチキーを〝停止〟の位置に戻してください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回50時間目、以後：100時間運転毎又は１年毎

推奨オイル：クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用)D30又はD10W30

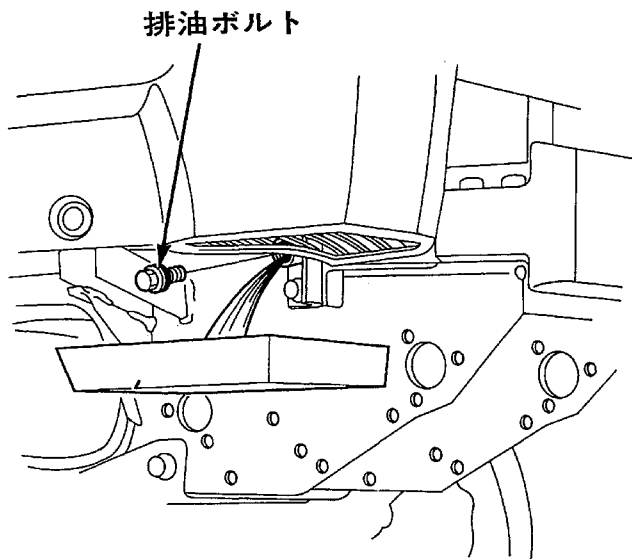
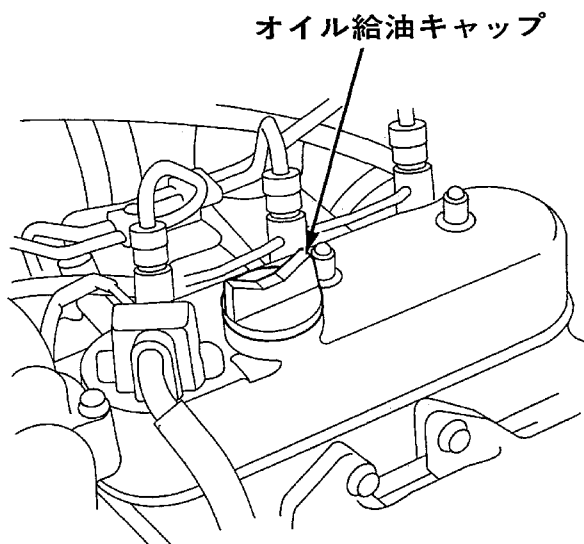
取扱いのポイント

メーカーの異なるオイルを混入しないでください。

・エンジンオイルフィルタの交換は販売店・農協にご相談ください。

《規定量》 2.3ℓ（オイルフィルタ交換時2.6ℓ）

オイル給油キャップ、排油ボルトを外して、オイルを抜いてください。抜き終わりましたら排油ボルトを確実に締付けして、新しいオイルを規定量入れてください。（47頁参照）

オイル給油キャップを確実に締めてください。

燃料ろ過器(フューエルフィルタ)の清掃、エレメントの交換

ろ過器内の水、ゴミを清掃し、エレメントを点検、交換してください。

《清掃時期》 100時間運転毎

《エレメントの交換》 400時間運転毎

1.ボンネットを開け、燃料ろ過器の燃料コックを〝閉〟の位置にしてください。

2.ろ過カップ上部のリングを回して、ろ過カップとエレメントを外します。

3.ろ過カップにたまった水やゴミを軽油で洗浄してください。

4.エレメントが汚れている場合は、軽油で洗ってください。
損傷、汚れのひどい場合は交換してください。

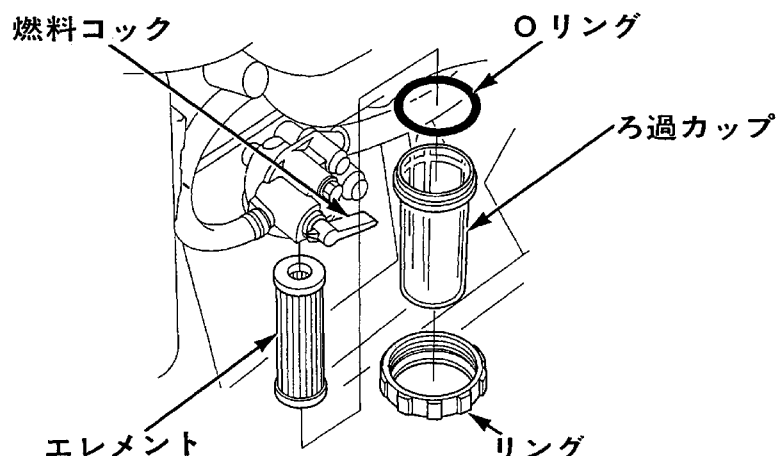
5.エレメント、Oリング、ろ過カップを正しく取付け、リングをまわして確実に締めてください。

6.エア抜きを行ってください。(54頁参照)

⚠警告

ディーゼル用燃料は非常に引火しやすく、火災を引き起こすことがあります。
ろ過カップの清掃、エレメントの点検は、
- **エンジンを停止してください。**
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近付けないでください。**
- **ディーゼル用燃料はこぼさないように入れてください。万一こぼれたときは、布切れなどで完全にふき取り、火災や環境に注意して処分してください。**

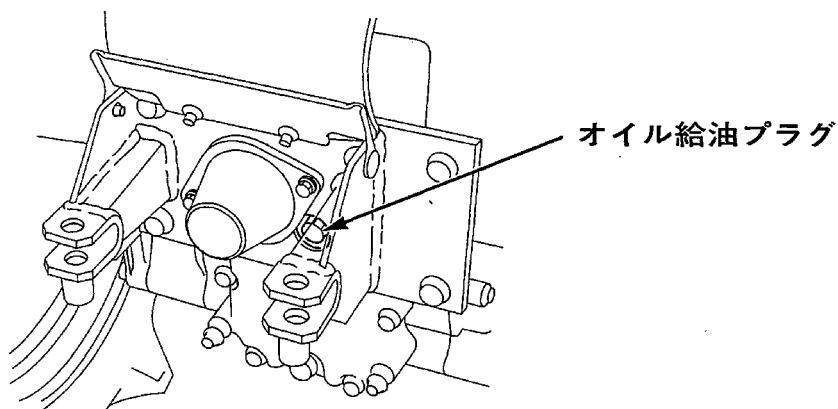
取扱いのポイント

- **取付けるときは、ろ過カップの中にゴミやホコリが入らないように注意してください。**
- **洗浄後燃料もれのないことを確認してください。**

変速機オイルの点検

変速機オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。点検時期、オイル容量を守りましょう。

・本機を水平にして作業してください。

《**点検時期**》100時間運転毎

《**点　　検**》オイル給油プラグを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。少ない場合は、注入口の口元から少したれるまで補給してください。

推奨オイル：クボタ純オイル　スーパーUDT又はUDT

取扱いのポイント

オイル給油プラグは確実に締付けてください。ゆるいとオイルが洩れることがあります。

ブレーキペダルの調整

ブレーキペダルの遊びが規定値になっているか確認し(52頁参照)規定値になっていないときは調整を行ってください。

《調整時期》 初回20時間目、以後300時間毎又は１年毎

《調整方法》

1.駐車ブレーキを解除します。

2.ロックナットをゆるめ、ターンバックルを回して、ペダルの遊びが25mmになるように左右のブレーキを調整します。

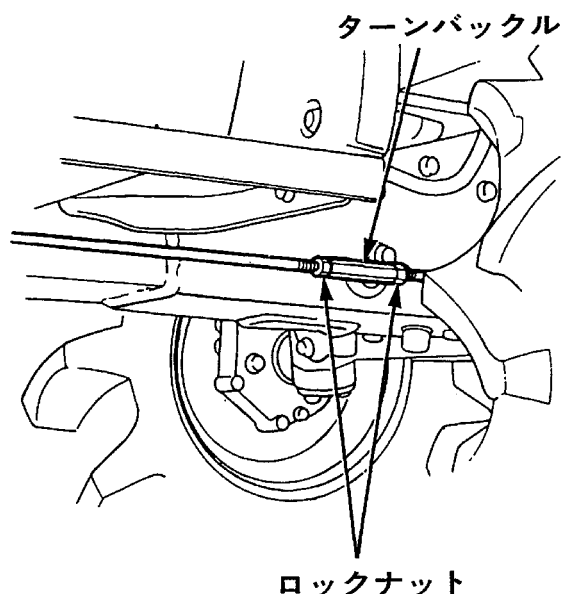
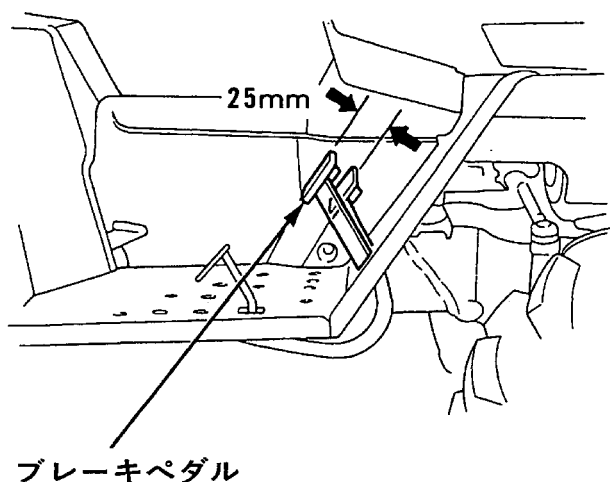
3.調整後ロックナットを確実に締め付けます。

4.ブレーキペダルを踏み込んで、駐車ブレーキが確実にロックすることを確認してください。

5.調整後、ゆっくり走行して、ブレーキの片ぎきがないか確認してください。

⚠警告

左右のペダルの遊びが同じになるように調整してください。左右の遊びがそろっていないとブレーキが片ぎきとなり、転倒や衝突するおそれがあります。

・ターンバックルの調整で遊びの調整ができなくなったらブレーキシューの交換時期です。お買いあげ販売店・農協へご相談ください。

ラジエータスクリーン・コラムスクリーンの清掃

《**清掃時期**》50時間運転毎

・ホコリ等の多い所で使用した場合は作業にあわせ１日１回または数時間ごとに行ってください。

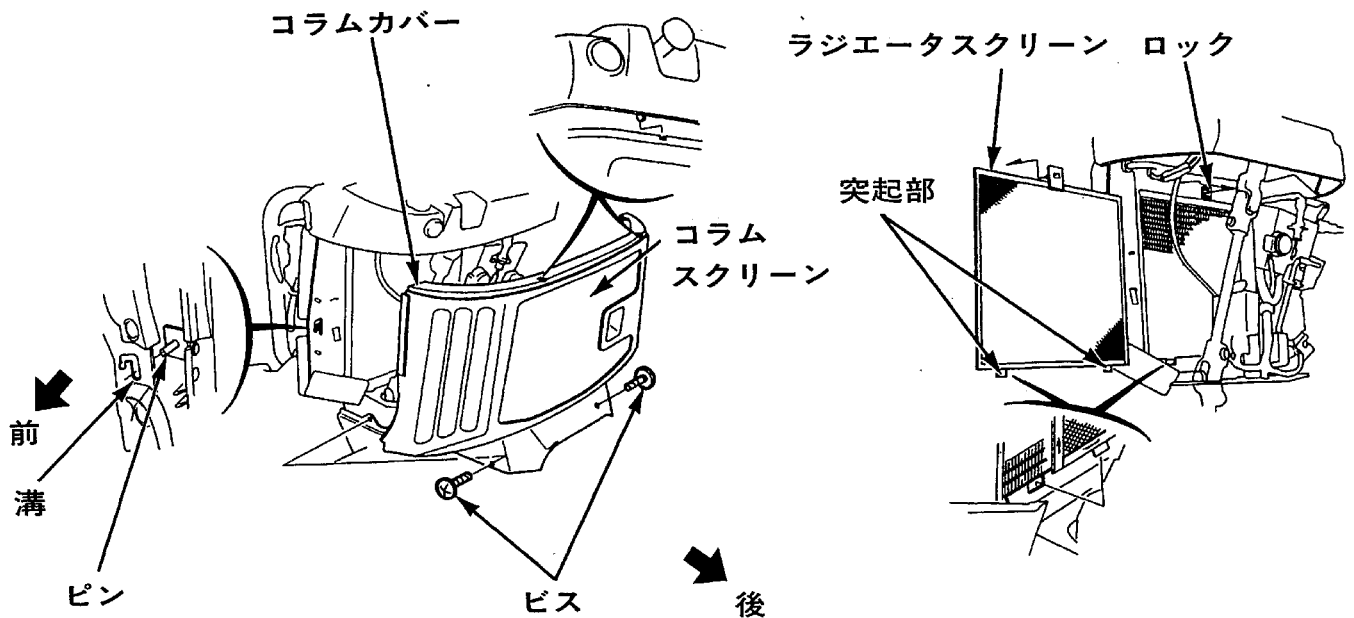
《**清掃方法**》

1.ビス２本を外し、コラムカバーを少し持ち上げて、ピンを溝から外します。

2.コラムカバーを手前に引き、本機から外します。

3.ラジエータスクリーンを手前に引き、上部のロックを外します。

4.ラジエータスクリーンを持ち上げて、突起部を溝から外し、取出します。

5.ラジエータスクリーンとコラムスクリーンの汚れ、ゴミを取除いてください。

清掃が終わったら、逆の手順で組付けます。

・ラジエータスクリーンを組付ける時は、突起部、ロックを元の位置に合わせて組付けてください。

・コラムスクリーンを組付ける時は、コラムカバーのピンを本機側の溝に合わせて組付けてください。

・コラムカバーを２本のビスで本機に確実に取付けてください。

空気清浄器(エアクリーナ)・バキュエータバルブの清掃・交換

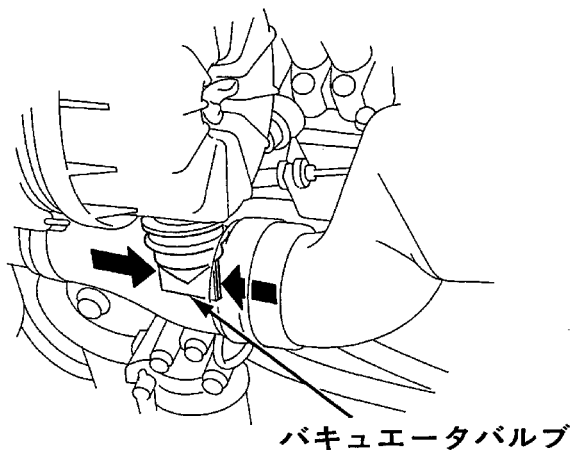
空気清浄器(エアクリーナ)が目詰りすると出力不足や燃料消費量が多くなるので定期的点検・清掃・交換を行ってください。

《清掃時期》　100時間運転毎

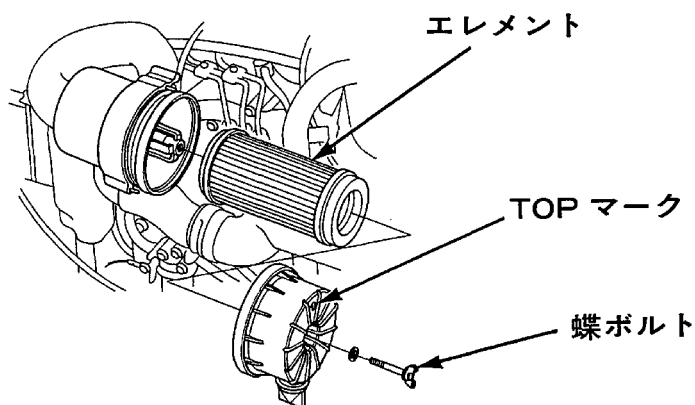
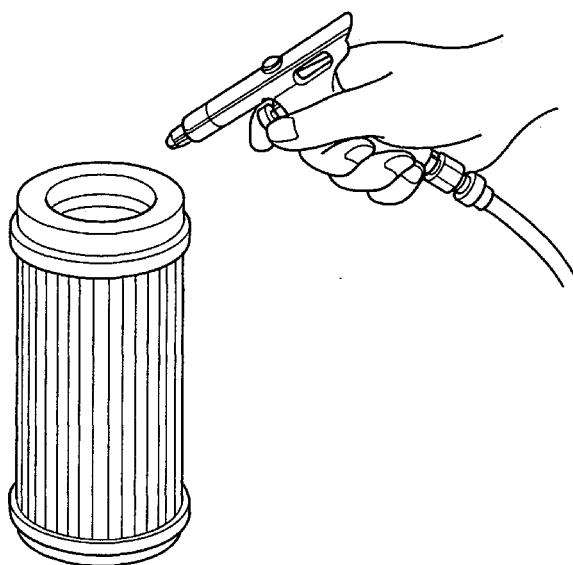
・ホコリ等の多い所で使用した場合は、作業にあわせ1日1回または数時間ごとに行ってください。

バキュエータバルブ

《清掃方法》

バキュエータバルブを指でつまみ、先端を開き、ゴミを取除いてください。水分があるときは、エアクリーナを清掃してください。

空気清浄器

《清掃方法》

1.空気清浄器カバーの蝶ボルトを取外し、カバーを外します。

2.エレメントの清掃はエレメントの内側から空気を吹き付けるか、又は手で軽く振ってゴミを取除いてください。

《**交換時期**》1年毎、または、6回清掃毎

・交換時期前でも汚れがひどい場合やエレメントが損傷している場合は、新品と交換してください。
・組付けるときは、カバーの⇧(TOP)マークが上になるように取付けてください。

取扱いのポイント

- **空気清浄器カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動で、カバーが外れることがあります。**
- **空気清浄器カバーやエレメントを装備しなかったり、正しく取付けられていないとエンジンに悪影響を与えます。**

バッテリ液量、端子の点検

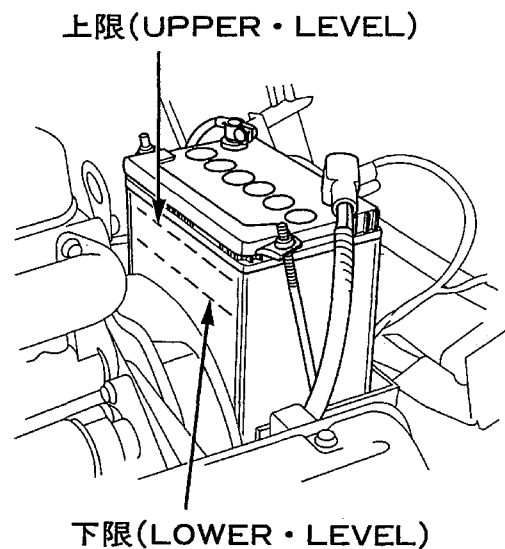
《**点検時期**》50時間運転毎

バッテリの液面が各槽とも**上限**(UPPER・LEVEL)と**下限**(LOWER・LEVEL)の間にあるか点検してください。

《**補　　給**》

少ないときはキャップを外し、バッテリ補充液(蒸留水)を上限(UPPER・LEVEL)まで補給します。

⚠警告

- **バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限(UPPER・LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼした時には、必ず水洗いをしてください。**
- **バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。**
- **バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診療を受けてください。**
- **他の用途には使用しないでください。**
- **充電は換気に十分注意し、換気の悪い場所で、行わないでください。**
- **バッテリの充電をするときは、バッテリのキャップをすべて外してください。**

《バッテリの取外し》

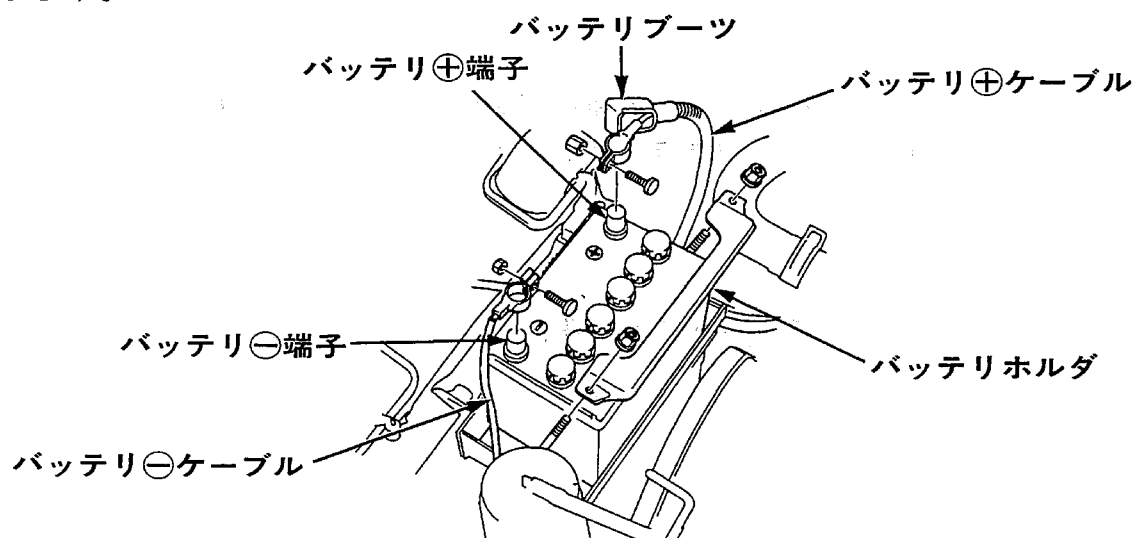
1.ボンネットを開けます。(46頁参照)

2.バッテリホルダを取外します。

3.バッテリマイナス⊖ケーブルを外します。

4.バッテリプラス⊕ケーブルを外します。

5.バッテリを外します。

《バッテリの取付け》

1.バッテリを元の位置にセットします。

2.バッテリプラス⊕ケーブルをプラス⊕端子に接続し、ナットを締付けます。
バッテリブーツをプラス⊕端子にかぶせます。

3.バッテリマイナス⊖ケーブルをマイナス⊖端子に接続し、ナットを締付けます。

4.バッテリホルダを取付けます。

5.ボンネットを閉めます。(46頁参照)

《端子の手入れ》

端子のゆるみ、腐蝕は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは締めつけてください。端子に白い粉がついているときは、お湯で清掃し、接続後グリースを塗布してください。

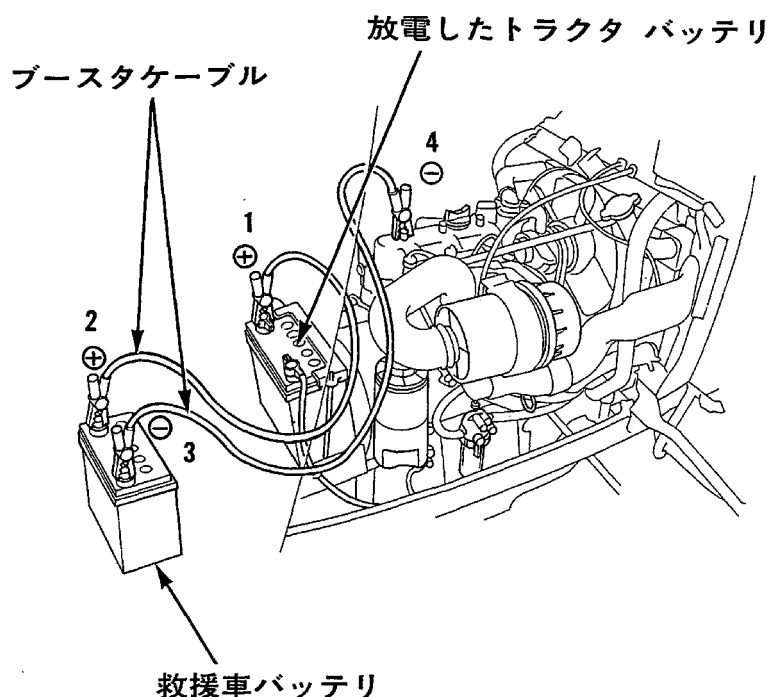
《バッテリあがりのとき》

放電したバッテリに他のバッテリを接続してエンジンを始動する場合は、プラス⊕極とマイナス⊖極を間違えないよう注意してください。

1.ブースターケーブルを図の番号順で接続します。

・バッテリのプラス⊕端子同士を接続します。

・マイナス⊖ケーブルの他端(4)の接続位置は、バッテリから離れたエンジン本体に接続します。

・マイナス⊖ケーブルの他端(4)を直接バッテリのマイナス⊖端子に接続すると、バッテリから発生する可燃性ガスに引火する危険があります。

2.救援側の車を始動し、少しエンジン回転を高めに保ちます。

3.トラクタのエンジンを始動します。

4.ブースターケーブルを接続順序の逆で外します。

・救援車は、必ず12Vバッテリ車を使用してください。

・ケーブル接続の際には、プラス⊕端子とマイナス⊖端子を絶対に接触させないでください。

⚠注意

指、ケーブルなどがファン、ファンベルトなどに巻き込まれないように注意してください。

ヒューズの交換

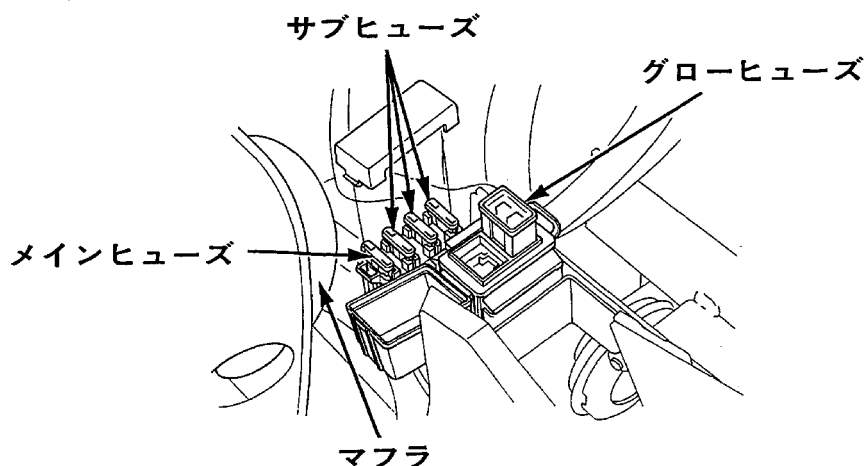
ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。

⚠警告

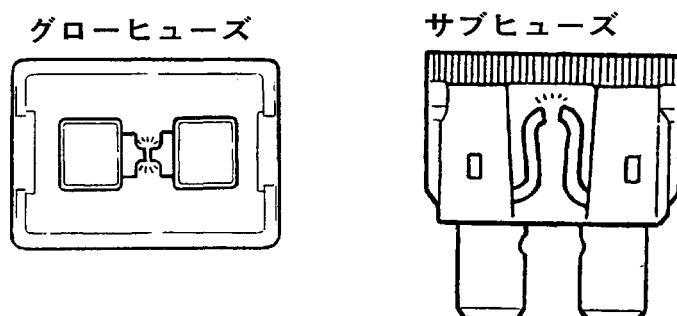
指定ヒューズ以外のもの、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線コードなどを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。火災を引き起こすことがあります。

取扱いのポイント

運転停止直後は、マフラが熱くなっています。ヒューズの交換はマフラが冷えてから行ってください。

メインヒューズ、サブヒューズ、グローヒューズは、バッテリの横にあります。

メインヒューズ(規定容量)		サブヒューズ(規定容量)		グローヒューズ(規定容量)	
主回路	：20A	前照灯	：7.5A	グロー回路	：30A
		充電回路	：7.5A		
		予備電源	：7.5A		

《点検・交換》

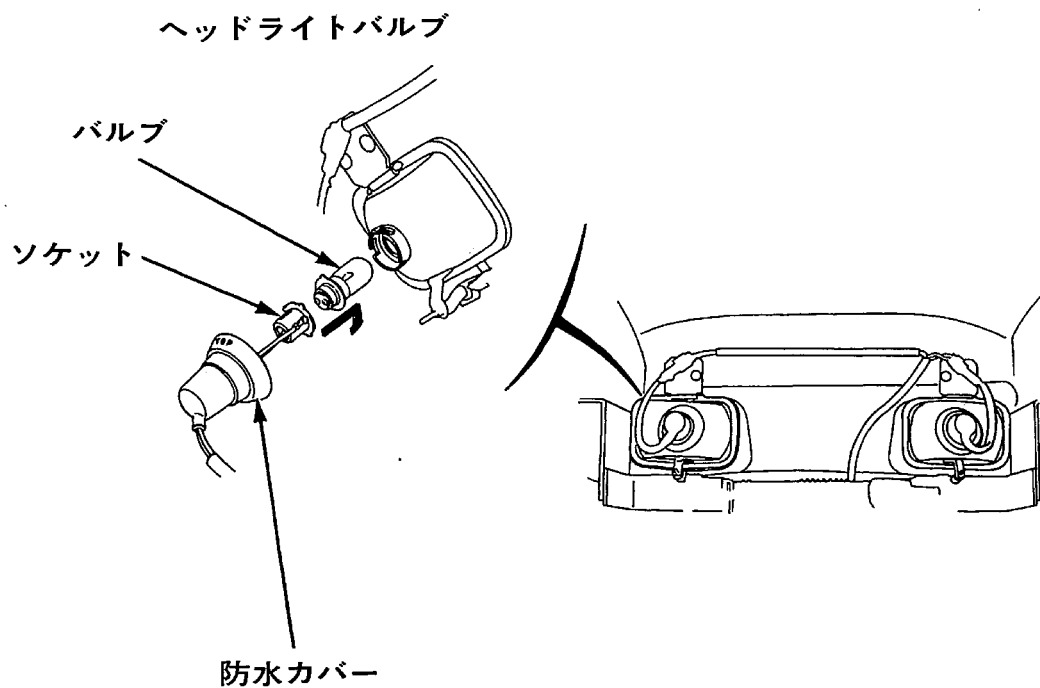
下図のようにヒューズが切れていないか点検してください。切れていたら新しいヒューズと交換してください。

ヘッドライトバルブの交換

交換方法

取外し

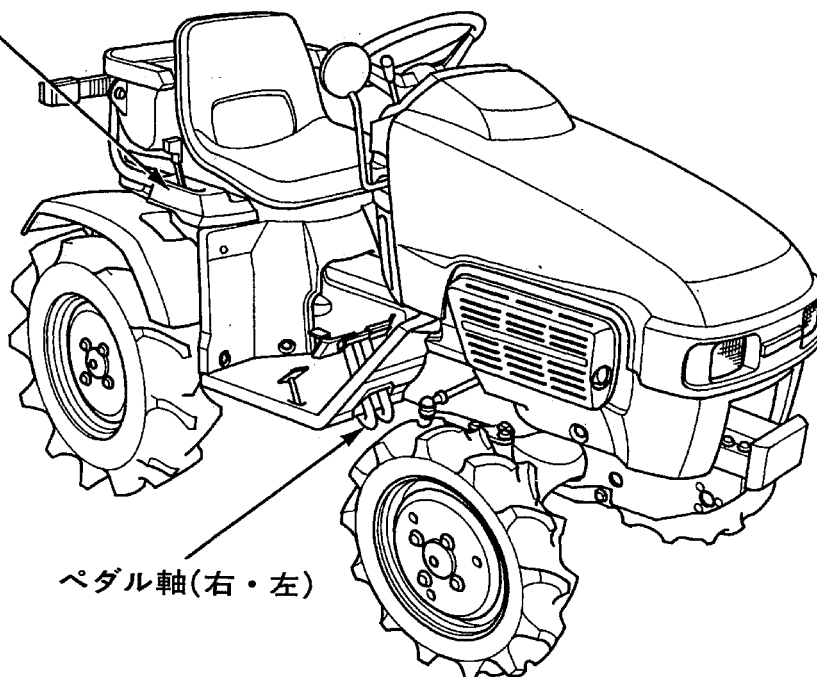
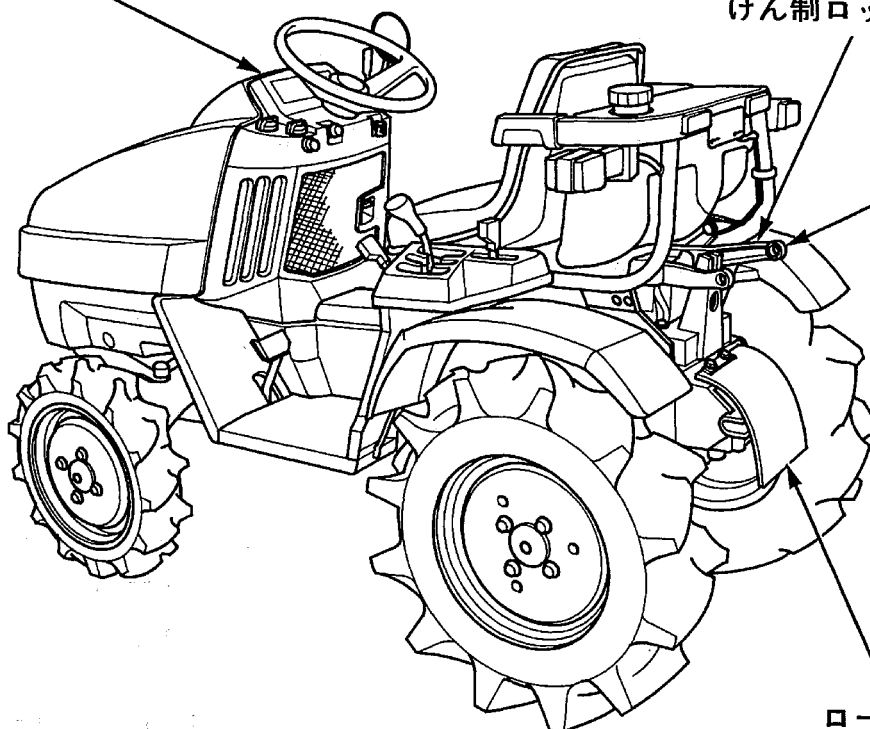
ボンネットを開け、ヘッドライトソケットの防水カバーを引き上げます。
ヘッドライトソケットを押しながら左の方向に回し、バルブを取出します。

取付け

ソケットの突起をケースの溝に合わせ、押しながら右の方向に回してください。ヘッドライトソケットに、防水カバーをかぶせます。
ヘッドライトバルブ(規定容量)：12V 25/25W

各部のゆるみ点検、増締め、各部のグリス塗布

《**点検時期**》300時間運転毎又は１年１回

・各部のゆるみを点検してください。もしゆるんでいましたら確実に締付けを行ってください。

・給油およびグリス塗布箇所

故 障 の と き は

本機の調子が悪いときは下記の項目を点検し、処置をしてください。

処置をとっても、直らない場合はむやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店・農協で点検整備をお受けください。

1.スタータが回転しないときは

- クラッチペダルを踏み込んでいますか →クラッチペダルを完全に踏み込んでから、エンジンスイッチを〝始動〟にしてください。
- バッテリ端子部がゆるんでいたり腐蝕していませんか。 →端子部を清掃し、確実に取付けてください。(83頁参照)
- ヒューズが切れていませんか。 →新しいヒューズと交換してください。(85頁参照)
- バッテリが放電していませんか。 →バッテリを充電してください。

2.スタータが回転してもエンジンが始動しないときは

- 燃料はありますか →補給してください。(53頁参照)
- エンジンストップノブを引いていませんか。 →エンジンストップノブを押し込んでください。(57頁参照)
- 燃料ろ過器(フューエルフィルタ)が汚れていませんか。 →燃料ろ過器(フューエルフィルタ)を清掃または交換してください。(76頁参照)
- 燃料系統にエアが混入していませんか →エア抜き操作をしてください。(54頁参照)
- 始動手順が間違っていませんか →正しい始動手順でやり通してください。(57頁参照)

3.エンジンの力が出ないときは

- 空気清浄器(エアクリーナ)のエレメントが目づまりしていませんか →エレメントを清掃してください。(80頁参照)

4.灯光装置が点灯しないときは

- エンジンスイッチが〝運転〟の位置になっていますか →エンジンスイッチを〝運転〟にしてください。
- バルブ(電球)が切れていませんか →新しい電球と交換してください。
- ヒューズが切れていませんか →新しいヒューズと交換してください。(85頁参照)

5.警音器(ホーン)が鳴らないときには、

- ヒューズが切れていませんか →新しいヒューズと交換してください。(85頁参照)
- エンジン スイッチが〝運転〟の位置になっていますか →エンジン スイッチを確認してください。

6.アタッチメント(ロータリ)が上げ下げできないときは

- 下降速度調整ノブは開いてますか →下降速度調整ノブを開き速度を調整してください。速度調整は下降のみできます。(42頁参照)
- リフトレバーが〝中立〟になっていませんか →リフトレバーを作業に合わせて操作してください。
- 油圧用オイルは入っていますか →オイルを規定量入れてください。(55頁参照)

7.充電警告灯がエンジン始動後も消灯しないときは

・配線の破損、ショートなどがありませんか　→お買いあげ販売店・農協へお申し付けください。

8.エンジン オイル警告灯がエンジン始動後も消灯しないときは

・オイルは規定量入っていますか　→オイルを補給してください。(47頁参照)

9.走行中にブザーが鳴ったときは

・駐車ブレーキが解除されていますか　→解除してください。

・水温警告灯が点灯していますか　→オーバヒートの恐れがあります。下記14項に従って処置を行ってください。

10.ブレーキが片効きするときは

・各タイヤの空気圧が不均等ではありませんか　→各タイヤの空気圧を規定値にしてください。(46頁参照)

・ブレーキペダルの遊び量が左右とも同じですか　→左右とも規定の遊び量にしてください。(78頁参照)

・ブレーキペダル左右セット(連結)してありますか　→左右セット(連結)してください。

11.ハンドルが重いときは

・各タイヤの空気圧が不足していませんか　→各タイヤの空気圧を規定値にしてください。(46頁参照)

12.ハンドルが取られるときは

・各タイヤの空気圧が不均等ではありませんか　→各タイヤの空気圧を規定値にしてください。(46頁参照)

・ブレーキ ペダルの遊びが左右とも規定の遊びになっていますか　→左右とも規定の遊び量にしてください。(78頁参照)

13.クラッチがすべるときは

・クラッチ ペダルの遊びは適切ですか　→お買いあげ販売店・農協へお申し付けください。

14.エンジンがオーバヒートしたときは

本機を安全な場所に止め、エンジンを低回転で運転したままボンネットを開け冷やしてください。ファン、ファンベルトにさわらないでください。

⚠注意

回転物に巻き込まれる危険があります。

約5分間程度でエンジンを停止してください。

十分にエンジンが冷えてから、冷却水の量、もれ、コラムスクリーン、ラジエータスクリーンのゴミ詰り、ファンベルトのゆるみを点検してください。

故障の修理

お買いあげ販売店・農協へお申しつけください。

主　要　諸　元

項目			諸元
形式			A-30
駆動方式			四輪駆動
機体寸法	全長 (mm)		2010
	全幅 (mm)		965
	全高 (mm)		1250
	軸距 (mm)		1195
	輪距	前輪(mm)	790
		後輪(mm)	760
最低地上高(mm)			275
重量(kg)			460
エンジン	名称		クボタD662(-1B-HM)
	形式		水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル(E-TVCS)
	排気量(cc)		656
	出力/回転速度(PS/rpm)		13.0/2,500
	使用燃料		クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油
	燃料タンク容量(L)		13
	始動方式		セルモータ式
	バッテリ		12V、35Ah(メンテナンスフリー)
タイヤ	前輪		4.00—12
	後輪		7—14
車体	クラッチ方式		湿式多板
	制動装置		内部拡張式(乾式)
	かじ取り方式		ピニオン&セクタギヤ
	差動方式		傘歯車式(デフロック付き)
	変速方式		選択かみあい式
変速段数(段)			前進8段、後進4段
走行速度(km/h)	前進		0.7〜11.6
	後進		0.8〜2.8
最小回転半径(m)(ブレーキ使用時)			1.75
PTO	変速段数(段)		2
	回転速度(rpm)		551、1060/2800、492、946/2500
	軸寸法(mm)		JIS35
作業機昇降装置	制御方式		手動コントロール
	装着方式		2点リンク
安全鑑定番号			19022
型式認定番号			農1930

※・諸元は改良のため予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

エンジン回転速度2,800rpm時（※は3,000rpm時）

		副変速	主変速	Km/h
走行速度	前進	低	1	0.7
			3	1.5
			5	3.3
			7	6.9
		高	2	1.1
			4	2.4
			6	5.2
			8	※11.6
	後進	低	1	0.8
			3	1.8
		高	2	1.3
			4	2.8

推奨オイル・グリース一覧表

■エンジンオイル・ミッションオイル・ギヤオイル

メーカ	エンジンオイル	ミッションオイル
日本石油	（ディーゼルエンジン用） D30又はD10W30	UDT 又はスーパーUDT
コスモ石油		
日鉱共石		
昭和シェル石油		
富士興産		

■グリース

メーカ	シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日本石油	エピノックグリースAPNo.2	PAN WBグリース
コスモ石油	ダイナマックスEPNo.2	ロードマスターNo.2
ジャパンエナジー	リゾニックスグリースEPNo.2	リゾニックスグリースNo.2
昭和シェル石油	レチナックスCD	サンライトグリースNo.2
モービル石油	プレックス47	モービルグリースJL
エッソ石油	ジャーシグリースL	リスタンWB2
出光興産	シャーシグリース	アポロイルオートレックスA
三菱石油	シャーシグリースNo.2	ホイルベアリングHDグリースNo.2
ゼネラル石油	シャーシグリースNo.2	WBグリースNo.2
キグナス石油	シャーシグリースNo.2	MPグリースNo.2

6H010-6252-1最終頁

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後12年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

株式会社クボタ

		〒	電	
本　　　　　社	大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	〒556	電(06)	648-2111
東　京　本　社	東京都中央区日本橋室町3丁目1番3号	〒103	電(03)	3245-3111
北　海　道　支　社	札幌市中央区北3条西3丁目1番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東　北　支　社	仙台市青葉区本町2丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中　部　支　社	名古屋市中村区名駅3丁目22番8号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九　州　支　社	福岡市博多区博多駅前3丁目2番8号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札　幌　支　店	札幌市西区西町北16丁目1番1号	〒063	電(011)	662-2121
仙　台　支　店	名取市田高字原182番地の1	〒981-12	電(022)	384-5151
東　京　支　店	浦和市西堀5丁目2番36号	〒338	電(048)	862-1121
大　阪　支　店	大阪府堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号	〒590	電(0722)	41-8506
岡　山　支　店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福　岡　支　店	福岡市東区和白丘2丁目2番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺　製　造　所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇　都　宮　工　場	宇都宮市平出工業団地22番地2	〒321	電(0286)	61-1111
筑　波　工　場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)	5112
枚　方　製　造　所	枚方市中宮大池1丁目1番1号	〒573	電(0720)	40-1121
堺部品センター	堺市築港新町3丁8番	〒592	電(0722)	45-8601
宇都宮部品センター	宇都宮市平出工業団地38-16	〒321	電(0286)	63-6336
筑波部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)	2293
枚方部品センター	枚方市中宮大池1丁目1番1号	〒573	電(0720)	40-1797
北海道部品センター	北海道札幌郡広島町大曲工業団地3丁目1番地	〒061-12	電(011)	376-2335
株式会社クボタアグリ東北				
秋　田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙　台事業所	宮城県名取市田高字原182-1	〒981-12	電(022)	384-5151
株式会社クボタアグリ東京				
東　京事業所	浦和市西堀5-2-36	〒338	電(048)	862-1121
新　潟事業所	新潟市上所上1-14-15	〒950	電(025)	285-1261
株式会社クボタアグリ大阪				
金　沢事業所	石川県松任市下柏野町956-1	〒924	電(0762)	75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町1-1	〒491	電(0586)	24-5111
大　阪事業所	大阪府堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号	〒590	電(0722)	41-8550
株式会社クボタアグリ中四国				
米　子事業所	米子市米原7丁目1番1号	〒683	電(0859)	33-5011
岡　山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862)	79-4511
高　松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3	〒769-01	電(0878)	74-5091
株式会社クボタアグリ九州				
福　岡事業所	福岡市東区和白丘2-2-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊　本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1	〒861-41	電(096)	357-6181

30752K01
00X30-752-K010

品番 6H010-6252-1